

第4回「SNS東京ノート」効果測定および ネット利用実態把握調査

調査結果

一般財団法人 LINE未来財団

2020/11

◆目次

◆調査概要

◆はじめに

◆本調査結果の要点

◆結果詳細

1. ケータイ/スマホの保有状況と利用実態
2. ネットリテラシーの程度とネットトラブル対策
3. ネット上での友だちとのやりとりや写真利用に対する意識
4. ネット上でのネガティブな経験と相談相手
5. SNS東京ノートを使った授業 気づき有無別分析
6. SNS東京ノートを使った授業 教材の分類と意味付け

◆Appendix

1. ネット/ゲームの利用に対する意識・経験
2. 家庭でのネット/ゲーム機使用に関するルールについて
3. SNS東京ノートを使った授業の受講状況と評価
4. SNS東京ノートを使った情報モラル教育の実施状況と評価 <教員回答>

| 項目 | 詳細 |
|---------|--|
| 調査目的 | <ul style="list-style-type: none"> 小学校から高校までの児童・生徒の、インターネットの利用実態を把握する 「SNS東京ノート」を活用した授業実施の効果を把握する |
| 調査手法 | 郵送調査 |
| 調査対象者 | 東京都の令和元年度情報教育推進校12校の教員／児童・生徒 |
| 最終有効回答数 | 教員：162s / 児童・生徒：4,111s |
| 質問数 | 教員：13問／小1～2：17問／小3～4：19問／小5～6：22問／中学：23問／高校：24問 |
| 調査日時 | 2019年11月～12月 |
| 調査主体 | LINE株式会社 LINEみらい財団※ |
| 備考 | <p>n=100未満は「少数サンプル」、n=30未満は「不十分サンプル」のため参考値 n=20未満の生徒の数値は非表示（※学校全体の値のみ特例として表示） ※資料中の数値は、小数点第一位を四捨五入し整数表記</p> |

※ 2020年4月より、LINE株式会社からLINEみらい財団に調査主体が移管

◆ 調査概要 (2/3)

| 項目 | 詳細 |
|----------------|--|
| 主な質問項目 (生徒) | <ul style="list-style-type: none"> • ケータイ/スマホ保有状況 • 平日のケータイ/スマホ利用時間 • 平日のゲーム機利用時間 • 週に1回以上見たり開いたりしているインターネットを利用するサービスやアプリ • クラスの友達からされて「いやだな」と感じる事 • ネット上に写真を公開したり、メールやメッセージで写真を送ったりするときに気をつけていること • 写真や動画をネットに公開した経験 • 家庭におけるネット/ゲーム機利用に関するルールの有無 • 家庭におけるネット/ゲーム機利用に関するルールの遵守状況 • 2019年の4月以降、ネット/ゲーム機を利用して思ったり経験したりしたこと • 2019年の4月以降、クラス内で見聞きしたこと • インターネットサービスを使って、嫌な思いや怖い思いをした経験とそのときの相談相手 • SNS東京ノートを使った授業の受講有無 • SNS東京ノートの学習した内容 • SNS東京ノートを使った学習による「新しい気づき」の有無 • SNS東京ノートについて家族と話をしたか • SNS東京ノートを使った学習に対する感想 • SNS東京ノートを使った話し合いをした後の態度 <p style="text-align: right;">など</p> |
| 主な質問項目 (教員) | <ul style="list-style-type: none"> • 情報モラル教育を担当している学年 • 2018年度、「SNS東京ノート」を使用して情報モラル教育を実施した回数 • 2019年度、「SNS東京ノート」を使用して情報モラル教育を実施した回数 • 「SNS東京ノート」を使用した情報モラル教育を実施した教科 • 外部の企業/団体/機関への情報モラル教育の依頼有無 & 依頼回数 • 情報モラル教育を依頼した外部機関 • 実施した「SNS東京ノート」の単元 • 「SNS東京ノート」を使用した授業に対する評価 • 「SNS東京ノート」に対する評価 <p>など</p> |

| 学校 | 教員 | 児童・生徒計 | 小1 | 小2 | 小3 | 小4 | 小5 | 小6 | 中1 | 中2 | 中3 | 高1 | 高2 | 高3 | 高4 | 不明 |
|-------|-----|--------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|-----|-----|----|----|
| 小学校計 | 48 | 1,164 | 204 | 162 | 209 | 211 | 202 | 165 | | | | | | | | 11 |
| 中学校計 | 39 | 816 | | | | | | | 260 | 259 | 291 | | | | | 6 |
| 高校計 | 13 | 1,969 | | | | | | | | | | 1,008 | 500 | 452 | 1 | 8 |
| 特別支援計 | 62 | 162 | 0 | 1 | 1 | 2 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 51 | 57 | 49 | 0 | 0 |
| 総計 | 162 | 4,111 | 204 | 163 | 210 | 213 | 202 | 165 | 260 | 260 | 291 | 1,059 | 557 | 501 | 1 | 25 |

※回答ベース

◆はじめに

エビデンスに基づいて、子どもたちの学習を支援する

上記はLINEみらい財団が情報モラル教育を実践するひとつの指針となります。

本報告書はそのエビデンスの核となるものであり、おかげさまで昨年度に続きリリースすることができました。東京都教育委員会のご担当者をはじめ、アンケート調査に賛同をいただいた東京都内の小中高特別支援学校12校の先生方、そしてアンケートに真摯に向き合って回答いただいた児童・生徒のみなさまにはこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

LINE株式会社は、2016年3月30日に東京都教育委員会と、児童・生徒の情報リテラシー・情報モラルの向上およびコミュニケーショントラブルを防止することなどを目的として、「SNS東京ルール」共同研究プロジェクトの実施にかかる協定を締結いたしました。

そして、2017年3月に情報モラル教育教材「SNS東京ノート」を共同開発し、更新を重ねながら都内公立学校の全児童・生徒向けに配布しています。

情報モラル教育は、道徳や倫理にまつわる人格育成の領域からインターネットの技術やビジネスモデル、法律・セキュリティといった専門分野まで広範に及ぶことから、学校現場での実践にあたっては一部難しさも存在します。そこで、先生方の負担を軽減し、児童・生徒のより良い学びにつなげるために、授業実践の程度・評価および学習効果に関する測定を毎年実施しています。そしてその結果を次年度以降のSNS東京ノートに反映しています。

本調査では、ケータイ・スマホの保有率やネットやゲームの利用時間、写真等のネットへの投稿経験といった利用実態面の他、今回は、新たに児童・生徒のネットリテラシーの程度やネットトラブル対策状況といった予防的側面、さらには、ネット上でのコミュニケーションや写真公開に対する考え・心情といった内面的側面についても確認しています。そしてそれらがSNS東京ノートを使用後、どのように変容するかも検証いたしました。本報告書が情報モラル教育に関わる方々の一助となれば幸いです。

平成の時代が終わり、令和という新しい時代に入りました。

少子高齢化にともなう社会構造の変化やAI、IoTなどの言葉に象徴される超情報化社会の到来を目の前にして、我々大人は子どもたちのために、次なる社会を生き抜く資質・能力を育成するための教育環境を整備する責務があります。そして2020年は、新型コロナウイルスの影響やGIGAスクール構想による1人1台端末や通信ネットワーク環境等の整備の進展により、学校現場での学び方が変わる契機の年となるでしょう。それゆえ今後は情報モラル教育の必要性が更に高まり、その手法や内容も変容することが予想されます。

LINEみらい財団は、コミュニケーションを通じて社会課題の解決と新たな社会価値の創造に取り組む一環として、インターネットを子どもたちが賢く適切に使えるように、今後も情報モラル教育の推進に尽力してまいります。

◆本調査結果の要点 1-①

本調査で新たに確認・検証をした主な項目は以下となります。
 その中で特徴的なデータをご紹介します。

- ※ 記載ページ数は本報告書のものです。
- ※ 詳細に関しては、本報告書をご参照ください。

1. 学習の効果

- ① 教材の分類と意味付け (P54~58)
- ② 新しい気づきの有無と児童生徒の知識・意識やネットトラブル対策の関係 (P44~53)

2. 知識・意識

- ① 児童・生徒のネットリテラシーの程度 (P24~28)
- ② 児童・生徒のネットコミュニケーションや写真利用に対する意識 (P31~37)

3. 利用実態

- ① 児童・生徒が週1回以上見たり開いたりするサービス/アプリ (P19~22)
- ② 児童・生徒が実施しているネットトラブル対策 (P29~30)

1. 学習の効果

- ① 教材の分類と意味付け (P54~58)

本教材は、発達段階に応じて様々な教材を掲載していますが、児童・生徒が本教材を使った話し合いをした後の意識に関するアンケート回答内容をベースに、教材の「分類」と「意味付け」の分析を行いました。この分析は、児童・生徒の意識から教材を分類・意味付けすることで、今後の教材開発や学校現場での効果的な授業実践の一助となることを目指すものです。

まず教材の「分類」に関しては、図1左の教材を活用した児童・生徒が、授業実施後の意識に関して図1中央のアンケート項目からあてはまるものを選択します。その回答データを分析(クラスター分析)したところ、中学生と高校生においては、図1右のとおり、それぞれ2つのグループ(中学生→A,B 高校生→C,D)が形成されました。

次に、教材の2つのグループの「意味付け」について、先行研究で提唱されている情報モラル教育の考え方の枠組みにおける4つの判断観点(「法律違反」「他人への迷惑」「自分への被害」「情報技術」)を用いて検討しました。検討の結果、表1のとおり、中学生においても高校生においても、教材の二つのグループのうちの片方(中学生:B、高校生:C)はおもに「他人への迷惑」の判断観点に関連しており、もう片方(中学生:A、高校生:D)はおもに「自分への被害」の判断観点に関連している、という「意味付け」を行うことができました。これより、中高生は情報モラルに関して、「他人への迷惑」と「自分への被害」の二つの判断観点を有していることが示唆されました(※)。

以上のとおり、中高生が、「他人への迷惑」および「自分への被害」の二つの判断観点を有している可能性を考慮することは、本教材等の情報モラル教材の開発や運用を効果的に実施するうえで有効と思われます。

※中高生がアンケート回答時にこれら二つの判断観点を明確に意識していたとは限りません。無意識のうちに、あたかもこれら二つの判断観点を有しているかのように反応していた可能性も考えられます。

◆本調査結果の要点 1-① (図1)

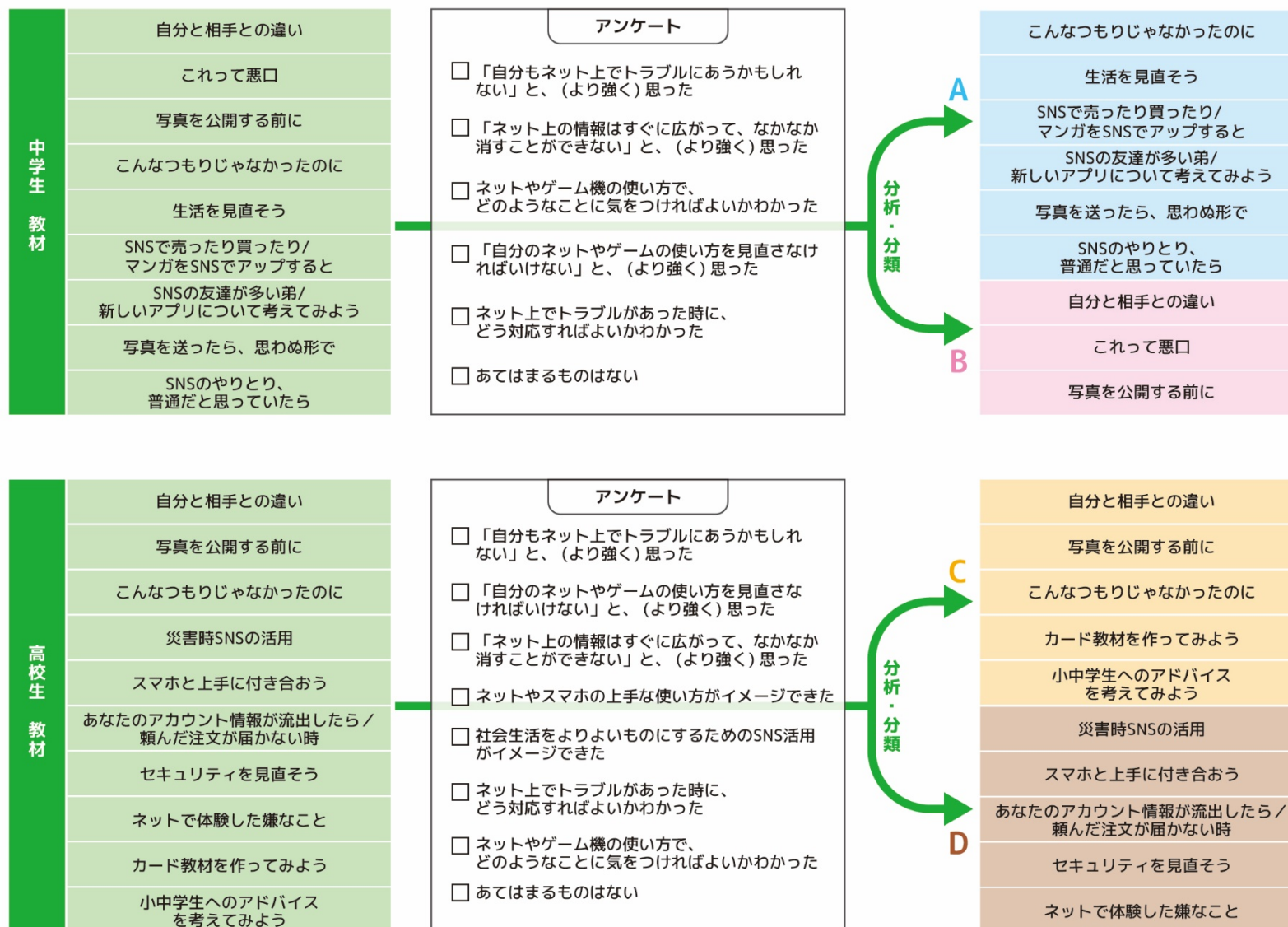


図1 中高生の回答データから見る教材の分類

◆本調査結果の要点 1-① (表1)

表1 教材の意味付け

| | 中学生 | 高校生 |
|--------|---|--|
| 他人への迷惑 | <p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ●これって悪口* ●写真を公開する前に* ●自分と相手との違い* | <p>C</p> <ul style="list-style-type: none"> ●カード教材を作ってみよう* ●小中学生へのアドバイスを考えてみよう* ●写真を公開する前に* ●こんなつもりじゃなかったのに* ●自分と相手とのちがい* |
| 自分への被害 | <p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ●生活を見直そう ●SNSの友達が多い弟 / 新しいアプリについて考えてみよう ●写真を送ったら、思わぬ形で ●SNSのやりとり、普通だと思っていたら ●SNSで売ったり買ったり / マンガをSNSでアップすると ●こんなつもりじゃなかったのに | <p>D</p> <ul style="list-style-type: none"> ●セキュリティを見直そう ●ネットで体験した嫌なこと ●災害時 SNS の活用 ●スマホと上手に付き合おう ●あなたのアカウント情報が流出したら / 頼んだ注文が届かない時 |

◆本調査結果の要点 1-②

1. 学習の効果

② 新しい気づきの有無と児童生徒の知識・意識やネットトラブル対策の関係 (P44~53)

これまでの調査においても「新しい気づき」の有無をひとつの学習効果の指標として用い、学習によって新しい気づきを得ることの効果を示してきました。ただ、一方で、情報モラルが「情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度」(文部科学省)と定義されているように、昨年度(第3回)の調査結果では、学びによって知識や意識のみならず態度変容をどう促すかという課題も提示されました。そこで、本調査では、児童・生徒の「ネットトラブル対策」という行動面と新しい気づきの有無の関係に関して検証をしました。

校種別で新しい気づきの有無(「たくさんあった」と「少しあった/なし」)による差が一番大きかったのは中学生で、その中でも最も差が出ているのは「友だちと撮った写真は、了解を得てSNSに掲載している」で、13ptの差があり、次に差が大きかったのは「メッセージは、相手に誤解がないように工夫している」で、11ptの差でした。

以上から、特に中学生においては、ネットトラブル対策という行動面においても、新しい気づきを得ることと関係性があることがみてとれます(図2)。

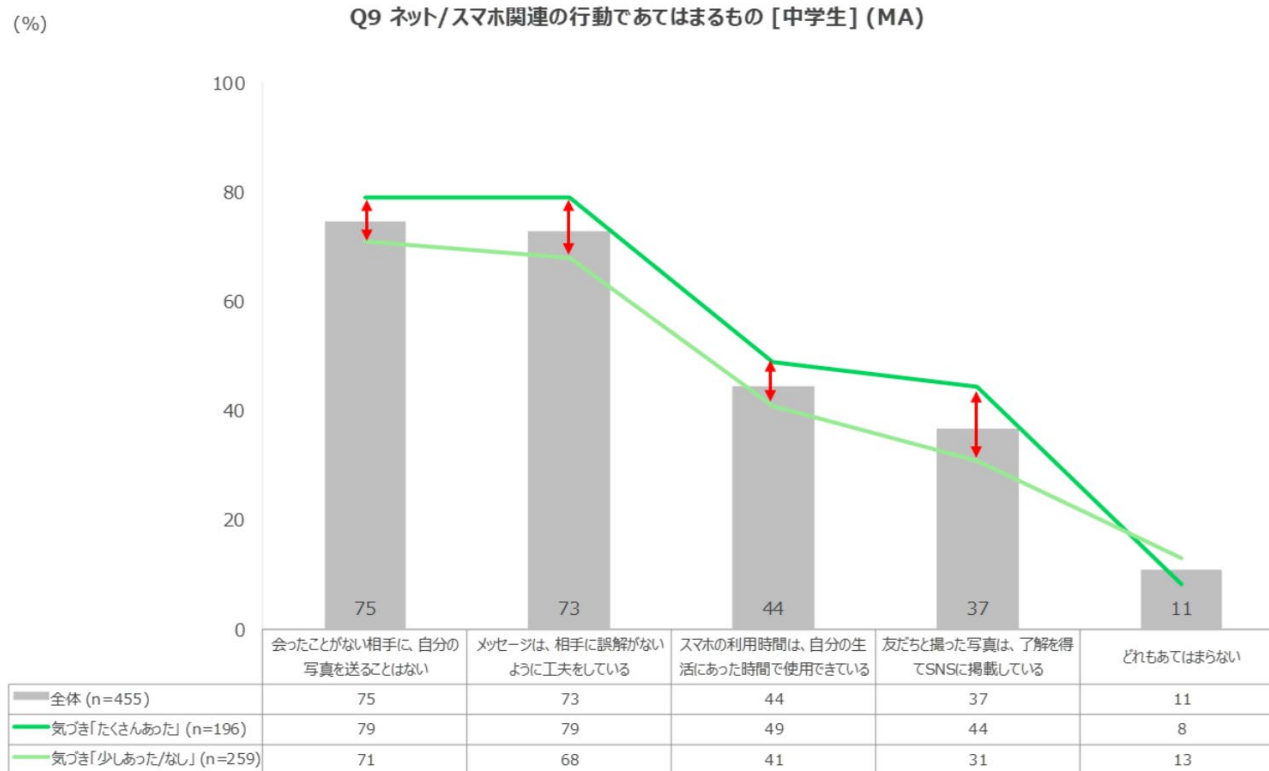


図2 新しい気づきとネットトラブル対策との関係

2. 知識・意識

① 児童・生徒のネットリテラシーの程度 (P24~28)

「アーティストの歌詞を勝手にネットにのせることは、法律違反だ」という法的知識に関する質問に関して、小学校高学年は約5割が正解する結果となりました(図3)。

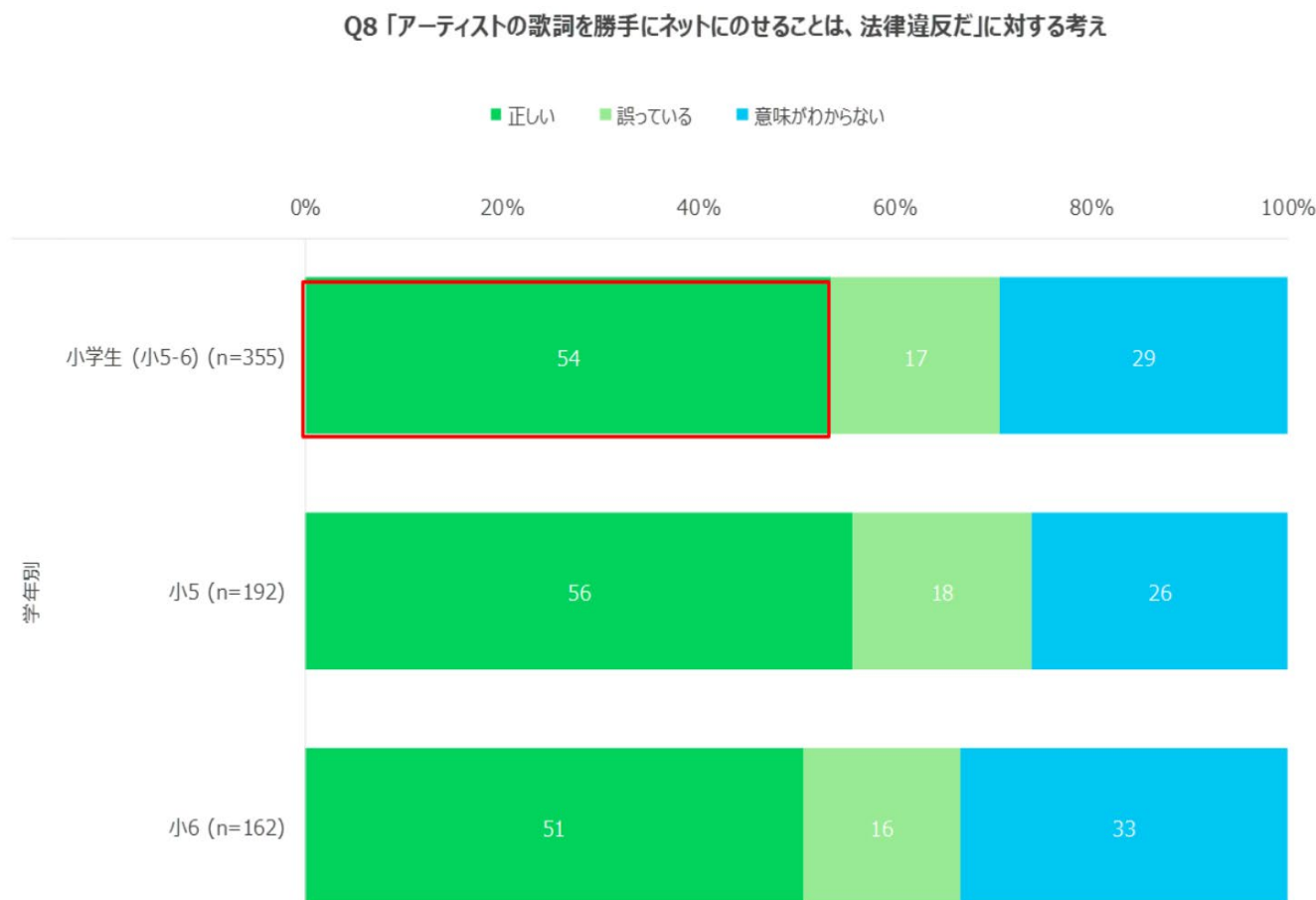


図3 ネットリテラシーの程度(歌詞の無断投稿の違法性)

◆本調査結果の要点 2-②

2. 知識・意識

② 児童・生徒のネットコミュニケーションや写真利用に対する意識
(P31~37)

SNS東京ノートでは以下の5つの内容がカード教材として使用されており、児童・生徒には友だちからされた場合の「いやな」順番を考えさせています。

「すぐに返信がない」

「なかなか会話が終わらない」

「知らないところで自分の話題が出ている」

「話をしている時にケータイ・スマホをさわっている」

「自分が一緒に写っている写真を公開される」

小中学生では、「自分が一緒に写っている写真を公開される」が、高校生では、「知らないところで自分の話題が出ている」が1位・2位の合計値で最も順位が高く、逆に「すぐに返信がない」が小中高で最も順位が低い結果となりました(中学生データは図4)。

LINE株式会社では、教員向け研修の際に、参加する教員に児童・生徒が選択する順位を予想してもらいますが、「すぐに返信がない」を最も嫌だと予想する教員がどの研修会でも過半数を超えています。この相反する結果は、データから児童・生徒の利用実態や意識を知ったうえで情報モラルの指導をすることの重要性を示す事象ともいえます。

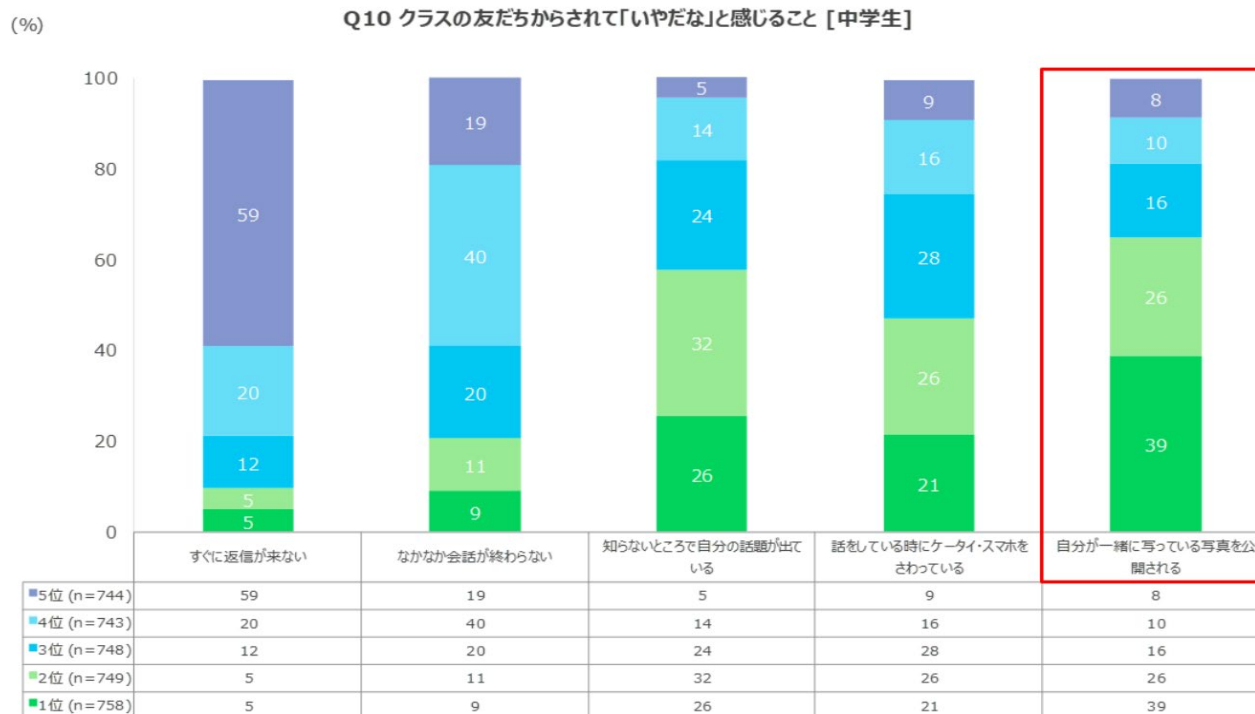


図4 クラスの友だちからされて「いやだな」と感じること [中学生]

◆本調査結果の要点 3-①

3. 利用実態

① 児童・生徒が週1回以上見たり開いたりするサービス/アプリ (P19~22)

児童・生徒が週1回以上見たり開いたりするサービス/アプリとして、中学生、高校生は学年間において大きな利用差はありませんが、小学生はその利用差が大きい結果となりました。小学生で学年間の利用差が大きいのは「検索サービス/アプリ」であり、学年が上がるにつれて増加しています。特に小学高学年では、約5

割が利用しており、ネットから情報を得ていることがわかりました。

校種間では、コミュニケーション系サービスで顕著な差が見られました。「SNS」は、中学生では4割強だったのが高校生では8割強となり、約40pt増加しています。LINEなどの「コミュニケーションアプリ」は、中学生になると約40pt増加し、75%が使用している結果となりました(図5)。

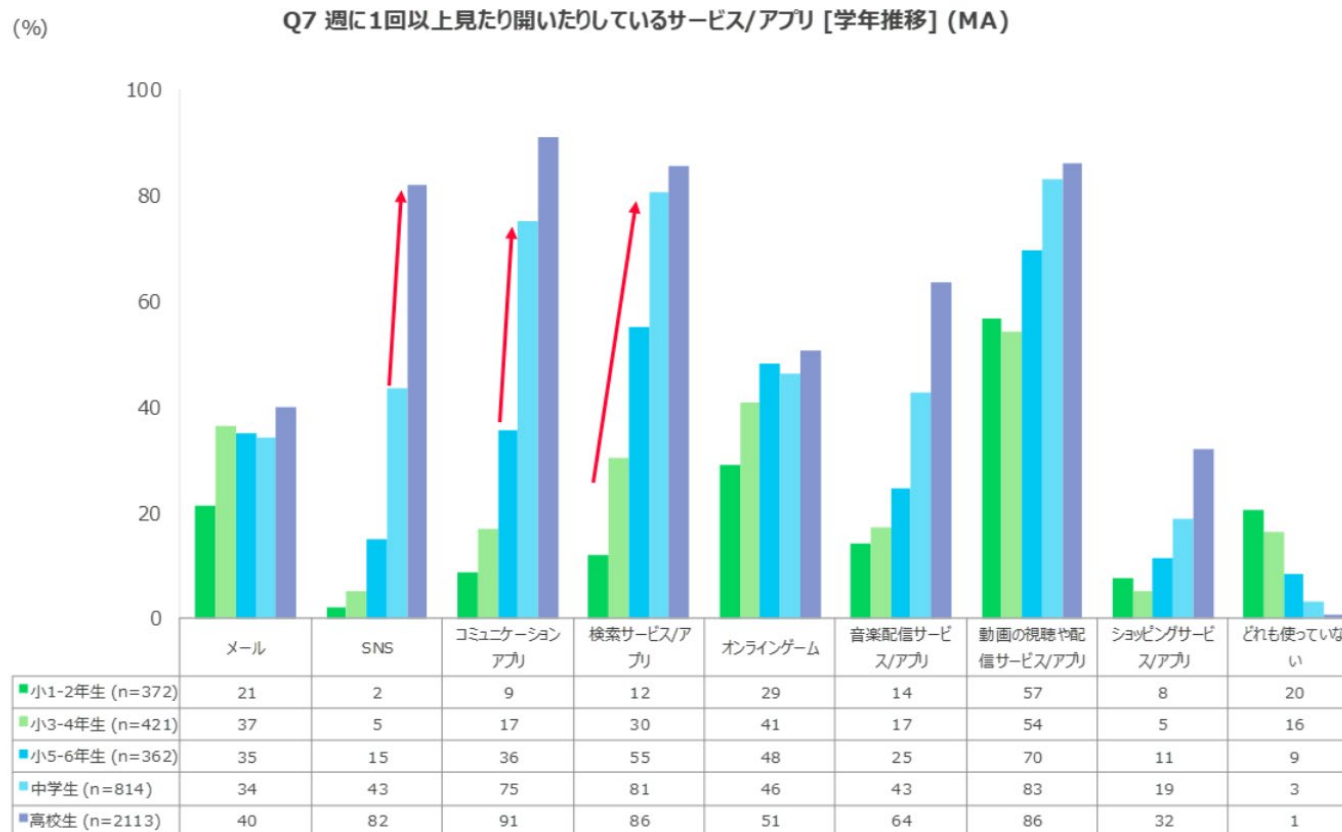


図5 利用しているサービス/アプリ

◆本調査結果の要点 3-②

3. 利用実態

② 児童・生徒が実施しているネットトラブル対策 (P29~30)

サービス/アプリの利用に伴い発生しうるトラブルの対策に関しては、コミュニケーションにおいて、小学生、中学生ともに「メッセージは相手に誤解がないように工夫」と回答した割合が高く、中学生では7割前後が意識する結果となりました。

写真の掲載においては、「会ったことがない相手に自分の写真を送ることはない」と回答した割合は小学生で約5割、中学生で

約7割と高い傾向にあるものの、「友だちと撮った写真は、了解を得て掲載している」と回答したのは中学生においても4割に満たず、友だち間での写真のやりとりでの個人情報やプライバシーへの配慮という点が懸念される結果となりました(図6)。

高校生に関しては、「自分のスマホにログイン時のパスワードを設定」と回答した割合が82%であるものの、「パスワードは同一のものを利用していない」と回答した割合は30%となっており、パスワード設定はするものの、使い回している様子がうかがえる結果となりました。

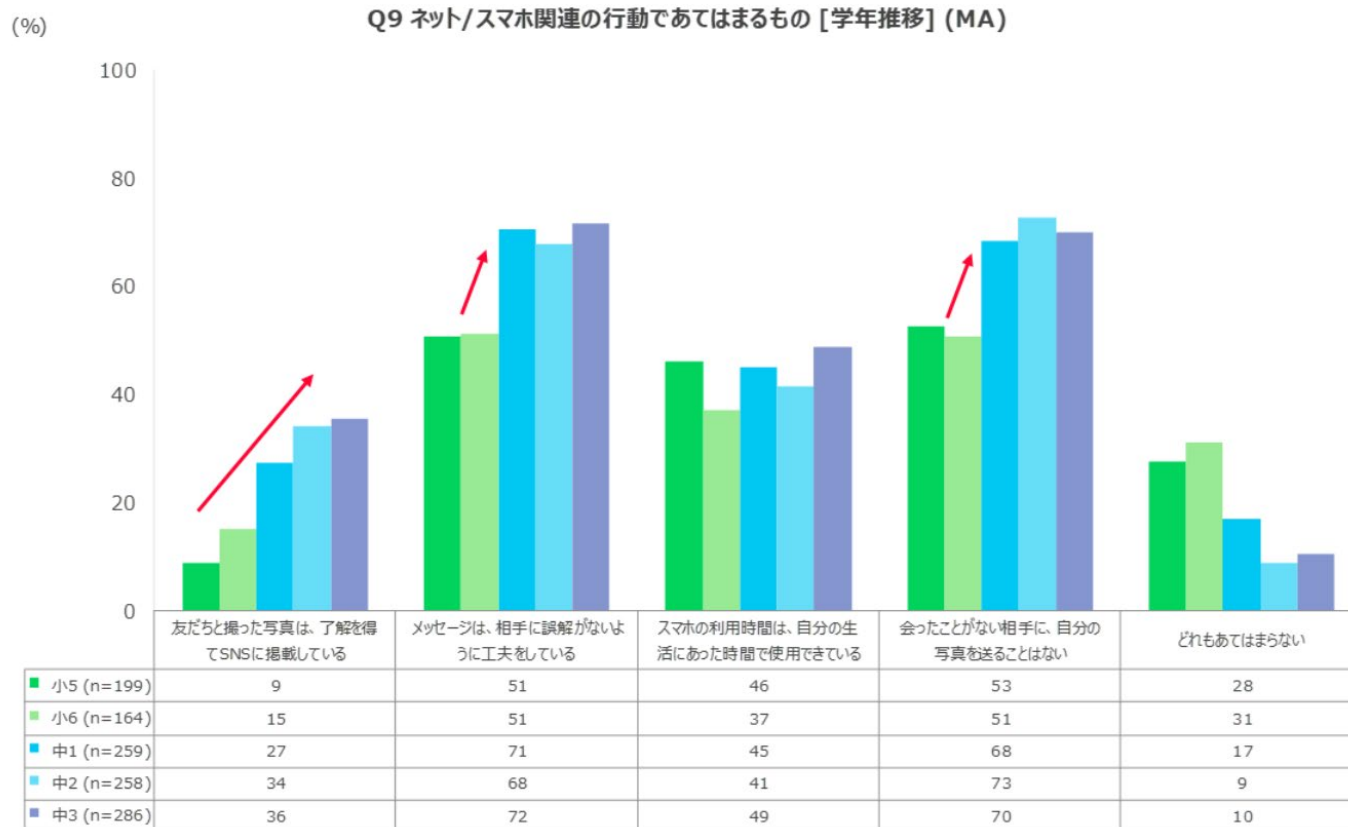


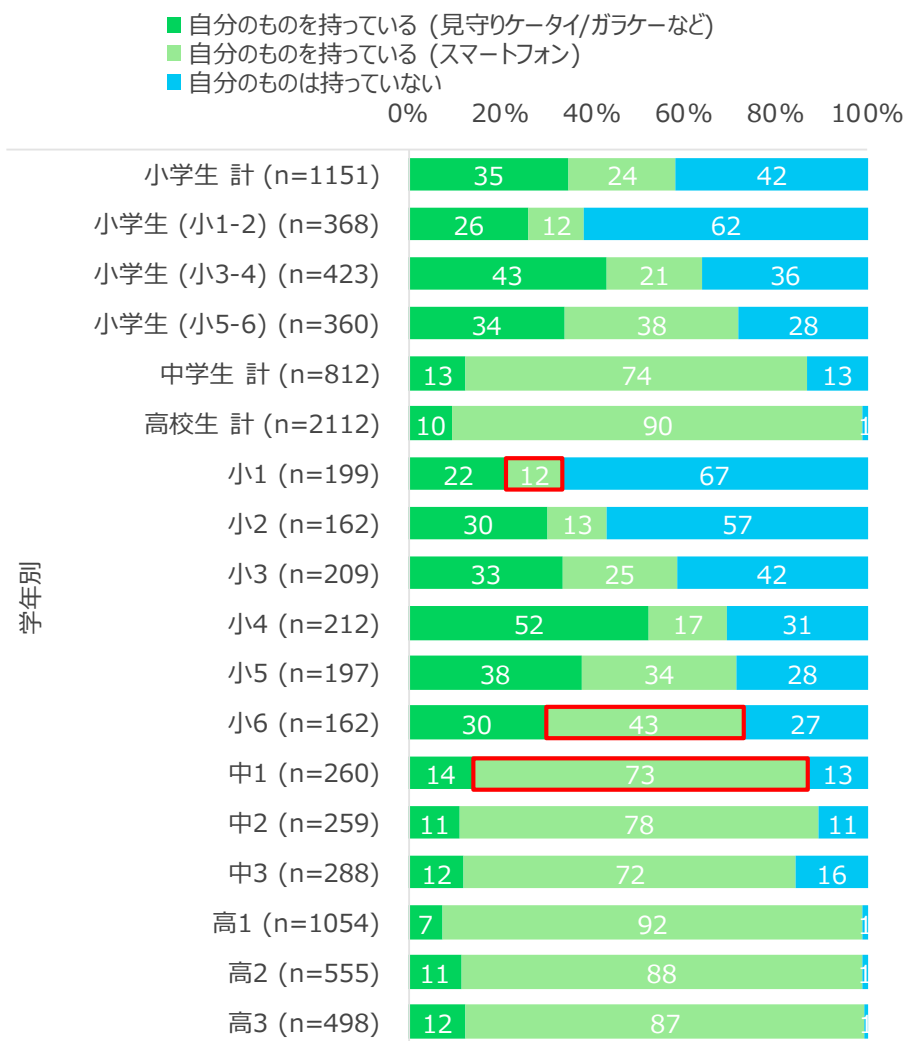
図6 ネットトラブル対策(小5-6 / 中学生)

ケータイ/スマホの保有状況と利用実態

ケータイ/スマホ保有状況

- ・ 小1でも、12%が自分のスマートフォンを持っている。
- ・ 小5までは「見守りケータイ/ガラケーなど」のほうが「スマートフォン」より多いが、小6になると逆転。中1になると、全体の73%（保有者の8割強）がスマートフォンを持つようになる。

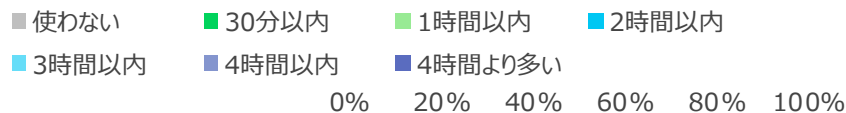
Q4 ケータイ/スマホ保有状況



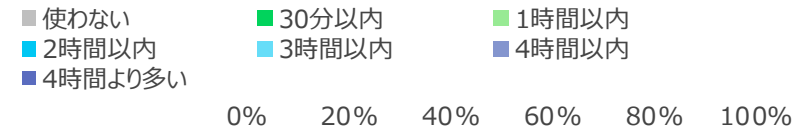
平日のケータイ/スマホ使用時間

- ・ 前回と比べ、小学5-6年生および高校生で使用時間が長くなっている。
- ・ 小学5-6年生は、30分超の割合が前回から13pt増加。
高校生は、2時間超の割合が前回から19pt増加。約半数は、3時間超使用している。

Q5 平日のケータイ/スマホ使用時間



Q5 平日のケータイ/スマホ使用時間



学年別

学年×過年度別

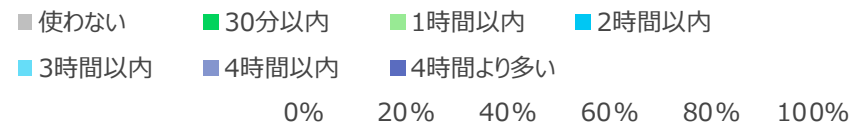
平日のゲーム機使用時間

- 小学5-6年生で、30分超使用している割合が前回から14pt増加。1時間超の割合でも7pt増加しており、36%となっている。
- 高校生では、2時間超使用している割合が前回から6pt増加し、17%となっている。

Q6 平日のゲーム機使用時間



Q6 平日のゲーム機使用時間



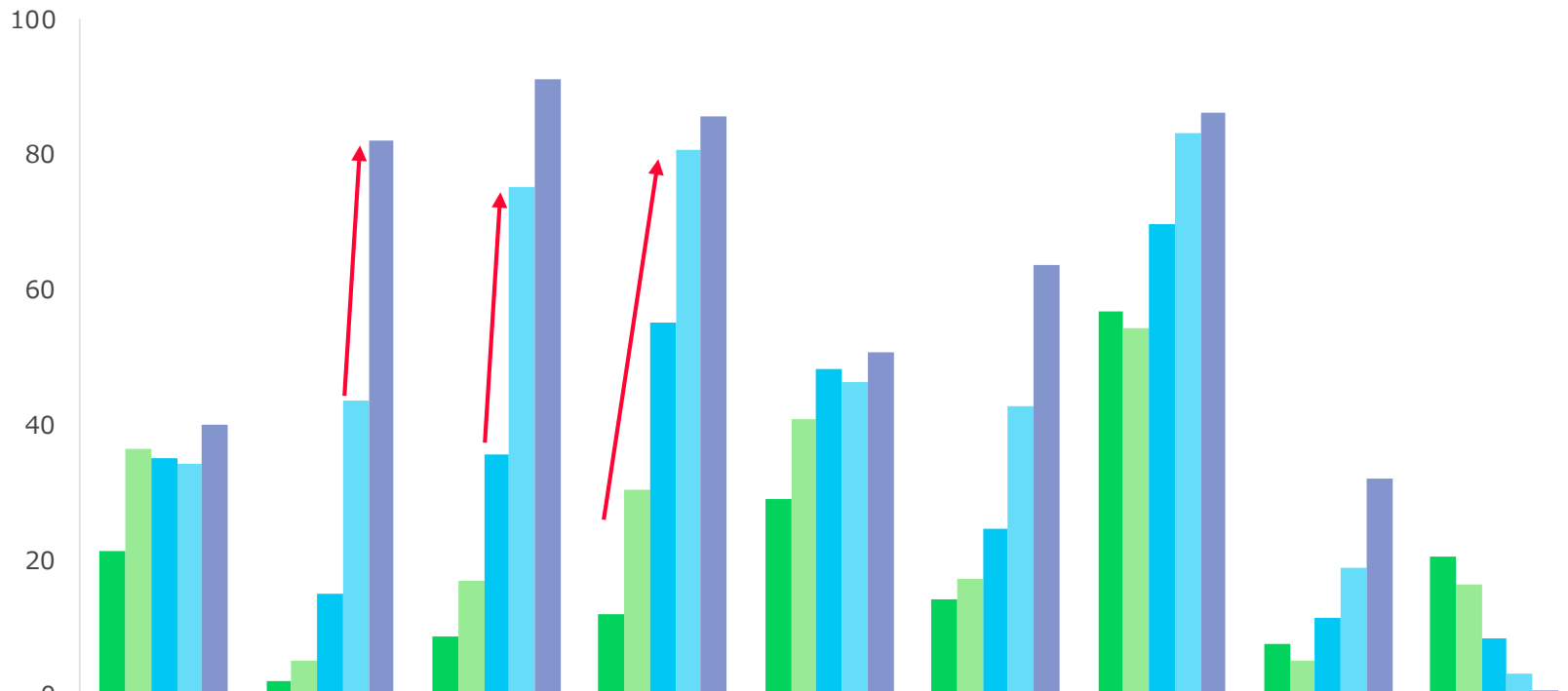
学年別

学年×過年度別

週に1回以上見たり開いたりしているサービス/アプリ [学年推移]

- SNSは、中学生では4割強だったのが高校生では8割強となり、約40pt増加。
- LINEなどのコミュニケーションアプリは、中学生になると約40pt増加し、75%が使用するようになる。
- Googleなどの検索サービス/アプリは、20pt前後が段階的に増えていき、中学生で81%が使用。

(%) Q7 週に1回以上見たり開いたりしているサービス/アプリ [学年推移] (MA)

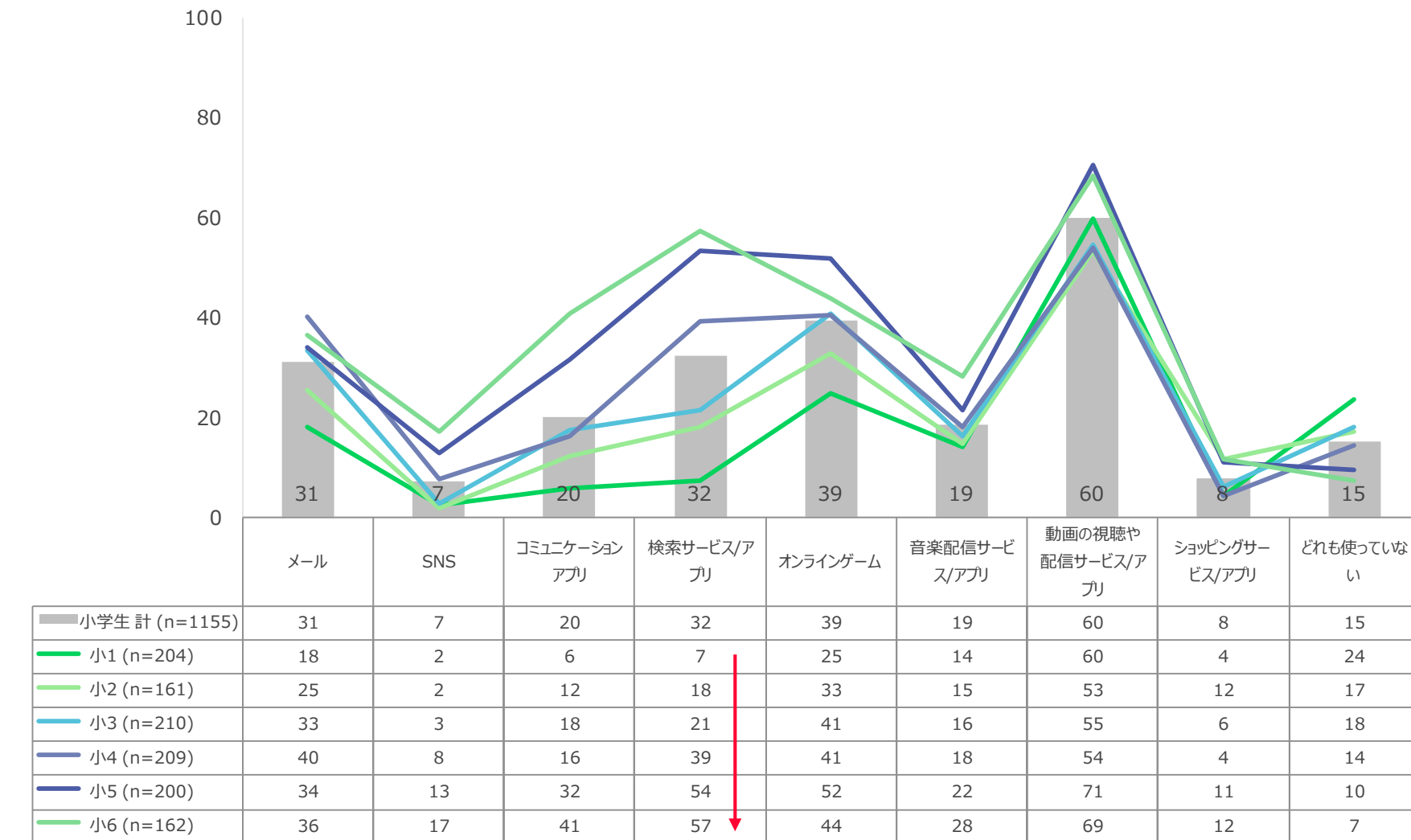


| | メール | SNS | コミュニケーションアプリ | 検索サービス/アプリ | オンラインゲーム | 音楽配信サービス/アプリ | 動画の視聴や配信サービス/アプリ | ショッピングサービス/アプリ | どれも使っていない |
|-----------------|-----|-----|--------------|------------|----------|--------------|------------------|----------------|-----------|
| ■小1-2年生 (n=372) | 21 | 2 | 9 | 12 | 29 | 14 | 57 | 8 | 20 |
| ■小3-4年生 (n=421) | 37 | 5 | 17 | 30 | 41 | 17 | 54 | 5 | 16 |
| ■小5-6年生 (n=362) | 35 | 15 | 36 | 55 | 48 | 25 | 70 | 11 | 9 |
| ■中学生 (n=814) | 34 | 43 | 75 | 81 | 46 | 43 | 83 | 19 | 3 |
| ■高校生 (n=2113) | 40 | 82 | 91 | 86 | 51 | 64 | 86 | 32 | 1 |

週に1回以上見たり開いたりしているサービス/アプリ [小学生]

- ・「検索サービス・アプリ」は、学年が上がるにつれて増加していく。
- ・YouTubeなどの「動画の視聴や配信サービス/アプリ」は、低学年でも5割強が使用している。
- ・「オンラインゲーム」は、低学年でも25-33%が使用している。

Q7 週に1回以上見たり開いたりしているサービス/アプリ [小学生] (MA)

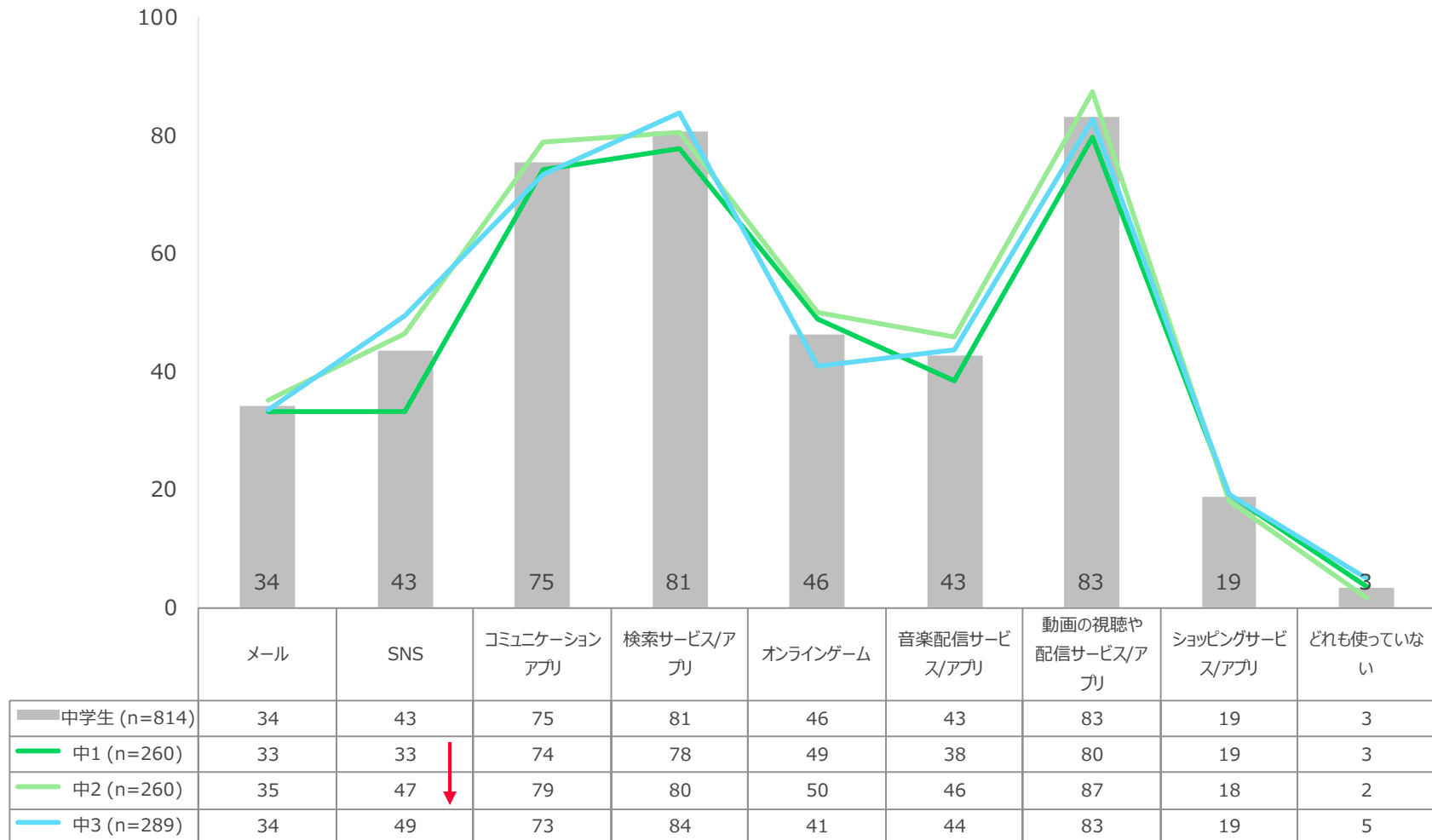


週に1回以上見たり開いたりしているサービス/アプリ [中学生]

- 「SNS」は、中1になると小6 (17%) から16pt増加。さらに、中2になると14pt増加。中2と中3では大きな差はない。
- 「コミュニケーションアプリ」「検索サービス/アプリ」も、学年間で大きな差はない。

(%)

Q7 週に1回以上見たり開いたりしているサービス/アプリ [中学生] (MA)

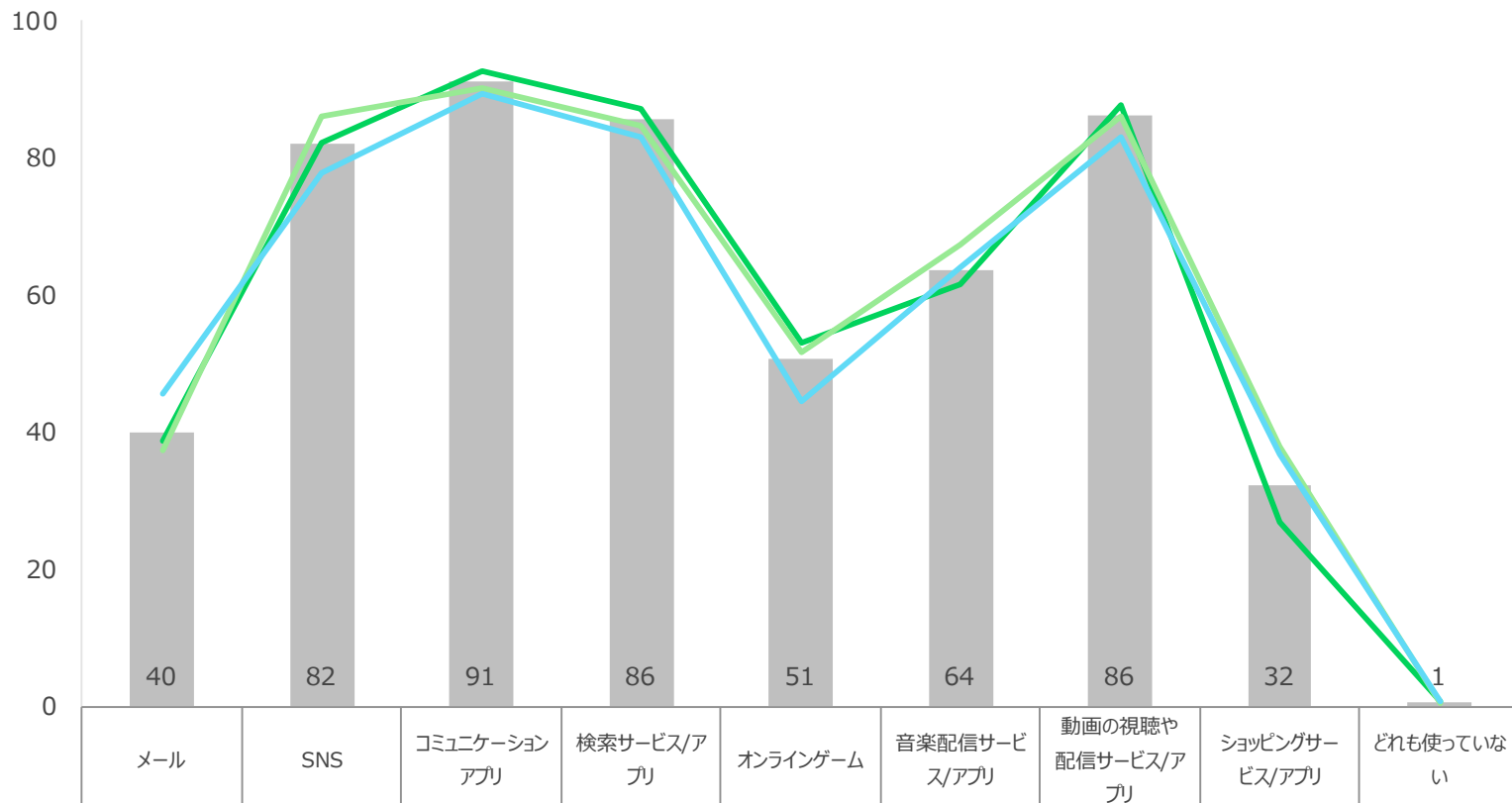


週に1回以上見たり開いたりしているサービス/アプリ [高校生]

- 「コミュニケーションアプリ」「検索サービス/アプリ」も、学年間で大きな差はない。
- 「オンラインゲーム」は、高3になると7pt減少。

(%)

Q7 週に1回以上見たり開いたりしているサービス/アプリ [高校生] (MA)

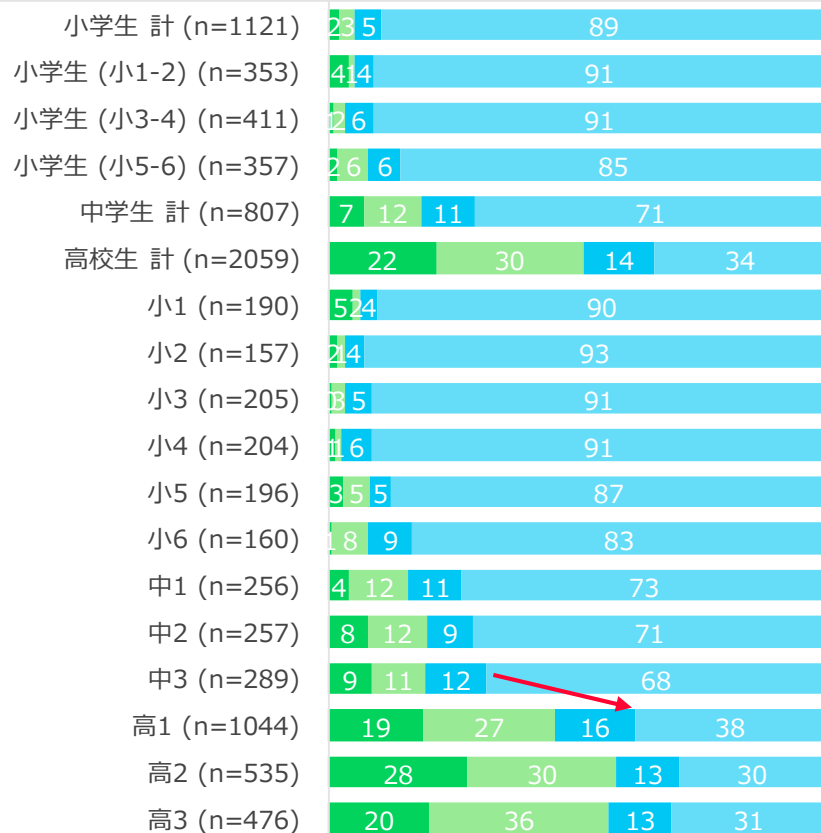
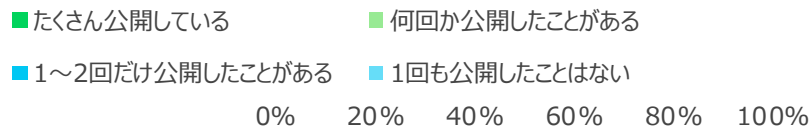


| | | | | | | | | | |
|----------------|----|----|----|----|----|----|----|----|---|
| ■ 高校生 (n=2113) | 40 | 82 | 91 | 86 | 51 | 64 | 86 | 32 | 1 |
| ■ 高1 (n=1056) | 39 | 82 | 93 | 87 | 53 | 61 | 88 | 27 | 1 |
| ■ 高2 (n=556) | 37 | 86 | 90 | 85 | 52 | 67 | 86 | 38 | 1 |
| ■ 高3 (n=496) | 46 | 78 | 89 | 83 | 45 | 64 | 83 | 37 | 1 |

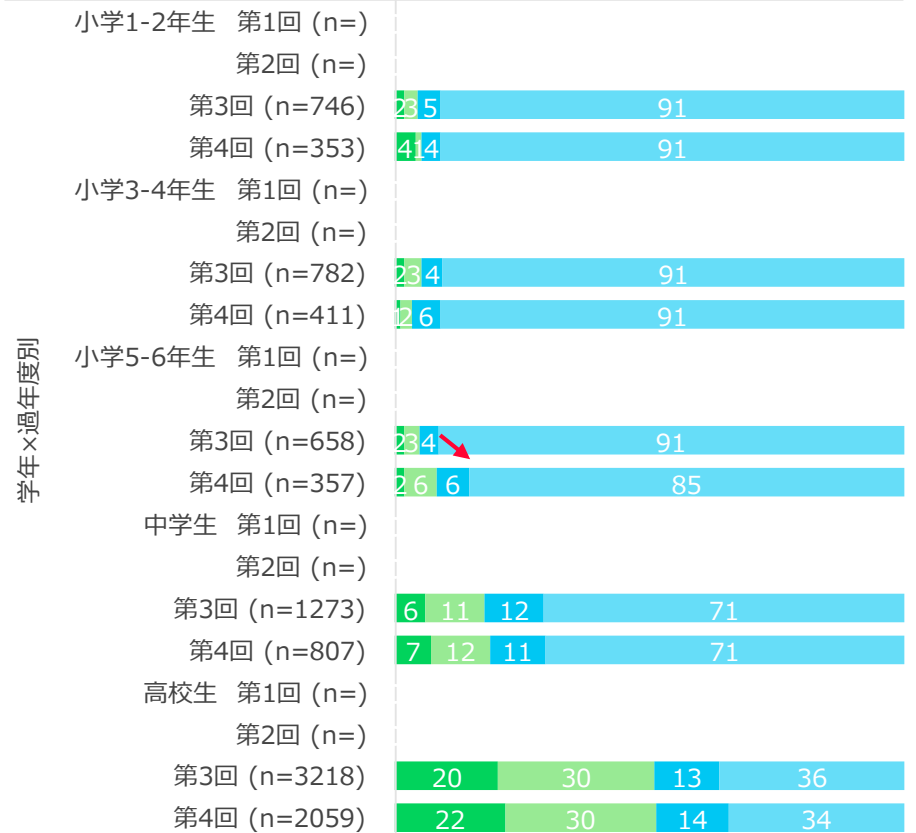
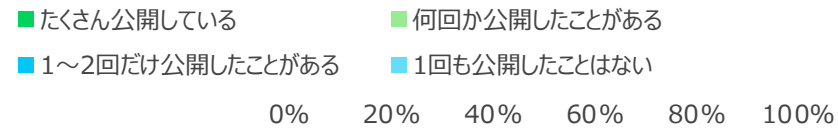
写真や動画をネットに公開した経験

- 小学5-6年生で、公開したことのある割合が前回から6pt増加し、15%となっている。他の学年に、大きな変化はみられない。
- 高校生になると、6割超の公開経験があり、公開頻度も増加する。

Q12 2019年の4月から今日までに、
写真や動画をネットに公開した経験



Q12 2019年の4月から今日までに、
写真や動画をネットに公開した経験



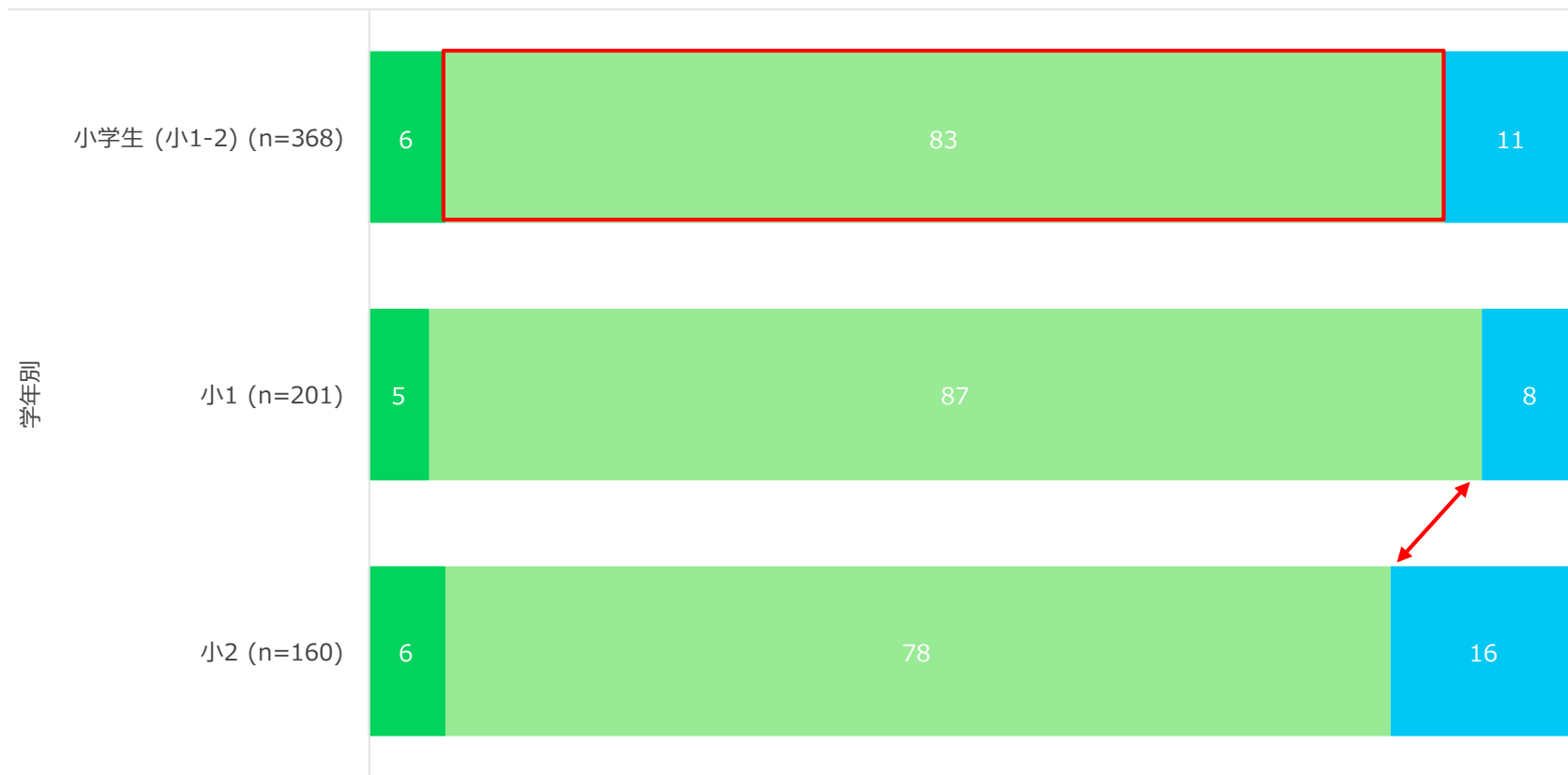
ネットリテラシーの程度とネットトラブル対策

- 小学1-2年生全体では、83%が「正しくないと思う」と回答。「正しいと思う」としたのは6%。
- 小2のほうが「よくわからない」とした割合が8pt多い。

Q8 「前を注意していれば、歩きながらケータイやスマートフォンを使っても問題ない」に対する考え

■ 正しいと思う ■ 正しくないと思う ■ よくわからない

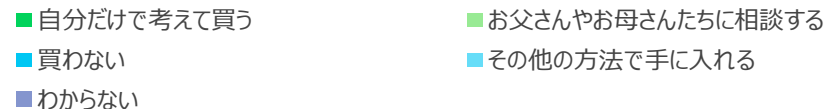
0% 20% 40% 60% 80% 100%



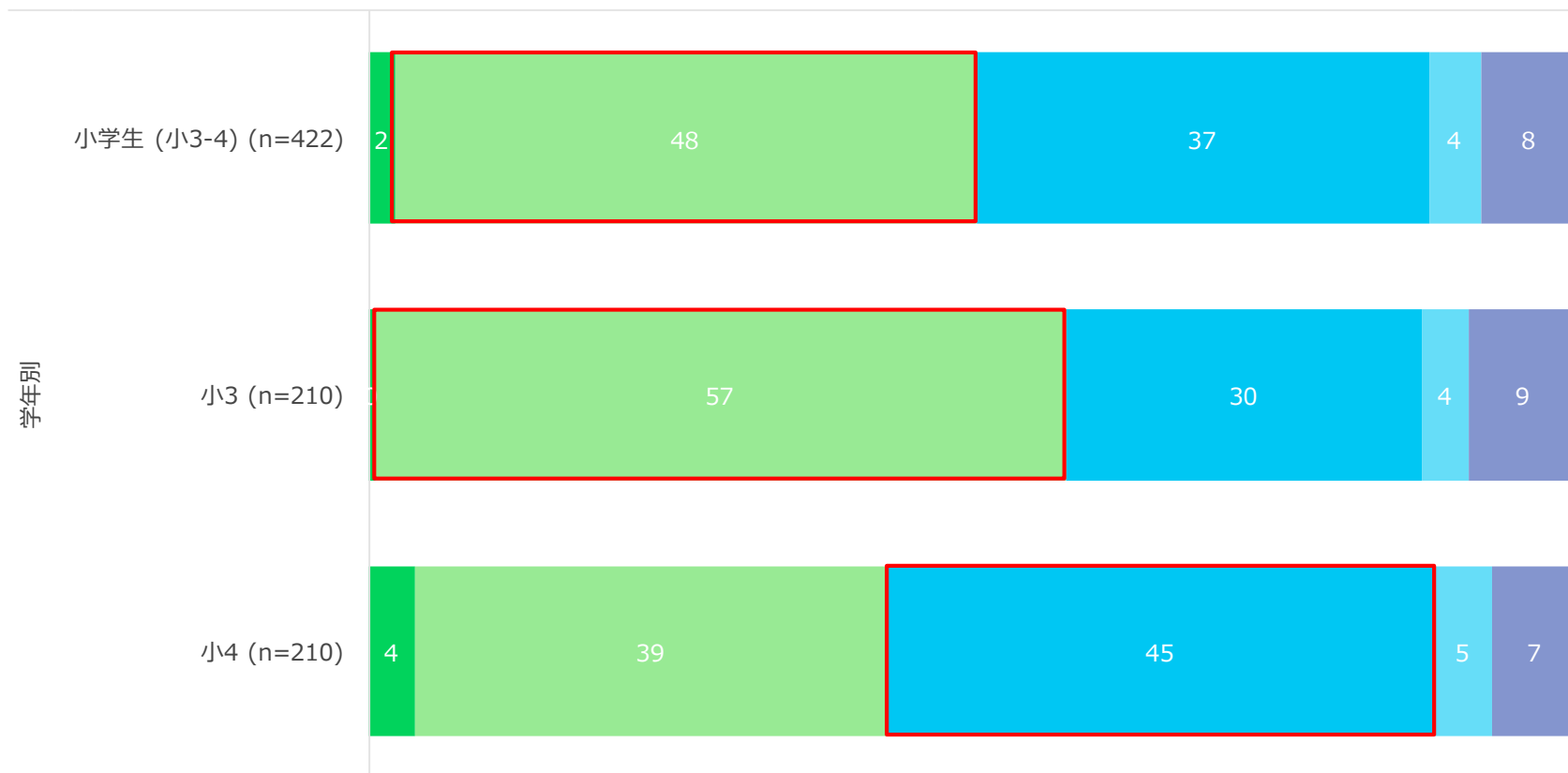
ネットリテラシーの程度（ゲームアイテムの購入） [小学3-4年生]

- 小学3-4年生全体で最も多いのは「お父さんやお母さんたちに相談する」で48%。次点で「買わない」が37%だった。
- 小3は「お父さんやお母さんたちに相談」が多いが、小4は「買わない」のほうが多くなる。

Q8 ゲームで欲しいアイテムがあるとき、どうしているか

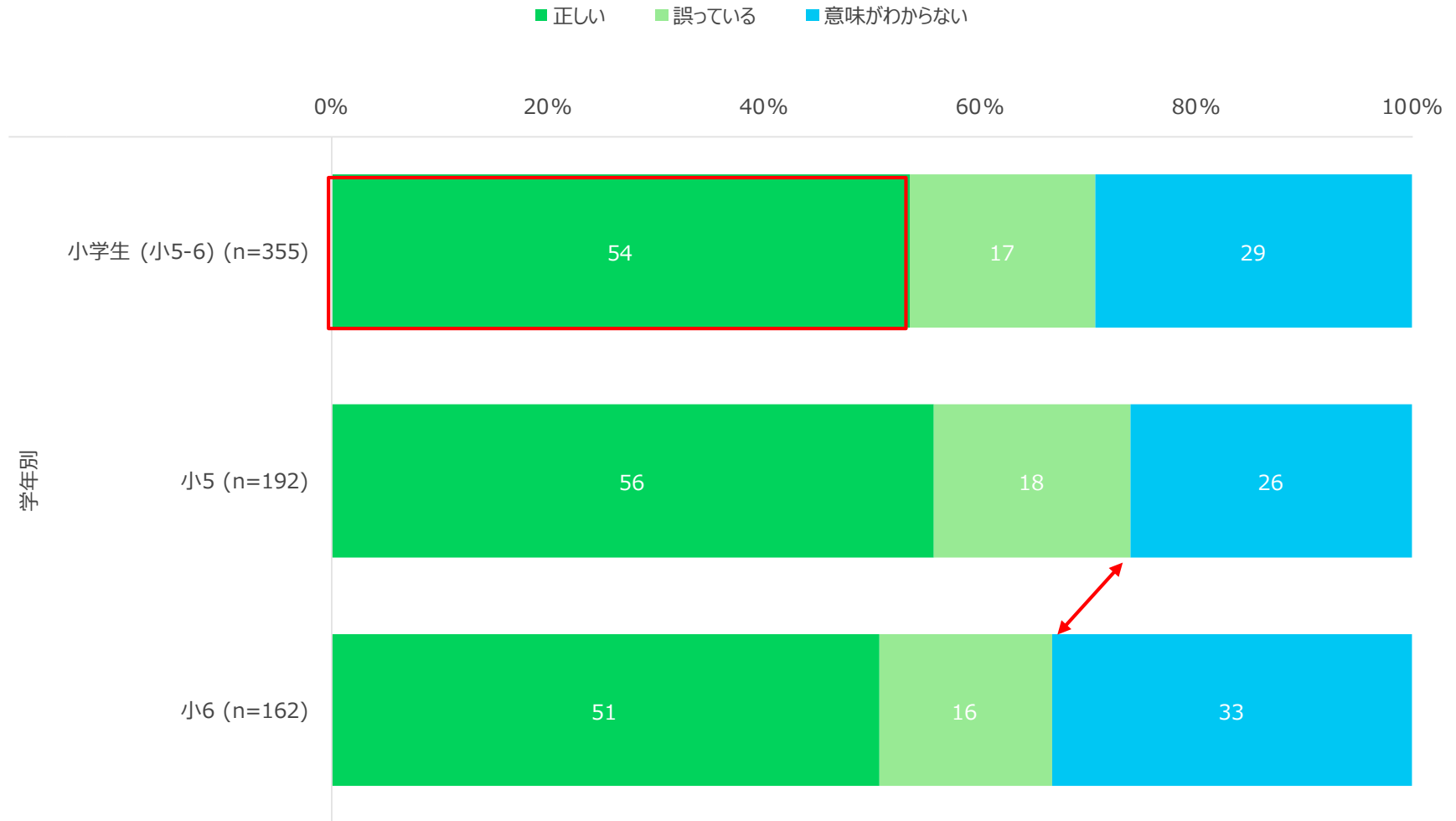


0% 20% 40% 60% 80% 100%



- 小学5-6年生全体で、54%が「正しい」と回答。
3割弱は「意味がわからない」としており、小6のほうが小5より7pt多い。

Q8「アーティストの歌詞を勝手にネットにのせることは、法律違反だ」に対する考え

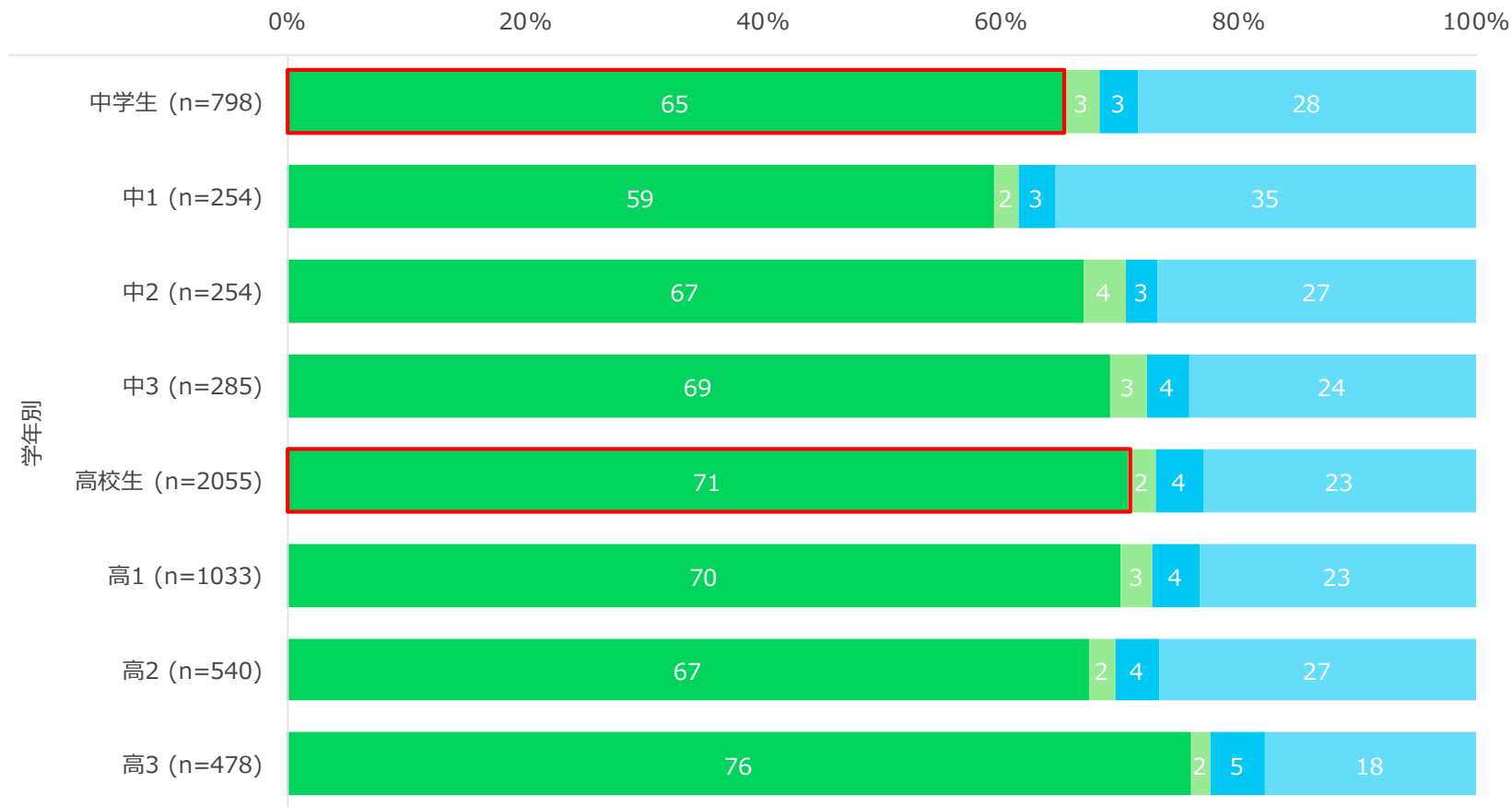


ネットリテラシーの程度（ID交換掲示板） [中学生/高校生]

- 中学生/高校生ともに最も多いのは「気軽に利用すべきではない」で、65～71%。
「特に注意の必要はない」は3%前後に留まった。「必ずウイルスに感染するため危険」も3～5%。
- 18～35%が「意味がわからない」としており、ID交換掲示板が知られていない様子もみられた。

Q8 「コミュニケーションアプリのID交換掲示板に対する意識」として最も正しいと思うもの

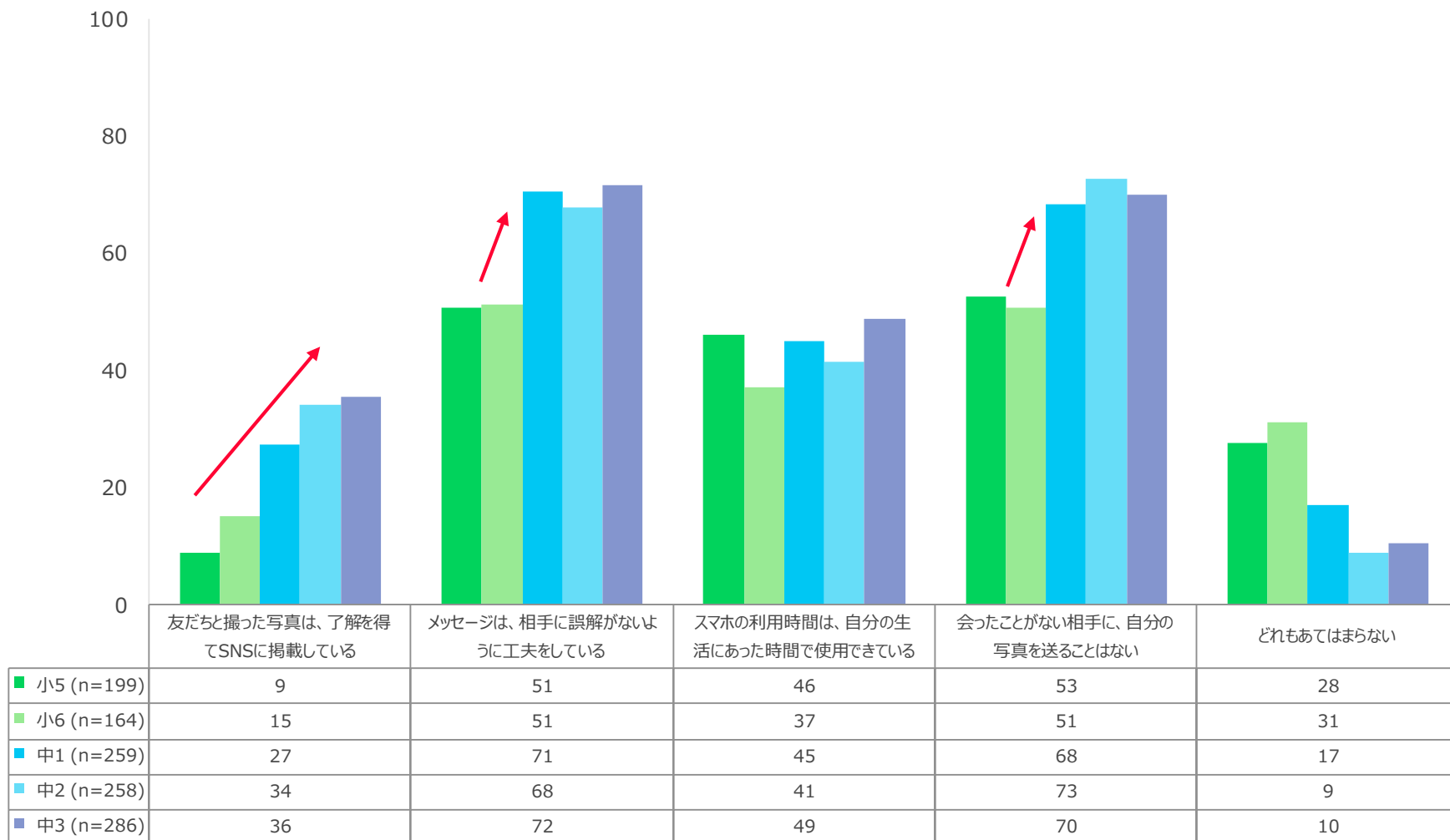
- 掲示板の書き込みは相手がどんな人か分からず、犯罪を企てる人もいる可能性があるため、気軽に利用すべきではない
- 単に ID を交換するだけなので、特に注意の必要はない
- こういった掲示板では必ずウイルスに感染するため危険である
- 言葉や内容の意味がわからない



ネットトラブル対策 [小5-6/中学生]

- ・「メッセージは相手に誤解がないように工夫」「会ったことがない相手に自分の写真を送ることはない」は、中学生になると高まり、7割前後が意識するようになる。
- ・SNS利用率と関連すると思われるが、「写真は了解を得て掲載」は学年が上がるにつれて増加。

(%) Q9 ネット/スマホ関連の行動であてはまるもの [学年推移] (MA)



ネットトラブル対策 [高校生]

- 高校生全体で、82%が「自分のスマホにログイン時のパスワードを設定」。
- 「公衆無線LANにはアクセスしない」は24%。76%は公衆無線LANを利用している可能性がある。
「パスワードは同一のものを利用していない」は30%で、70%は同じものを利用している可能性がある。

(%) Q9 ネット/スマホ関連の行動であてはまるもの [高校生] (MA)



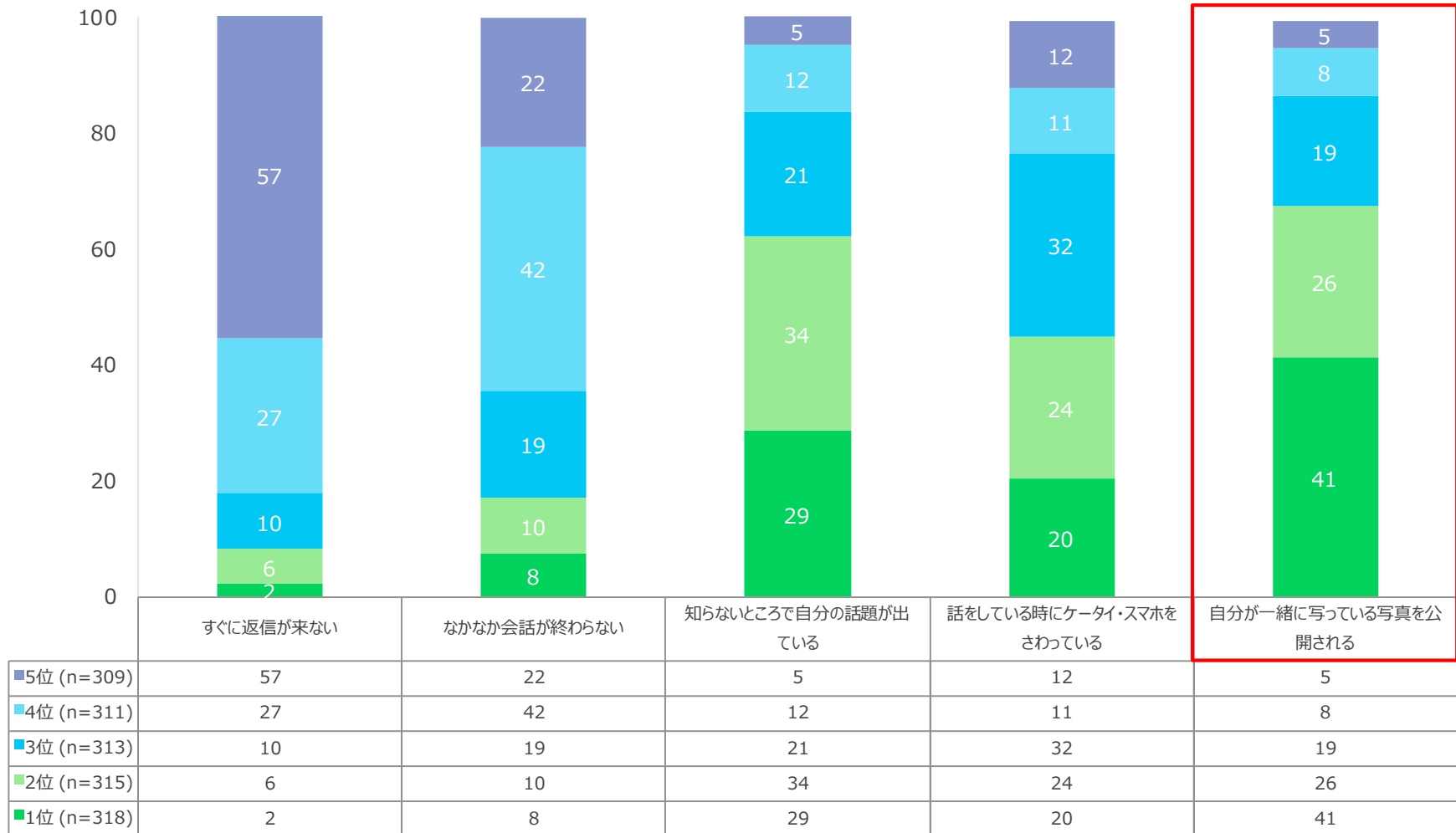
ネット上での友だちとのやりとりや写真利用に対する意識

クラスの友だちからされて「いやだな」と感じること [小学5-6年生]

- 最もいやだなと感じられているのは「自分が一緒に写っている写真を公開される」で、1位+2位で67%を占めた。次いで「知らないところで自分の話題が出ている」が高く、1位+2位で63%。
- 順位として最も低いのは「すぐに返信が来ない」で、57%が5位としている。4位+5位だと84%。

(%)

Q10 クラスの友だちからされて「いやだな」と感じること [小学5-6年生]

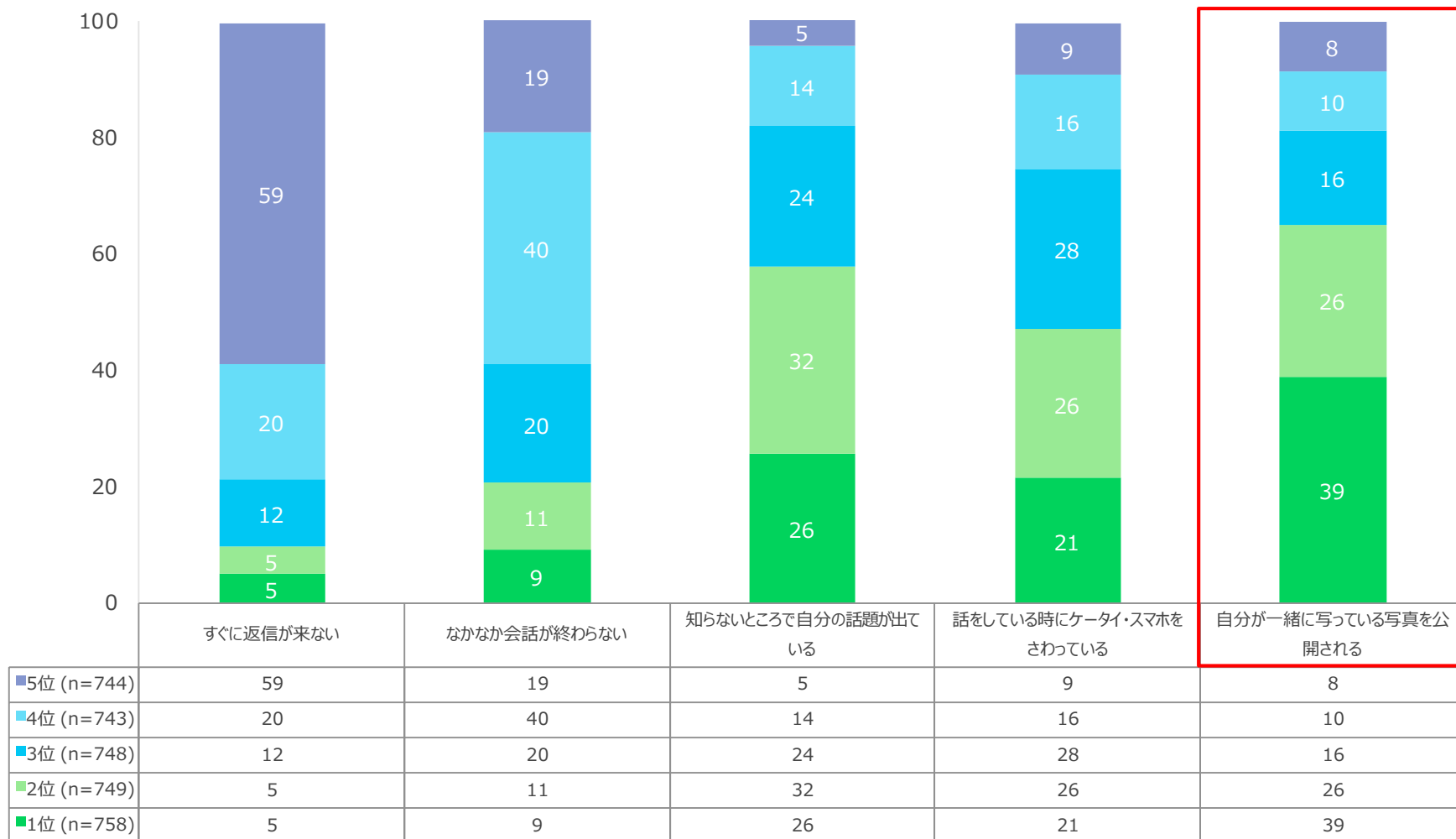


クラスの友だちからされて「いやだな」と感じること [中学生]

- 最もいやだなと感じられているのは「自分が一緒に写っている写真を公開される」で、1位+2位で65%を占めた。次いで「知らないところで自分の話題が出ている」が高く、1位+2位で58%。
- 順位として最も低いのは「すぐに返信が来ない」で、59%が5位としている。4位+5位だと79%。

(%)

Q10 クラスの友だちからされて「いやだな」と感じること [中学生]

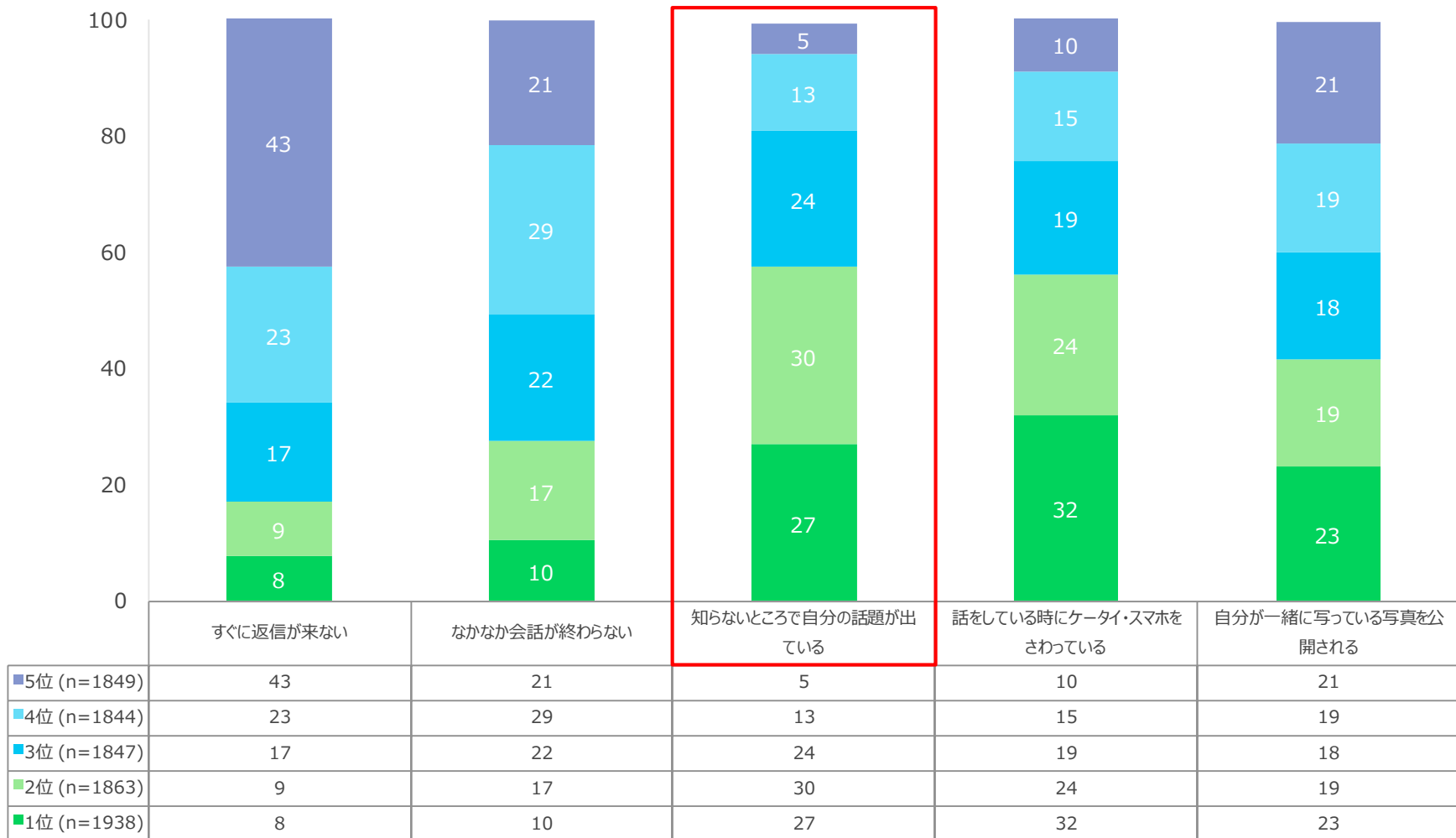


クラスの友だちからされて「いやだな」と感じること [高校生]

- 「話をしている時にケータイ・スマホをさわっている」と「知らないところで自分の話題が出ている」は、1位+2位の割合が56~57%と高く、特にいやだなと感じられている。
- 順位として最も低いのは「すぐに返信が来ない」で、43%が5位としている。4位+5位だと66%。

(%)

Q10 クラスの友だちからされて「いやだな」と感じること [高校生]

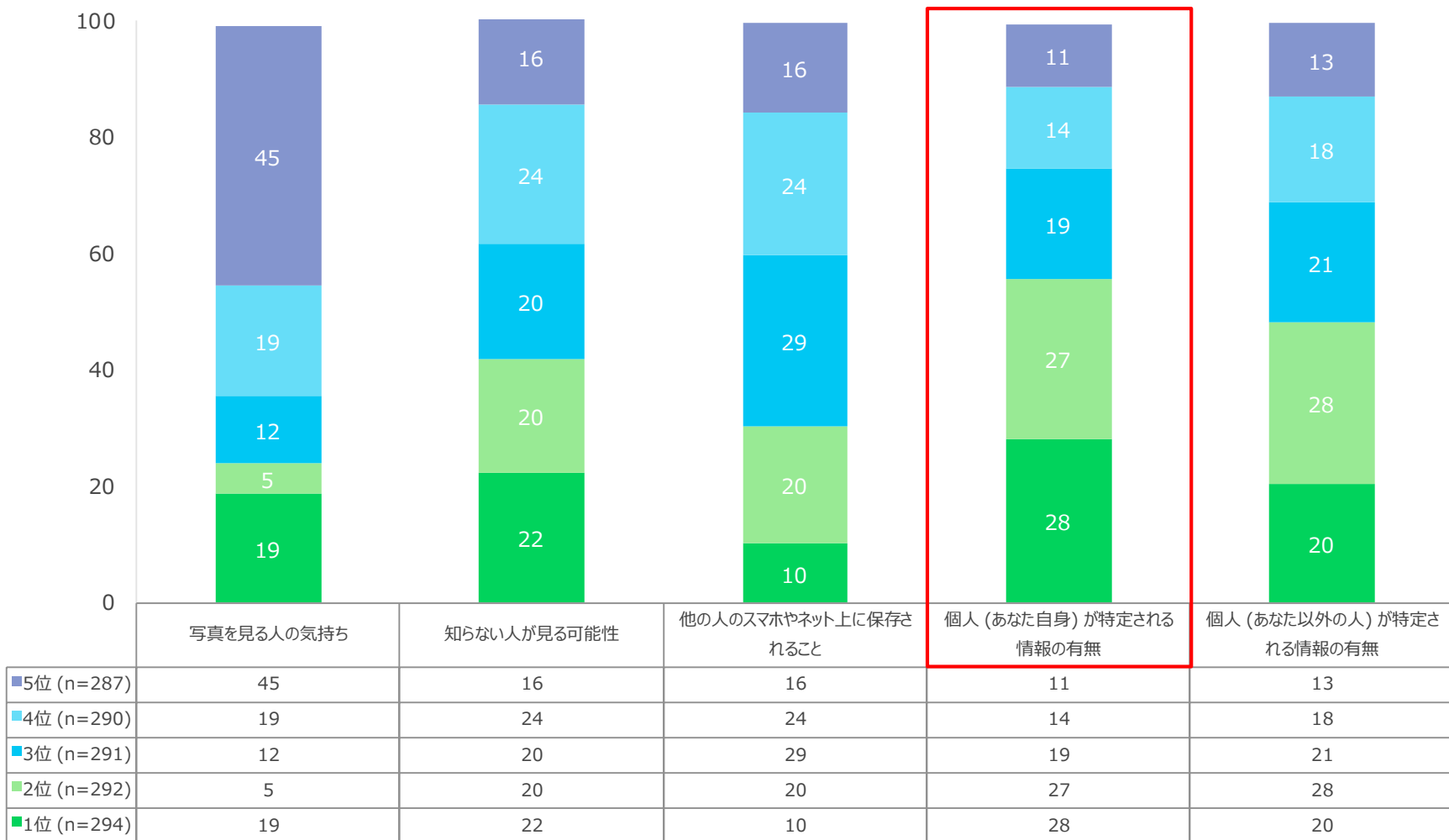


写真を公開したり送ったりするとき気を付けていること [小学5-6年生] LINE みらい財団

- 最も気を付けていることは「個人（あなた自身）が特定される情報の有無」で、1位+2位で55%を占めた。次いで「個人（あなた以外の人）が特定される情報の有無」が高く、1位+2位で48%。
- 5位の割合が最も高いのは「写真を見る人の気持ち」で、45%を占めた。4位+5位だと64%。

(%)

Q11 ネット上に写真を公開したりメールやメッセージで写真を送ったりするとき気を付けていること [小学5-6年生]

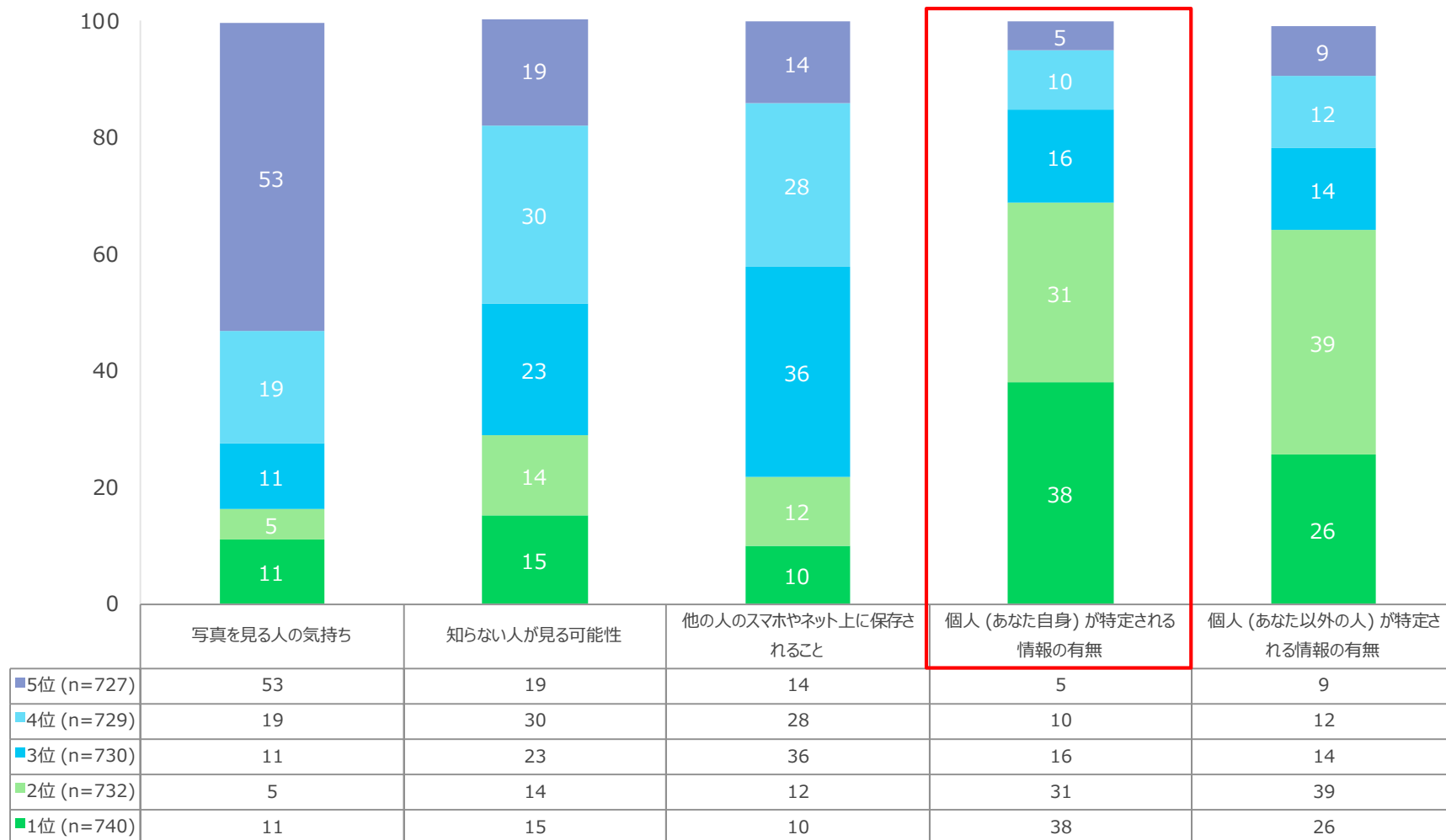


写真を公開したり送ったりするとき気を付けていること [中学生]

- 最も気を付けていることは「個人（あなた自身）が特定される情報の有無」で、1位+2位で69%を占めた。次いで「個人（あなた以外の人）が特定される情報の有無」が高く、1位+2位で65%。
- 5位の割合が最も高いのは「写真を見る人の気持ち」で、53%を占めた。4位+5位だと72%。

(%)

Q11 ネット上に写真を公開したりメールやメッセージで写真を送ったりするとき気を付けていること [中学生]

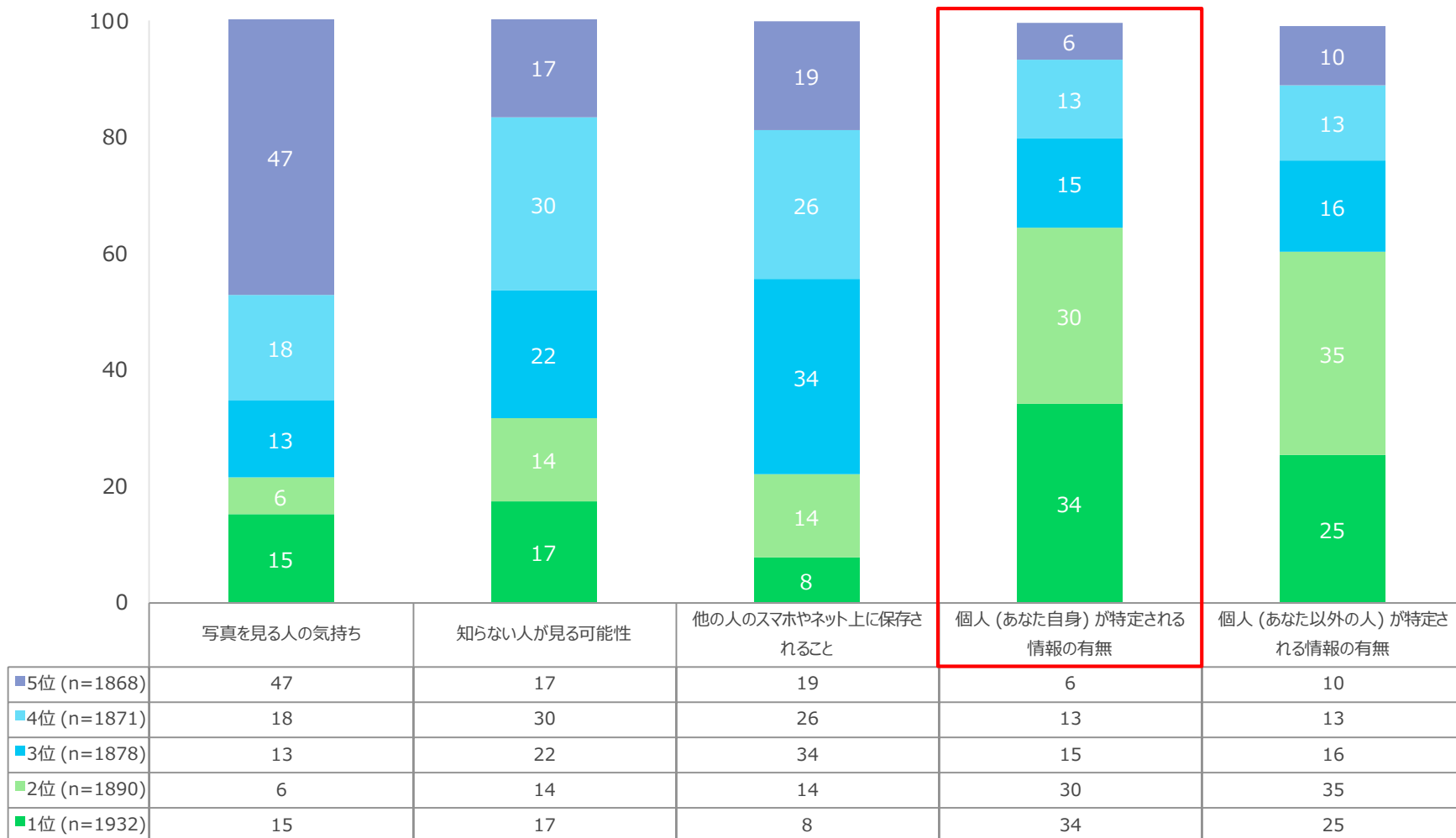


写真を公開したり送ったりするとき気を付けていること [高校生]

- 最も気を付けていることは「個人（あなた自身）が特定される情報の有無」で、1位+2位で64%を占めた。次いで「個人（あなた以外の人）が特定される情報の有無」が高く、1位+2位で60%。
- 5位の割合が最も高いのは「写真を見る人の気持ち」で、47%を占めた。4位+5位だと65%。

(%)

Q11 ネット上に写真を公開したりメールやメッセージで写真を送ったりするとき気を付けていること [高校生]



ネット上でのネガティブな経験と相談相手

クラス内で見聞きしたり経験したこと [小学5-6年生]

- 小学5-6年生全体では、90%が「どれも見聞きしたり経験したりしていない」。
- 経験がある中で最も高いのは、小5・小6ともに「知らない人からメールやメッセージが届く」で5%～6%。次いで「ネット上でからかわれる」「悪口を、メールやメッセージで受け取る」が2%～3%だった。

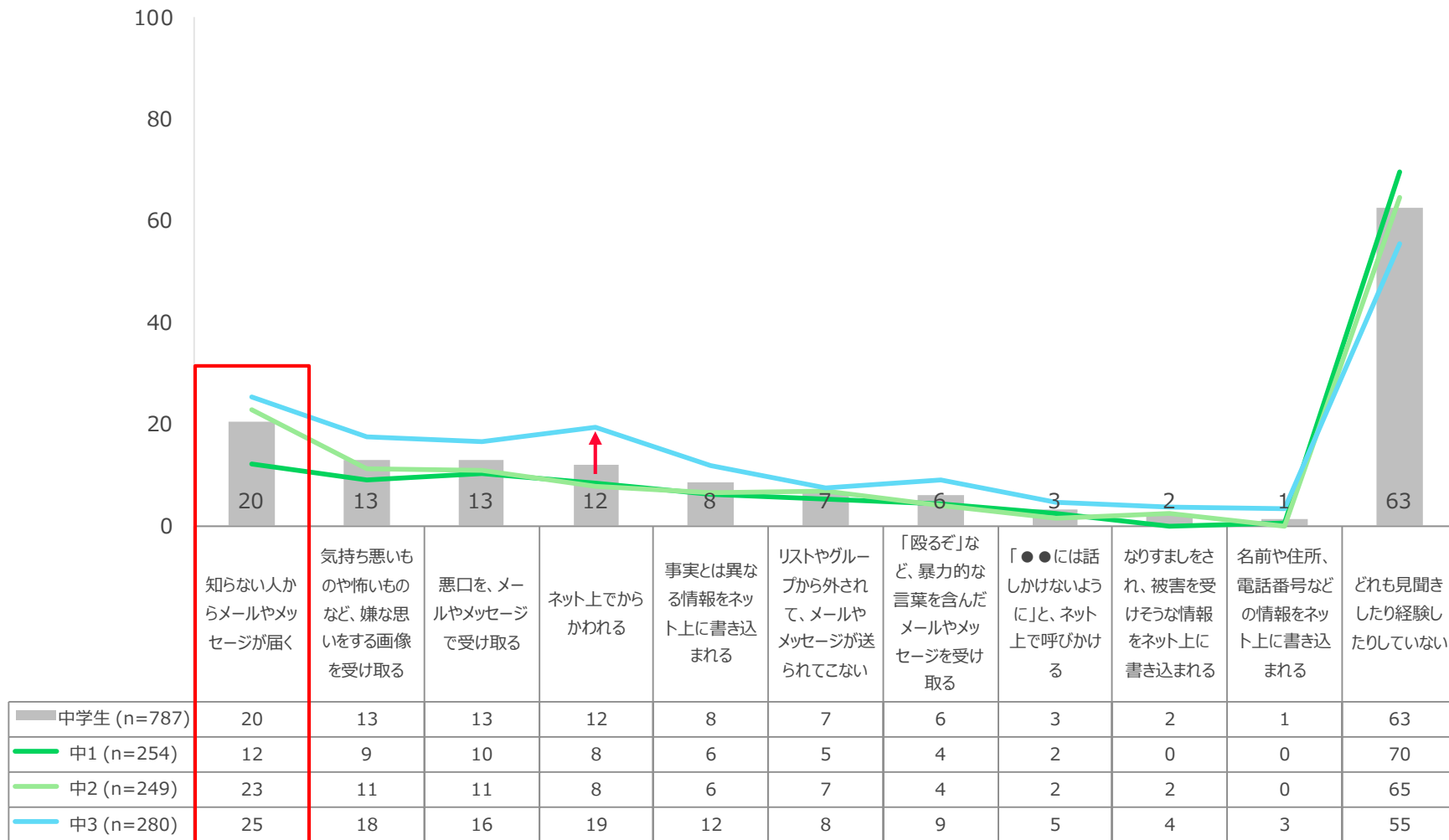
(%) Q16 2019年4月から今日までに、クラス内で見聞きした経験 (MA)
[小学5-6年生]



クラス内で見聞きしたり経験したこと[中学生]

- 中学生全体では63%が、「どれも見聞きしたり経験したりしていない」。学年が上がるにつれて低下していく。
- 経験がある中で最も高いのは、どの学年も「知らない人からメールやメッセージが届く」で12%～25%。
- 「ネット上でからかわれる」は、中2から中3にかけて11pt増加し、19%となっている。

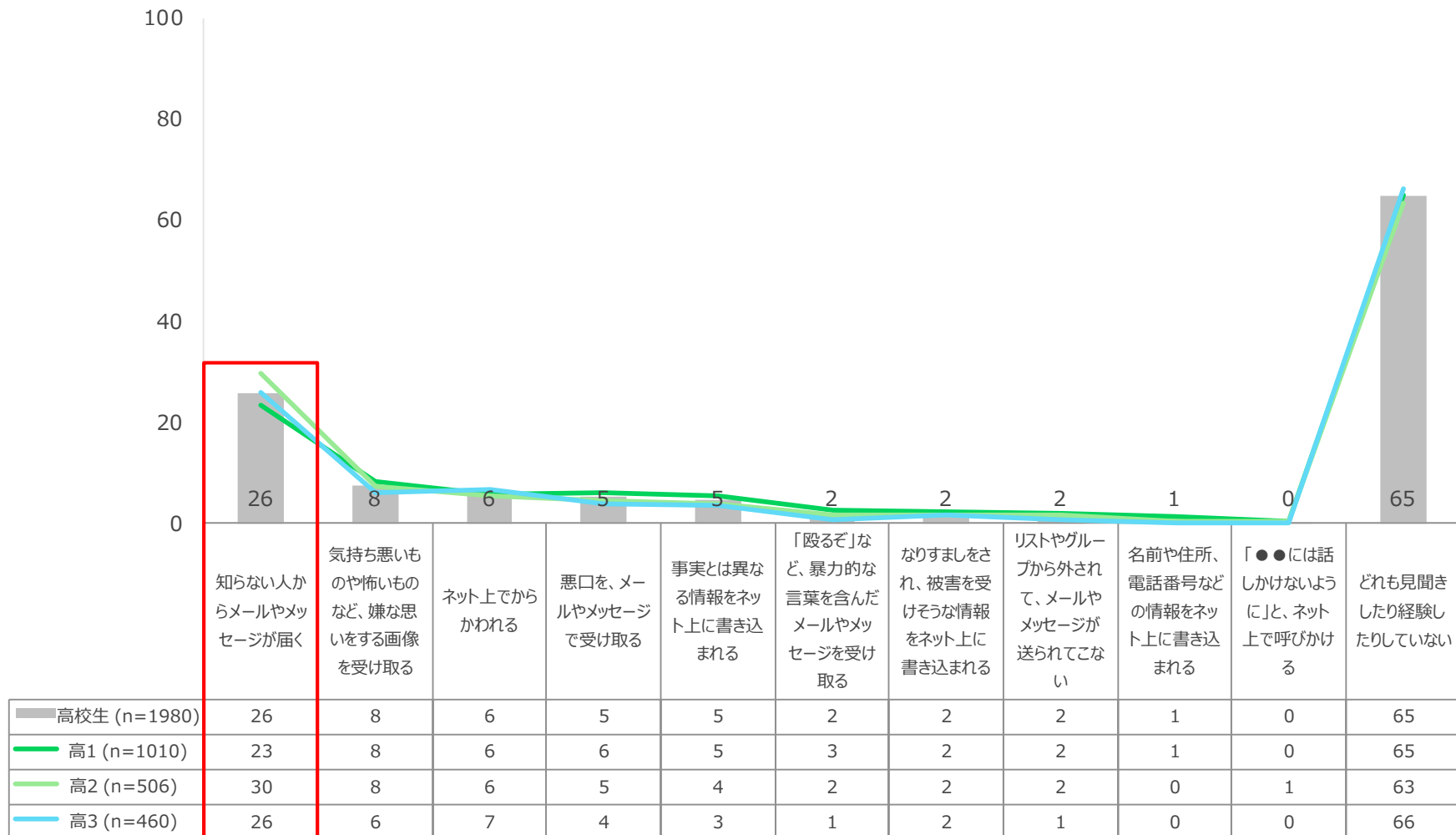
(%) Q16 2019年4月から今日までに、クラス内で見聞きした経験 (MA)
[中学生]



クラス内で見聞きしたり経験したこと[高校生]

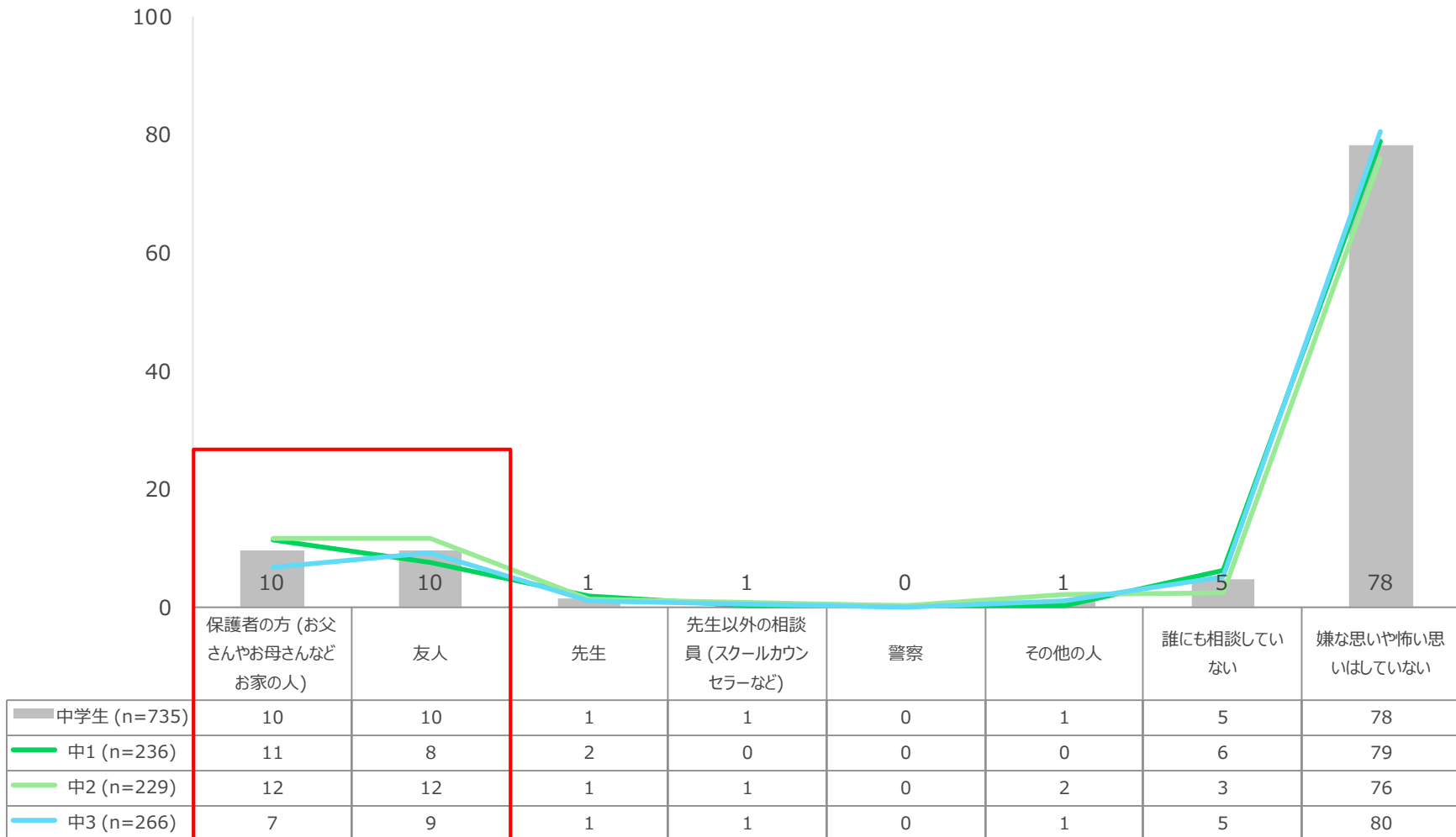
- 高校生全体では65%が、「どれも見聞きしたり経験したりしていない」。学年間での大きな差はない。
- 経験がある中で最も高いのは、どの学年も「知らない人からメールやメッセージが届く」で23%～30%。次いで「気持ち悪いものや怖いものなど、嫌な思いをする画像を受け取る」が高く、6%～8%。

(%) Q16 2019年4月から今日までに、クラス内で見聞きした経験 (MA)
[高校生]



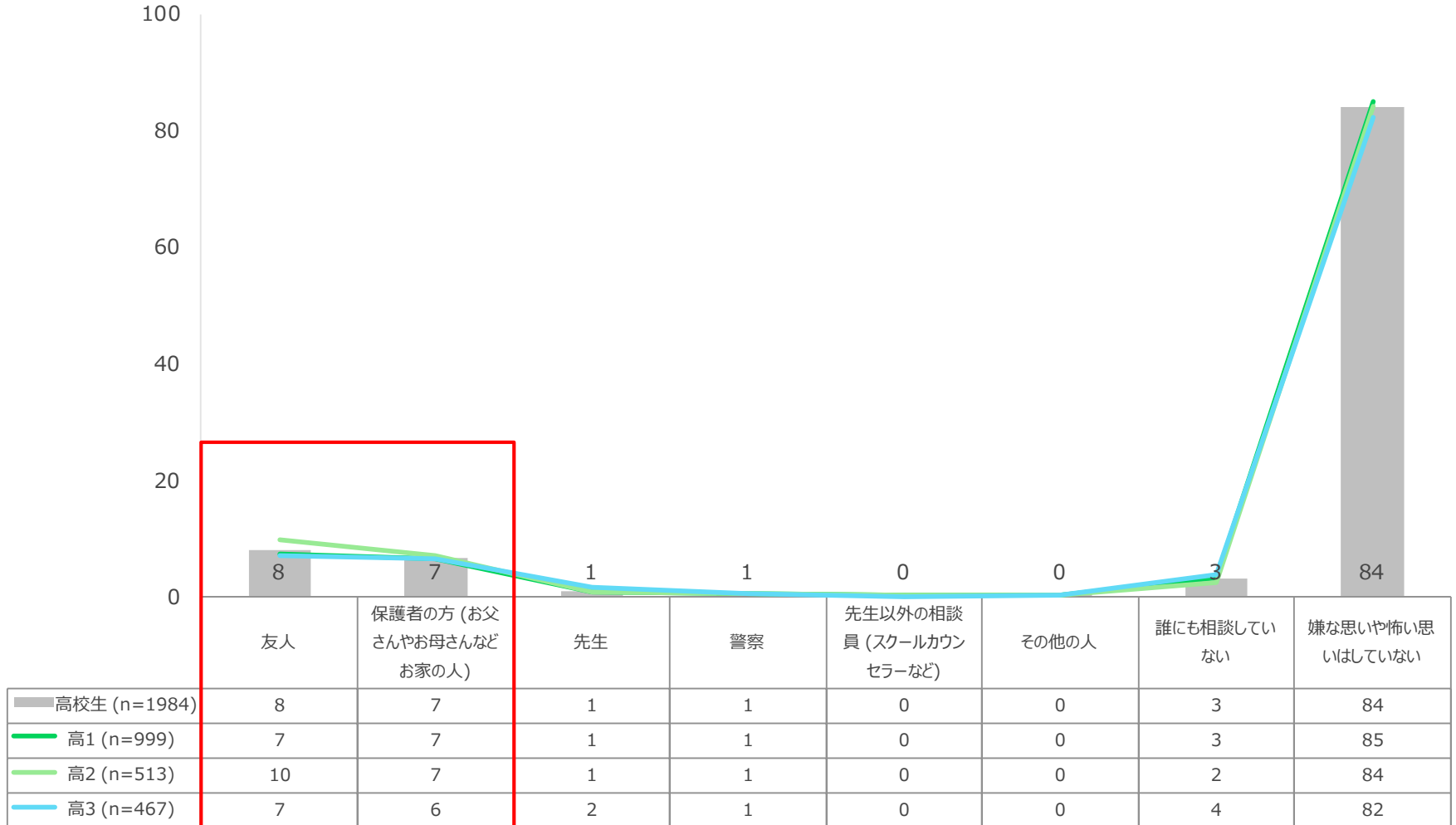
- 中学生全体では78%が「嫌な思いや怖い思いはしていない」と回答。学年間で大きな差はない。
- 経験ある人の相談相手の上位は「保護者の方」「友人」で10%。中3は「友人」のほうが高い。

(%) Q17 2019年4月から今日までにネットサービスを使って嫌な思いや怖い思いをした経験有無&相談相手 (MA) [中学生]



- 高校生全体では84%が「嫌な思いや怖い思いはしていない」と回答。学年間で大きな差はない。
- 経験ある人の相談相手で最も高いのは「友人」で8%。次いで「保護者の方」が高く、7%。

(%) Q17 2019年4月から今日までにネットサービスを使って嫌な思いや怖い思いをした経験有無&相談相手 (MA) [高校生]



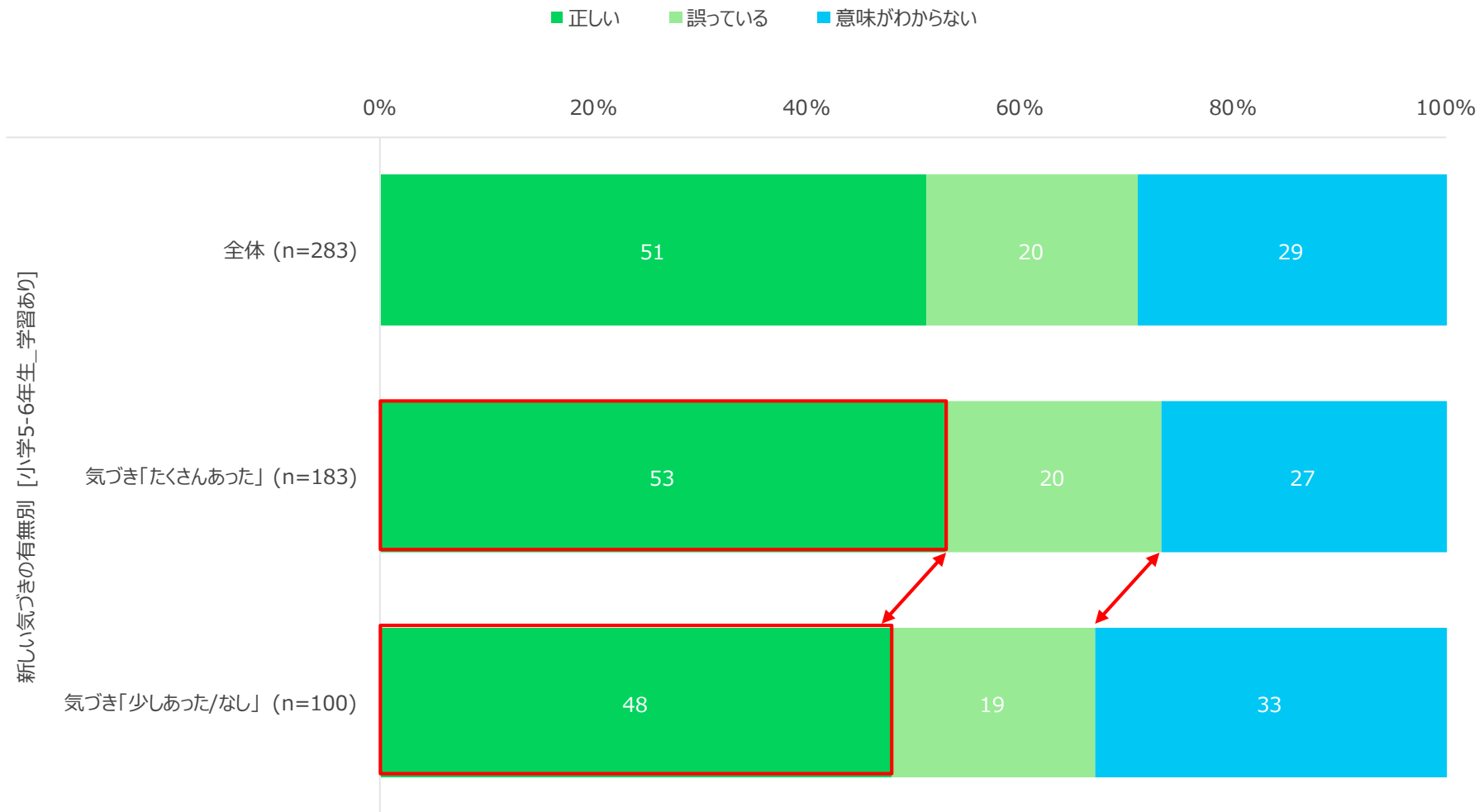
SNS東京ノートを使った授業 気づき有無別分析

(※ベース：授業受講者)

「ネットリテラシーの程度（歌詞の無断投稿の違法性）」との関係 [小学5-6年生] LINE 未来財団

- 最も割合が高いのは「正しい」で、気づき「たくさんあった」層は53%、「少しあった/なし」層は48%で、「たくさんあった」層のほうが5pt高い値となっている。
- また、質問の意味が理解できている割合も、気づき「たくさんあった」層のほうが6pt高い。

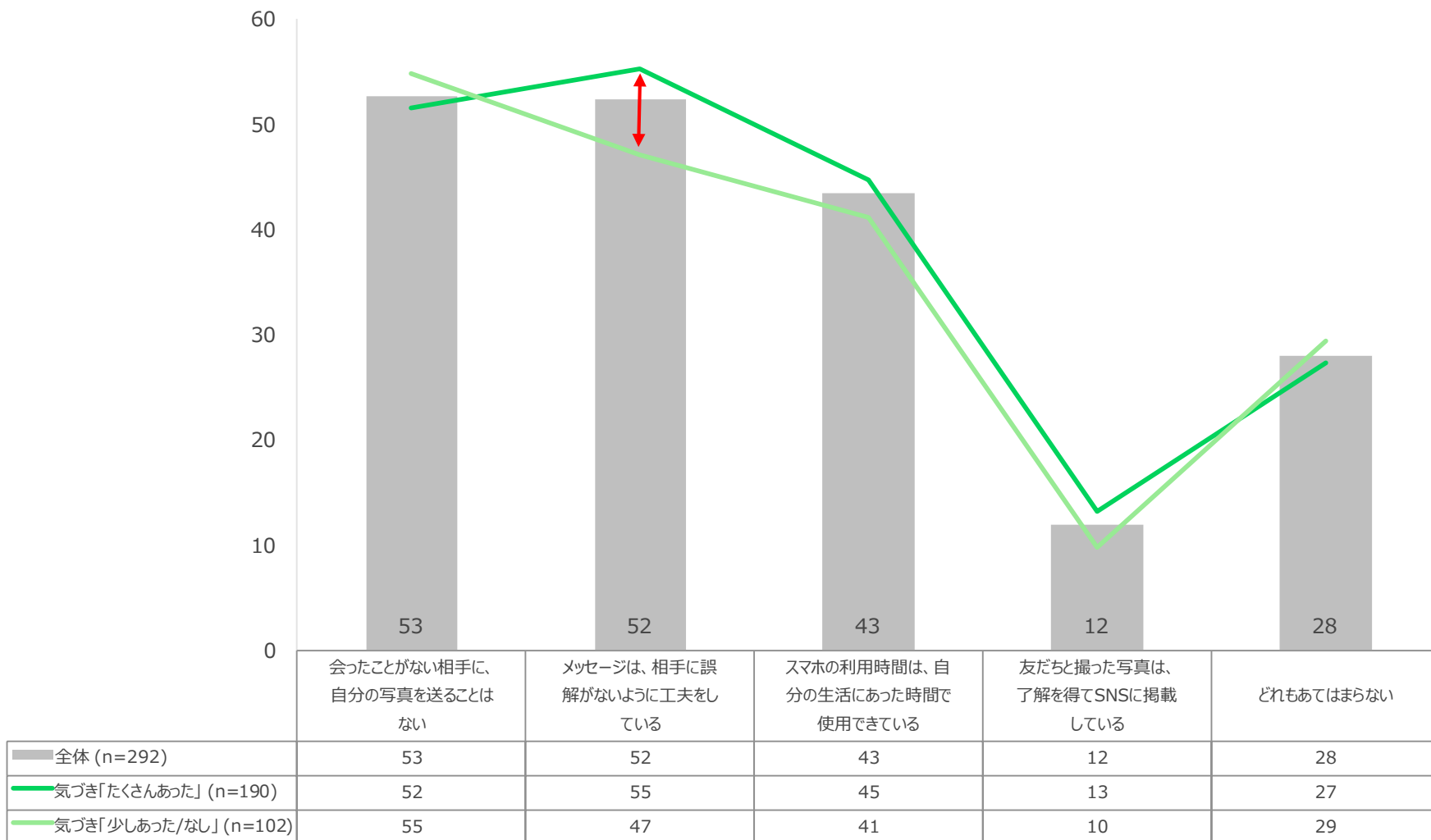
Q8 「アーティストの歌詞を勝手にネットにのせることは、法律違反だ」に対する考え [小学5-6年生]



「ネットトラブル対策」との関係 [小学5-6年生]

- 5pt以上の差が出ているのは「メッセージは、相手に誤解がないように工夫している」で、気づき「たくさんあった」層は55%、「少しあった/なし」層は47%。「たくさんあった」層のほうが8pt高い値となっている。

(%) Q9 ネット/スマホ関連の行動であてはまるもの [小学5-6年生] (MA)



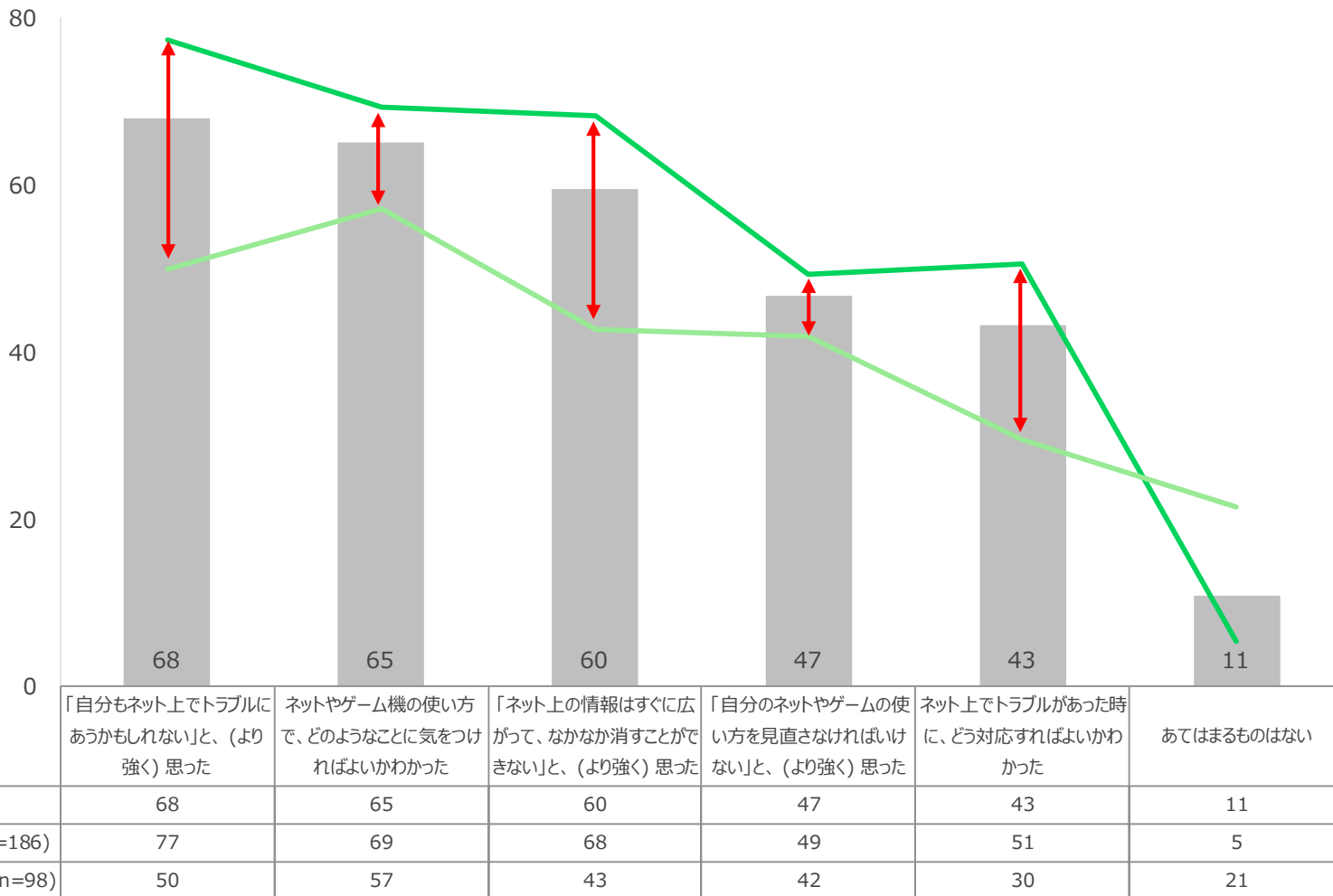
「SNS東京ノートを使った話し合い後の意識・態度」との関係 [小学5-6年生] LINE 未来財団

- ・ 排他選択肢（「あてはまるものはない」）以外は、気づき「たくさんあった」層のほうが7～27pt高い値となっている。最も差が出ているのは「自分もネット上でトラブルにあうかもしれないと、（より強く）思った」で27ptの差。

(%)

Q23 SNS東京ノートを使った話し合い後の意識・態度 (MA)

[小学5-6年生]



※ベース：2019年の4月以降、「SNS東京ノート」を使った授業を受けた経験あり

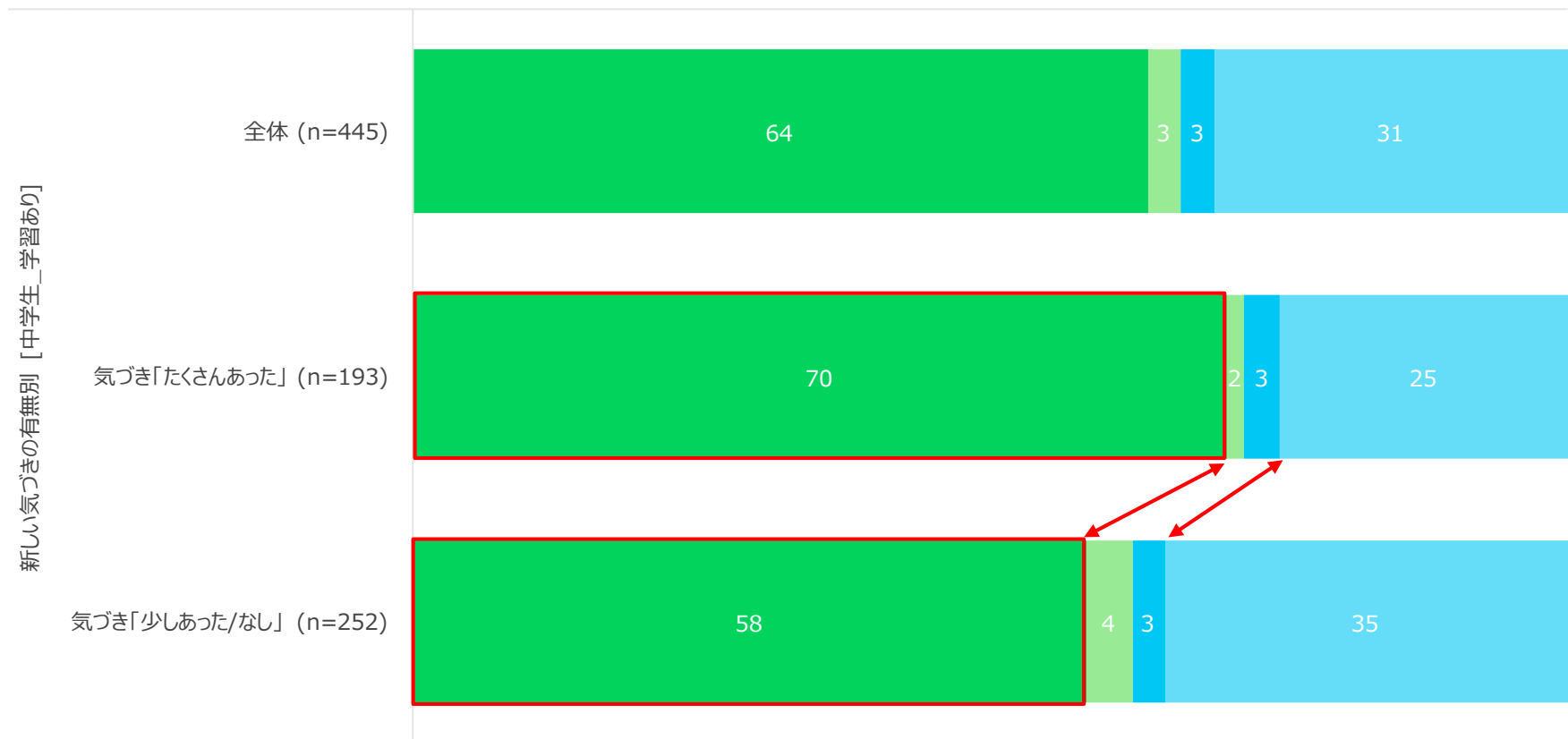
「ネットリテラシーの程度（ID交換掲示板）」との関係 [中学生]

- 最も割合が高いのは「気軽に利用すべきではない」で、気づき「たくさんあった」層は70%、「少しあった/なし」層は58%で、「たくさんあった」層のほうが12pt高い値となっている。
- また、質問の意味が理解できている割合も、気づき「たくさんあった」層のほうが10pt高い。

Q8 「コミュニケーションアプリのID交換掲示板に対する意識」として最も正しいと思うもの [中学生]

- 掲示板の書き込みは相手がどんな人か分からず、犯罪を企てる人もいる可能性があるため、気軽に利用すべきではない
- 単に ID を交換するだけなので、特に注意の必要はない
- こういった掲示板では必ずウイルスに感染するため危険である
- 言葉や内容の意味がわからない

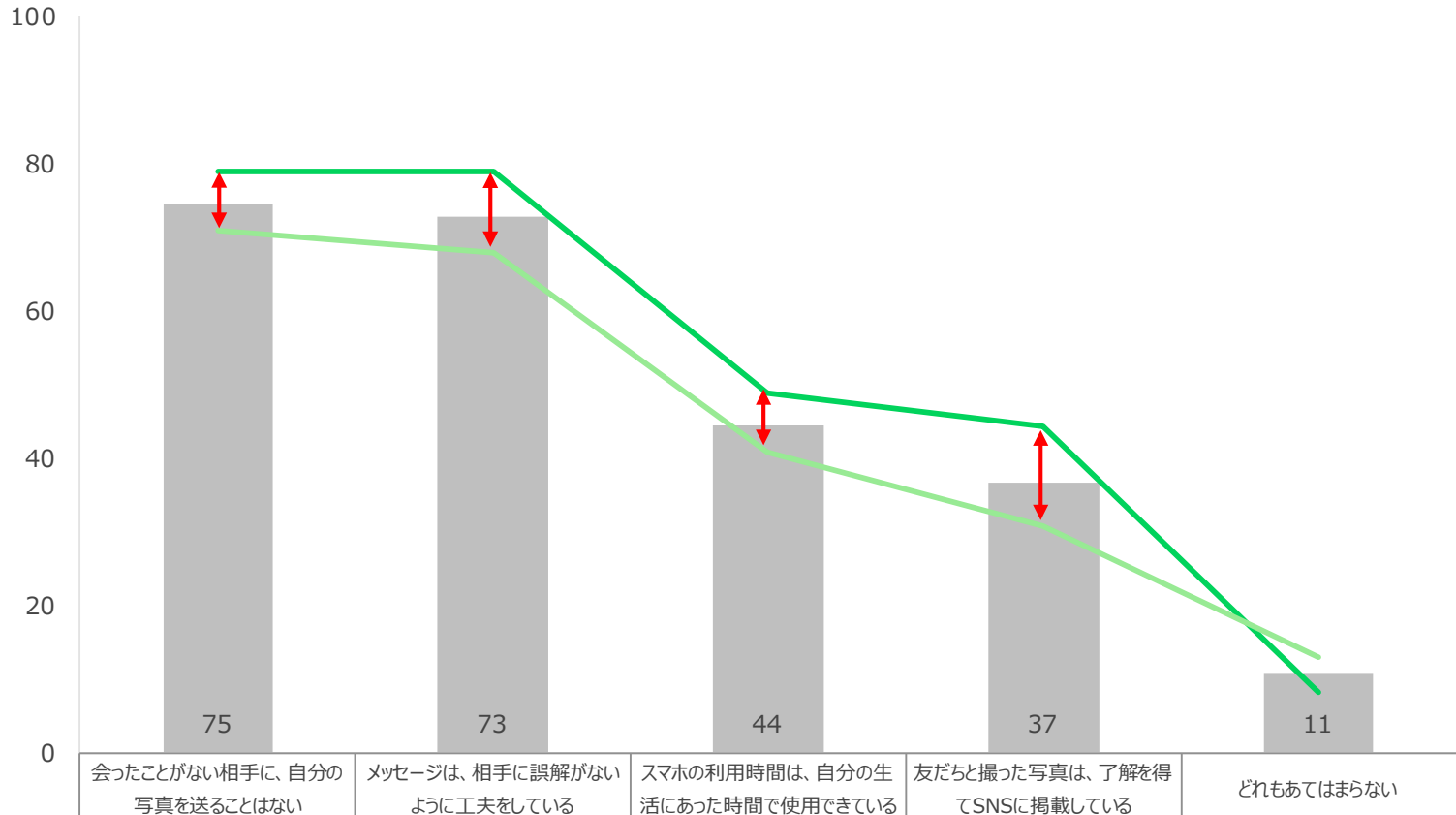
0% 20% 40% 60% 80% 100%



「ネットトラブル対策」との関係 [中学生]

- ・ 排他選択肢（「どれもあてはまらない」）以外は、気づき「たくさんあった」層のほうが8～13pt高い。
- ・ 最も差が出ているのは「友だちと撮った写真は、了解を得てSNSに掲載している」で、13ptの差。「メッセージは、相手に誤解がないように工夫している」は、11ptの差。

(%) Q9 ネット/スマホ関連の行動であてはまるもの [中学生] (MA)



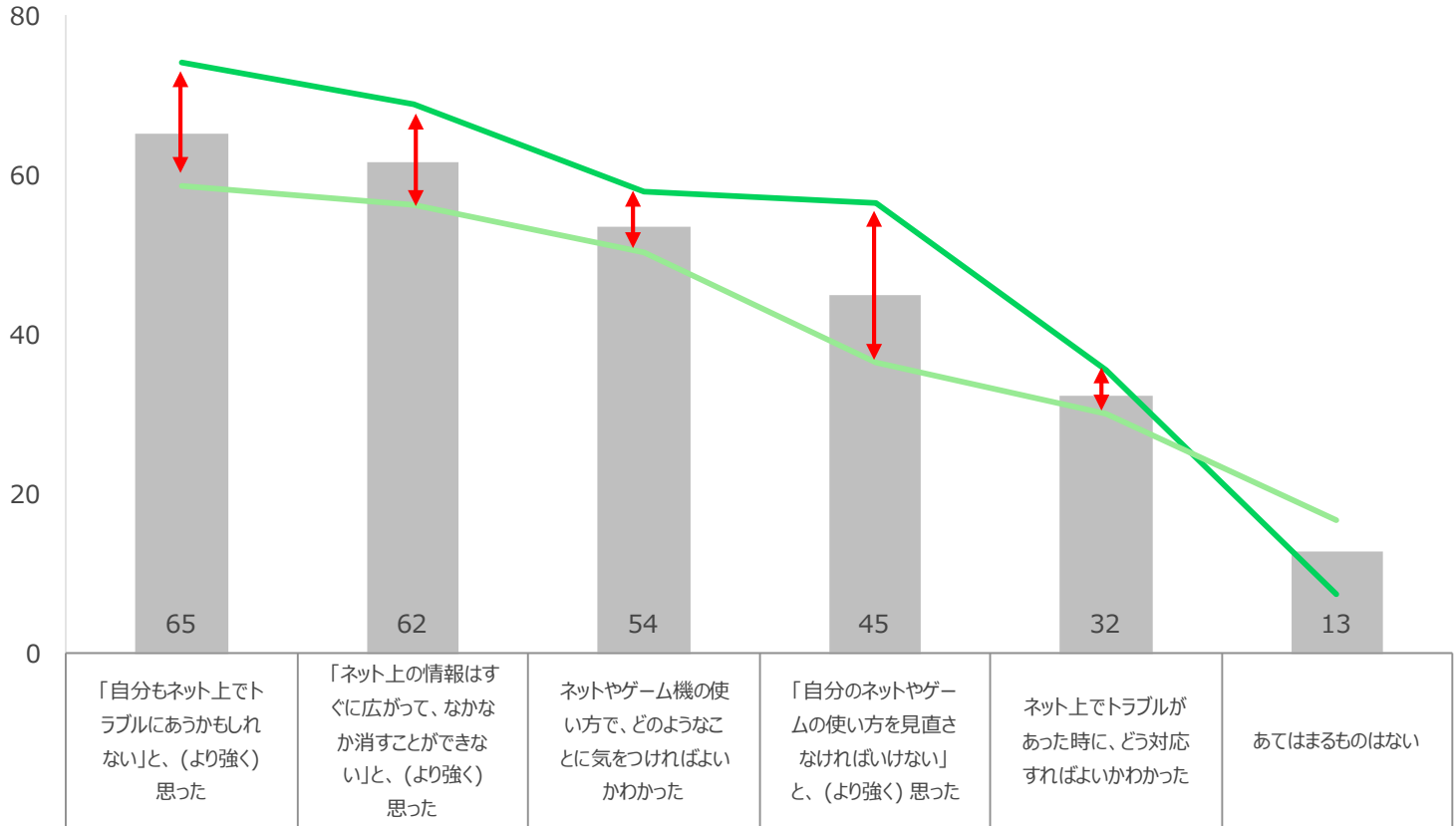
| | | | | | |
|------------------------|----|----|----|----|----|
| ■ 全体 (n=455) | 75 | 73 | 44 | 37 | 11 |
| ■ 気づき「たくさんあった」(n=196) | 79 | 79 | 49 | 44 | 8 |
| ■ 気づき「少しあった/なし」(n=259) | 71 | 68 | 41 | 31 | 13 |

- ・ 排他選択肢（「あてはまるものはない」）以外は、気づき「たくさんあった」層のほうが5～19pt高い値となっている。最も差が出ているのは「自分のネットやゲームの使い方を見直さなければいけないと、（より強く）思った」で19ptの差。

(%)

Q23 SNS東京ノートを使った話し合い後の意識・態度 (MA)

[中学生]



| | | | | | | |
|------------------------|----|----|----|----|----|----|
| ■ 全体 (n=438) | 65 | 62 | 54 | 45 | 32 | 13 |
| ■ 気づき「たくさんあった」(n=186) | 74 | 69 | 58 | 56 | 35 | 8 |
| ■ 気づき「少しあった/なし」(n=252) | 59 | 56 | 50 | 37 | 30 | 17 |

※ベース：2019年の4月以降、「SNS東京ノート」を使った授業を受けた経験あり

「ネットリテラシーの程度（ID交換掲示板）」との関係 [高校生]

- 最も割合が高いのは「気軽に利用すべきではない」で、気づき「たくさんあった」層は79%、「少しあった/なし」層は74%で、「たくさんあった」層のほうが5pt高い値となっている。
- また、質問の意味が理解できている割合も、気づき「たくさんあった」層のほうが5pt高い。

Q8「コミュニケーションアプリのID交換掲示板に対する意識」として最も正しいと思うもの [高校生]

- 掲示板の書き込みは相手がどんな人か分からず、犯罪を企てる人もいる可能性があるため、気軽に利用すべきではない
- 単に ID を交換するだけなので、特に注意の必要はない
- こういった掲示板では必ずウイルスに感染するため危険である
- 言葉や内容の意味がわからない

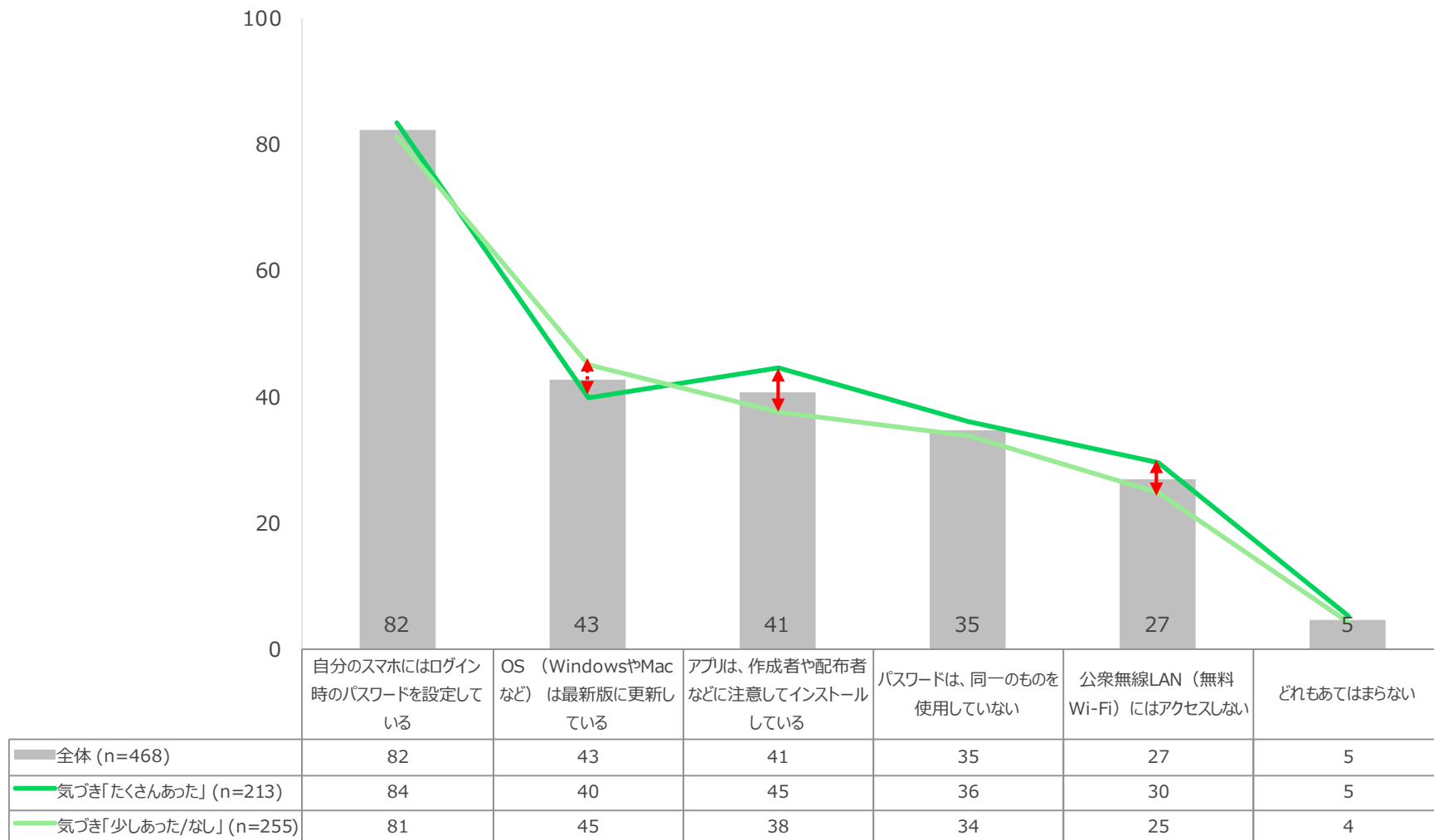
0% 20% 40% 60% 80% 100%



「ネットトラブル対策」との関係 [高校生]

- 「アプリは、作成者や配布者などに注意してインストールしている」は7pt、「公衆無線LANにはアクセスしない」は5pt、気づき「たくさんあった」層のほうが高い値となっている。
- 「OSは最新版に更新している」は、気づき「少しあった/なし」層のほうが高い。

(%) Q9 ネット/スマホ関連の行動であてはまるもの [高校生] (MA)



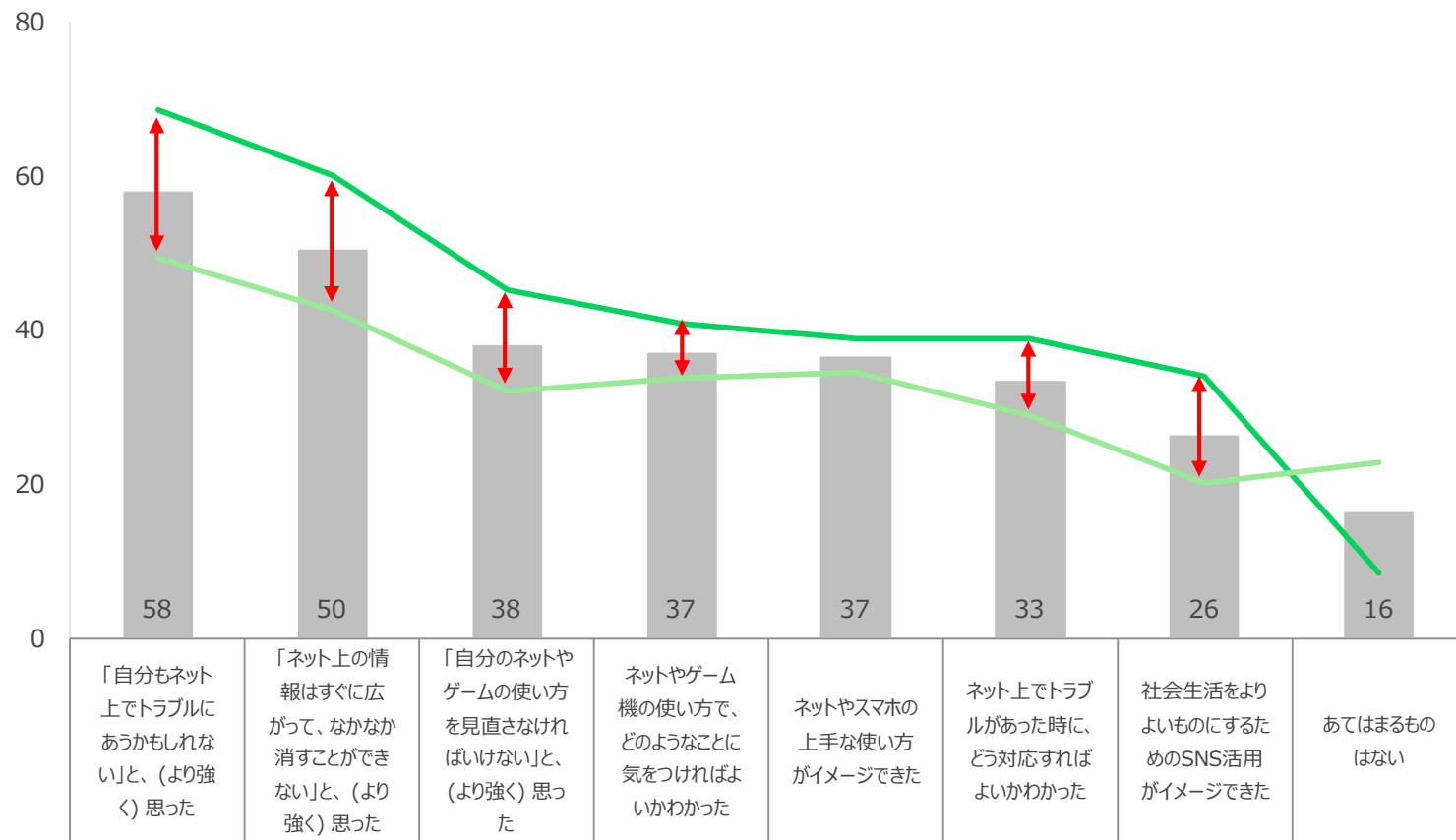
「SNS東京ノートを使った話し合い後の意識・態度」との関係 [高校生]

- ・ 排他選択肢（「あてはまるものはない」）以外は、気づき「たくさんあった」層のほうが4～19pt高い値となっている。最も差が出ているのは「自分もネット上でトラブルにあうかもしれないと、（より強く）思った」で19ptの差。

(%)

Q23 SNS東京ノートを使った話し合い後の意識・態度 (MA)

[高校生]



| | | | | | | | | |
|-------------------------|----|----|----|----|----|----|----|----|
| ■ 全体 (n=452) | 58 | 50 | 38 | 37 | 37 | 33 | 26 | 16 |
| ■ 気づき「たくさんあった」 (n=203) | 68 | 60 | 45 | 41 | 39 | 39 | 34 | 8 |
| ■ 気づき「少しあった/なし」 (n=249) | 49 | 43 | 32 | 34 | 35 | 29 | 20 | 23 |

※ベース：2019年の4月以降、「SNS東京ノート」を使った授業を受けた経験あり

SNS東京ノートを使った授業 教材の分類と意味付け

(※ベース：授業受講者)

授業実施後の回答データからみる教材の分類①

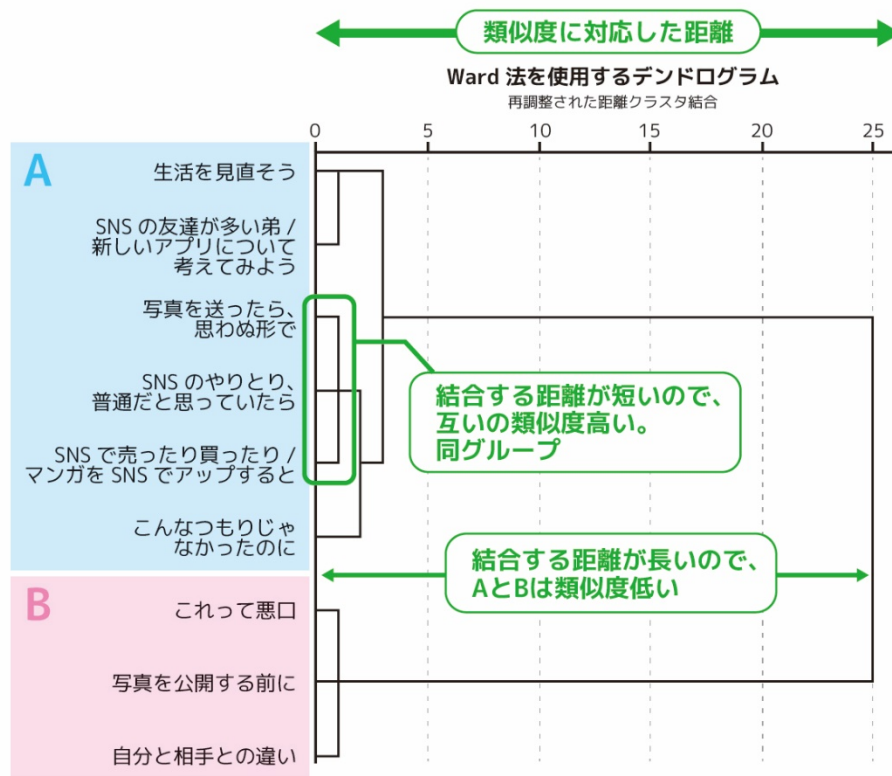
- 「SNS東京ノート」を使った話し合いをした後の意識に関するアンケート回答内容をベースに、学習した教材を分類する分析※を行ったところ、特に中学生、高校生において明確に2つのグループに分類された。小学生に関しては、分析結果に特筆すべき傾向はみられなかった。

※分析手法

クラスター分析：対象（ここでは教材）について、似たものをまとめてグループ（クラスター）を作り、分類する方法。

下記の通り、児童・生徒の授業実施後の意識に関する回答データの類似度に応じた距離で教材同士を結合させることにより樹形図(デンドログラム)を作成。回答パタンの似ている教材同士は互いに近い距離で結合し、中学生と高校生においては、2つのグループ(中学生→A,B 高校生→C,D)が形成された。

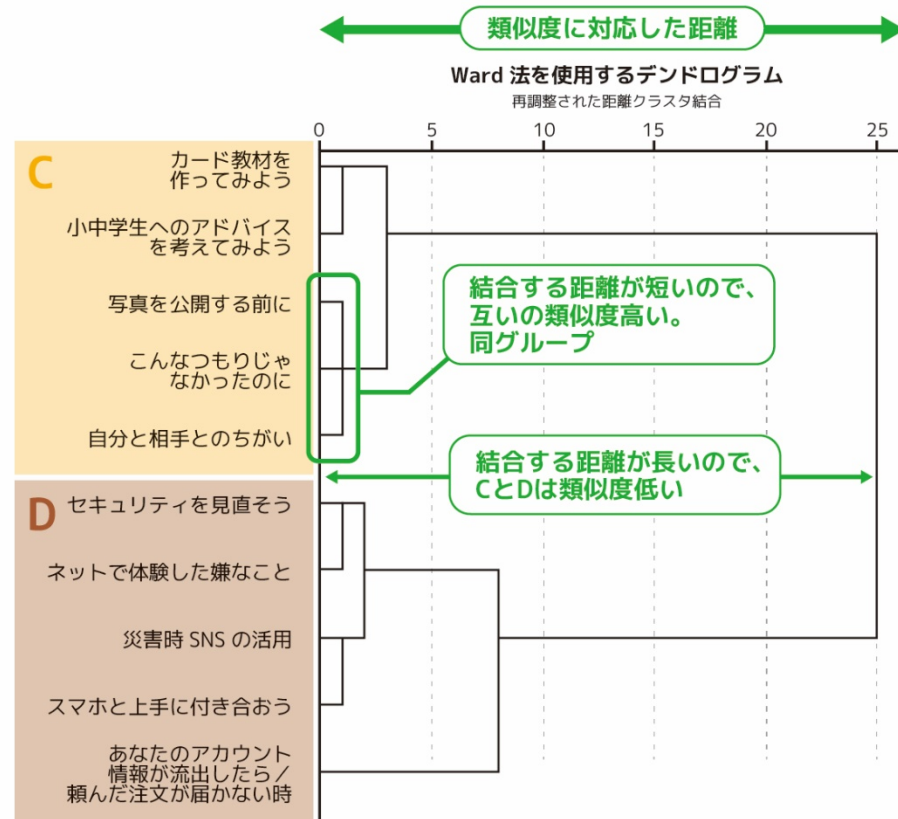
| | | Q23 SNS 東京ノートを使った話し合い後の意識・態度 (MA) | | | | | | | | | |
|-----|----------------------------------|------------------------------------|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| | | 「自分もネット上でトラブルにあうかもしれない」と、(より強く)思った | 「ネット上の情報はすぐに広がって、ながなが消すことができない」と、(より強く)思った | 「ネット上の情報はすぐに広がって、ながなが消すことができない」と、(より強く)思った | 「ネット上の情報はすぐに広がって、ながなが消すことができない」と、(より強く)思った | 「ネット上の情報はすぐに広がって、ながなが消すことができない」と、(より強く)思った | 「ネット上の情報はすぐに広がって、ながなが消すことができない」と、(より強く)思った | 「ネット上の情報はすぐに広がって、ながなが消すことができない」と、(より強く)思った | 「ネット上の情報はすぐに広がって、ながなが消すことができない」と、(より強く)思った | 「ネット上の情報はすぐに広がって、ながなが消すことができない」と、(より強く)思った | 「ネット上の情報はすぐに広がって、ながなが消すことができない」と、(より強く)思った |
| 中学生 | | 全体数 (人) | % | | | | | | | | |
| 教材 | 自分と相手との違い | 384 | 65 | 62 | 54 | 46 | 32 | 0 | 0 | 14 | |
| | これって悪口 | 327 | 65 | 61 | 52 | 46 | 34 | 0 | 0 | 14 | |
| | 写真を公開する前に | 342 | 66 | 62 | 53 | 47 | 34 | 0 | 0 | 13 | |
| | こんなつもりじゃなかったのに | 215 | 64 | 59 | 51 | 46 | 38 | 0 | 0 | 18 | |
| | 生活を見直そう | 148 | 60 | 55 | 48 | 45 | 40 | 0 | 0 | 22 | |
| | SNS で売ったり買ったり / マンガを SNS でアップすると | 150 | 59 | 59 | 47 | 47 | 39 | 0 | 0 | 21 | |
| | SNS の友達が多い弟 / 新しいアプリについて考えてみよう | 146 | 60 | 56 | 47 | 45 | 39 | 0 | 0 | 22 | |
| | 写真を送ったら、思わぬ形で | 165 | 64 | 59 | 48 | 47 | 41 | 0 | 0 | 20 | |
| | SNS のやりとり、普通だと思っていたら | 155 | 62 | 59 | 48 | 46 | 39 | 0 | 0 | 21 | |



※AグループとBグループの間の教材間の結合距離 (=25ポイント) は、各グループ内の教材間の結合距離 (<5ポイント) よりもはるかに大きい

授業実施後の回答データからみる教材の分類②

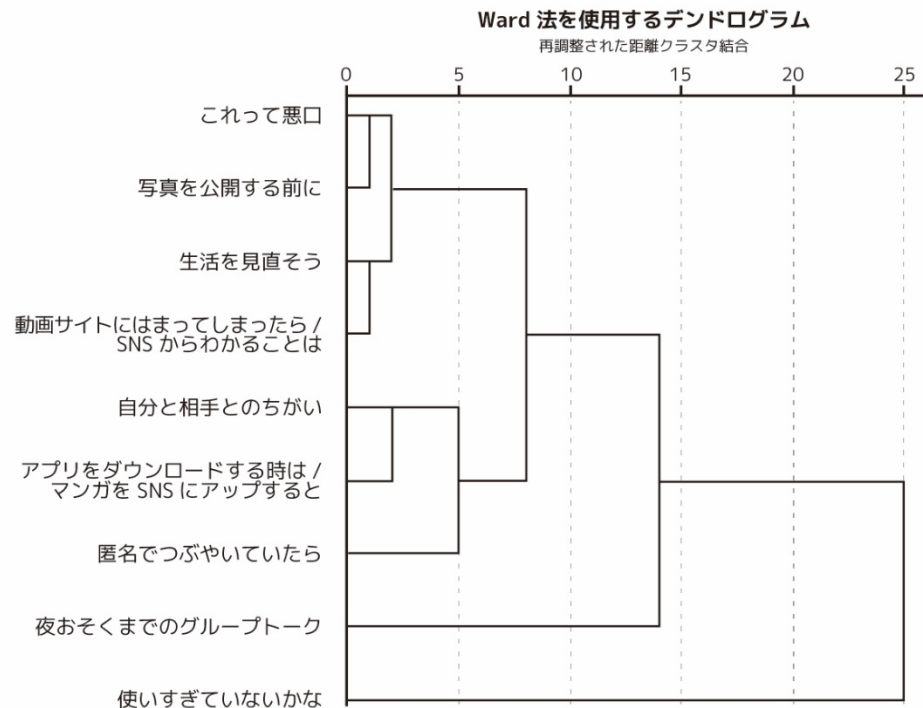
| 高校生 | | Q23 SNS 東京ノートを使った話し合い後の意識・態度 (MA) | | | | | | | | |
|-----|-------------------------------|-----------------------------------|----|----|----|----|----|----|----|----|
| | | 全体数 (人) | % | | | | | | | |
| 教材 | 自分と相手とのちがいがい | 364 | 61 | 41 | 52 | 39 | 28 | 35 | 40 | 15 |
| | 写真を公開する前に | 419 | 59 | 40 | 53 | 38 | 27 | 35 | 38 | 15 |
| | こんなつもりじゃなかったのに | 363 | 59 | 40 | 50 | 38 | 26 | 34 | 38 | 16 |
| | 災害時 SNS の活用 | 341 | 58 | 38 | 50 | 35 | 26 | 34 | 35 | 18 |
| | スマホと上手に付き合おう | 283 | 58 | 40 | 48 | 35 | 25 | 33 | 35 | 18 |
| | あなたのアカウント情報が流出したら／頼んだ注文が届かない時 | 203 | 51 | 36 | 39 | 34 | 23 | 32 | 33 | 23 |
| | セキュリティを見直そう | 273 | 57 | 38 | 45 | 35 | 23 | 32 | 33 | 19 |
| | ネットで体験した嫌なこと | 258 | 57 | 40 | 46 | 34 | 24 | 33 | 32 | 19 |
| | カード教材を作ってみよう | 283 | 60 | 40 | 52 | 40 | 32 | 35 | 41 | 16 |
| | 小中学生へのアドバイスを考えてみよう | 267 | 61 | 39 | 51 | 40 | 31 | 35 | 40 | 16 |



※CグループとDグループの間の教材間の結合距離 (=25ポイント) は、各グループ内の教材間の結合距離 (<10ポイント) よりもはるかに大きい

授業実施後の回答データからみる教材の分類③

| 小 5-6 | | Q23 SNS 東京ノートを使った話し合い後の意識・態度 (MA) | | | | | | | | |
|-------|-----------------------------------|-----------------------------------|----|----|----|---|---|----|----|----|
| | | 全体数 (人) | % | | | | | | | |
| 教材 | 自分と相手とのちがいが | 151 | 68 | 45 | 62 | 0 | 0 | 46 | 70 | 9 |
| | 使いすぎていないかな | 170 | 64 | 46 | 53 | 0 | 0 | 41 | 64 | 14 |
| | これって悪口 | 183 | 70 | 50 | 63 | 0 | 0 | 44 | 68 | 9 |
| | 写真を公開する前に | 231 | 70 | 49 | 62 | 0 | 0 | 45 | 69 | 10 |
| | 生活を見直そう | 155 | 68 | 50 | 63 | 0 | 0 | 41 | 69 | 10 |
| | 動画サイトにはまってしまったら / SNS からわかることは | 152 | 68 | 50 | 65 | 0 | 0 | 43 | 71 | 8 |
| | アプリをダウンロードする時は / マンガを SNS にアップすると | 108 | 68 | 46 | 65 | 0 | 0 | 46 | 74 | 7 |
| | 匿名でつぶやいていたら | 94 | 64 | 44 | 60 | 0 | 0 | 43 | 69 | 11 |
| | 夜おそくまでのグループトーク | 114 | 72 | 55 | 69 | 0 | 0 | 43 | 71 | 7 |



※教材間の結合距離に基づいた明確なグループ分けは困難

教材の意味付け

考察

- 情報モラル教育における考え方の枠組みとして、「法律違反」「他人への迷惑」「自分への被害」「情報技術」の4つからなる「判断観点」という概念(玉田・松田, 2004)が提唱されている。
- 教材の内容から、グループB・Cの教材はおもに「他人への迷惑」の判断観点に関係しており、グループA・Dの教材はおもに「自分への被害」の判断観点に関係していると解釈できる。
- 分析に用いた回答データには、中高生の情報モラルに関する考え方が反映されている。これより、中高生は情報モラルについて、「他人への迷惑」および「自分への被害」の二つの判断観点を有している、あるいは、それら二つの判断観点を有しているかのように反応することが示唆される。
- 中高生が上記の二つの判断観点を有している可能性を考慮することは、SNS東京ノート等の情報モラル教材の開発や運用を効果的に実施するうえで有効と思われる。

| | 中学生 | 高校生 |
|--------|--|--|
| 他人への迷惑 | B <ul style="list-style-type: none"> ● これって悪口* ● 写真を公開する前に* ● 自分と相手との違い* | C <ul style="list-style-type: none"> ● カード教材を作ってみよう* ● 小中学生へのアドバイスを考えてみよう* ● 写真を公開する前に* ● こんなつもりじゃなかったのに* ● 自分と相手とのちがいが* |
| 自分への被害 | A <ul style="list-style-type: none"> ● 生活を見直そう ● SNSの友達が多い弟 / 新しいアプリについて考えてみよう ● 写真を送ったら、思わぬ形で ● SNSのやりとり、普通だと思っていたら ● SNSで売ったり買ったり / マンガをSNSでアップすると ● こんなつもりじゃなかったのに | D <ul style="list-style-type: none"> ● セキュリティを見直そう ● ネットで体験した嫌なこと ● 災害時 SNS の活用 ● スマホと上手に付き合おう ● あなたのアカウント情報が流出したら / 頼んだ注文が届かない時 |

※カード教材：カード教材は、自分と他人との価値観が違うことや自分の行為が他人に迷惑をかける可能性があることを受講者に自覚させる意図で作成されている(酒井ら,2016)。

参考：玉田和恵・松田稔樹(2004)「3種の知識」による情報モラル指導法の開発、日本教育工学雑誌、28(2)、79-88

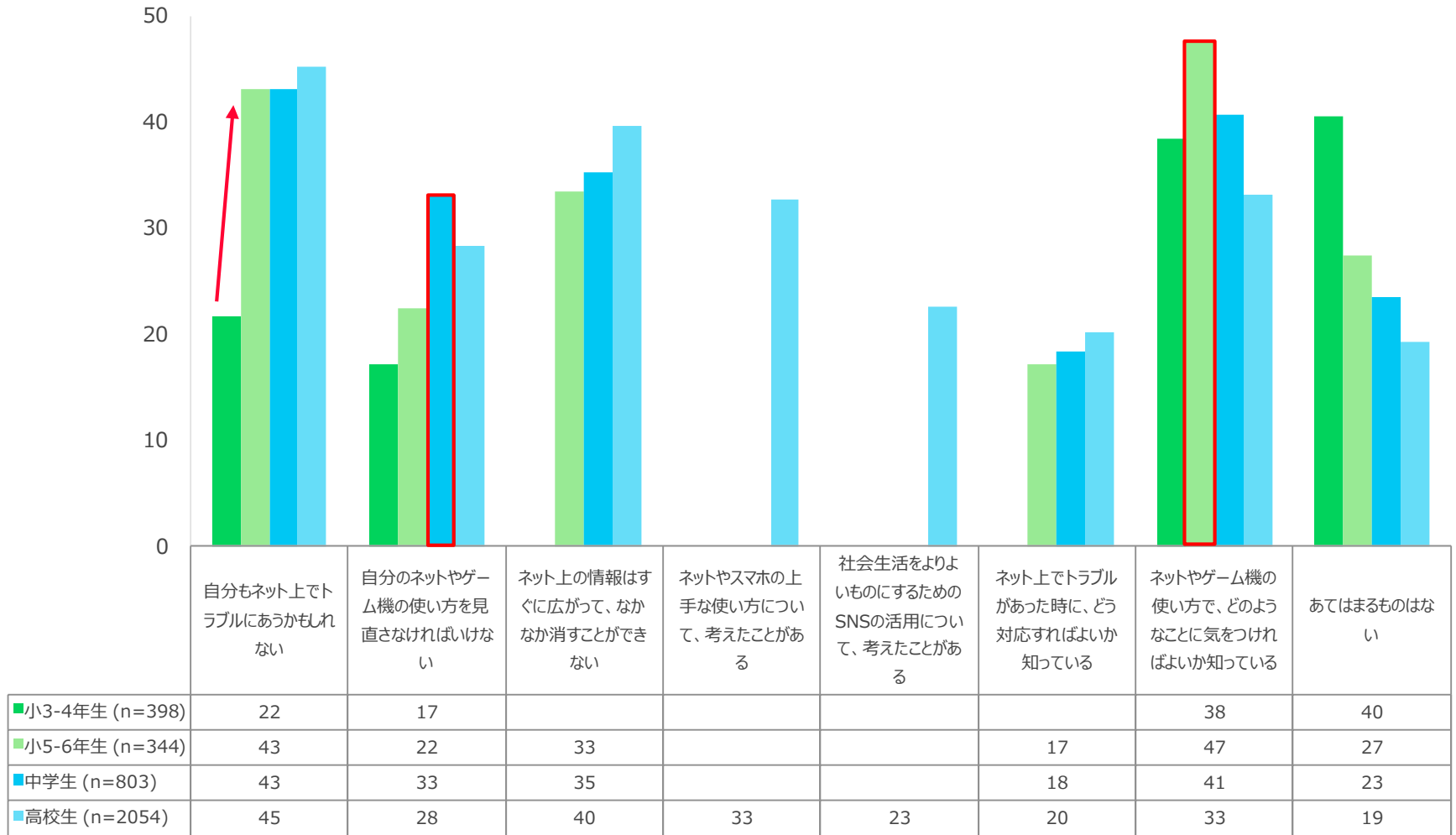
酒井郷平・塩田真吾・江口清貴(2016)「トラブルにつながる行動の自覚を促す情報モラル授業の開発と評価ー中学生のネットワークにおけるコミュニケーションに着目してー」、日本教育工学会論文誌39巻(Suppl.),pp.89-92

Appendix

ネット/ゲームの利用に対する意識・経験

- ・「自分もネット上でトラブルにあうかもしれない」は、小5-6年で21pt増加。意識が高まっている。
- ・「ネットやゲーム機の使い方でのどのようなことに気をつければよいか知っている」は小5-6年生が、「自分のネットやゲーム機の使い方を見直さなければいけない」は中学生が最も高い値となっている。

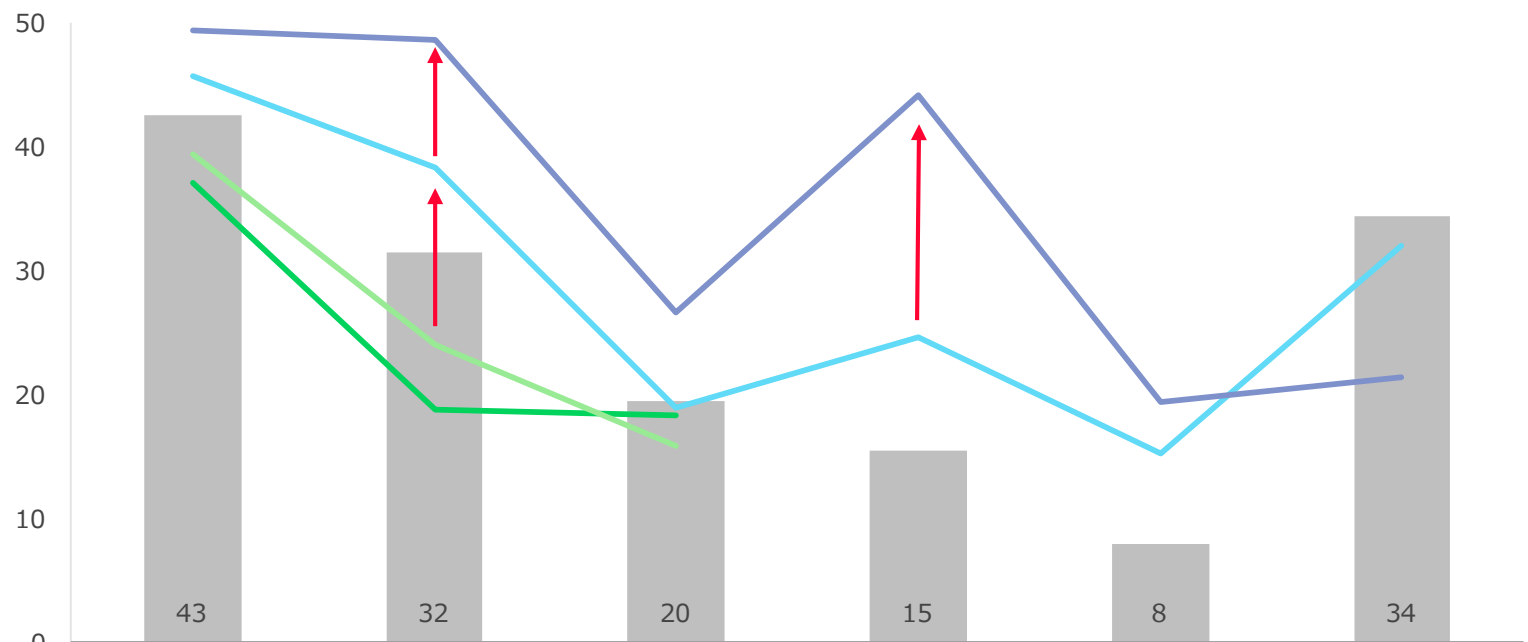
(%) Q15 2019年4月から今日までに、インターネットやゲーム機を使うことについて思ったり経験したりしたこと (MA)
[学年推移]



ネットやゲーム機を使うことについて思ったり経験したりしたこと [小学3-6年] LINE みらい財団

- 小3-6年全体で最も高いのは、「ネットやゲーム機の使い方で、どのようなことに気をつければよいか知っている」で43%。小4から小5にかけて、7pt増加している。
- 「ネット上の情報はすぐに広がって、なかなか消すことができない」は、小5から小6にかけて19pt増加。

(%) Q15 2019年4月から今日までに、インターネットやゲーム機を使うことについて思ったり経験したりしたこと (MA) [小学3-6年生]



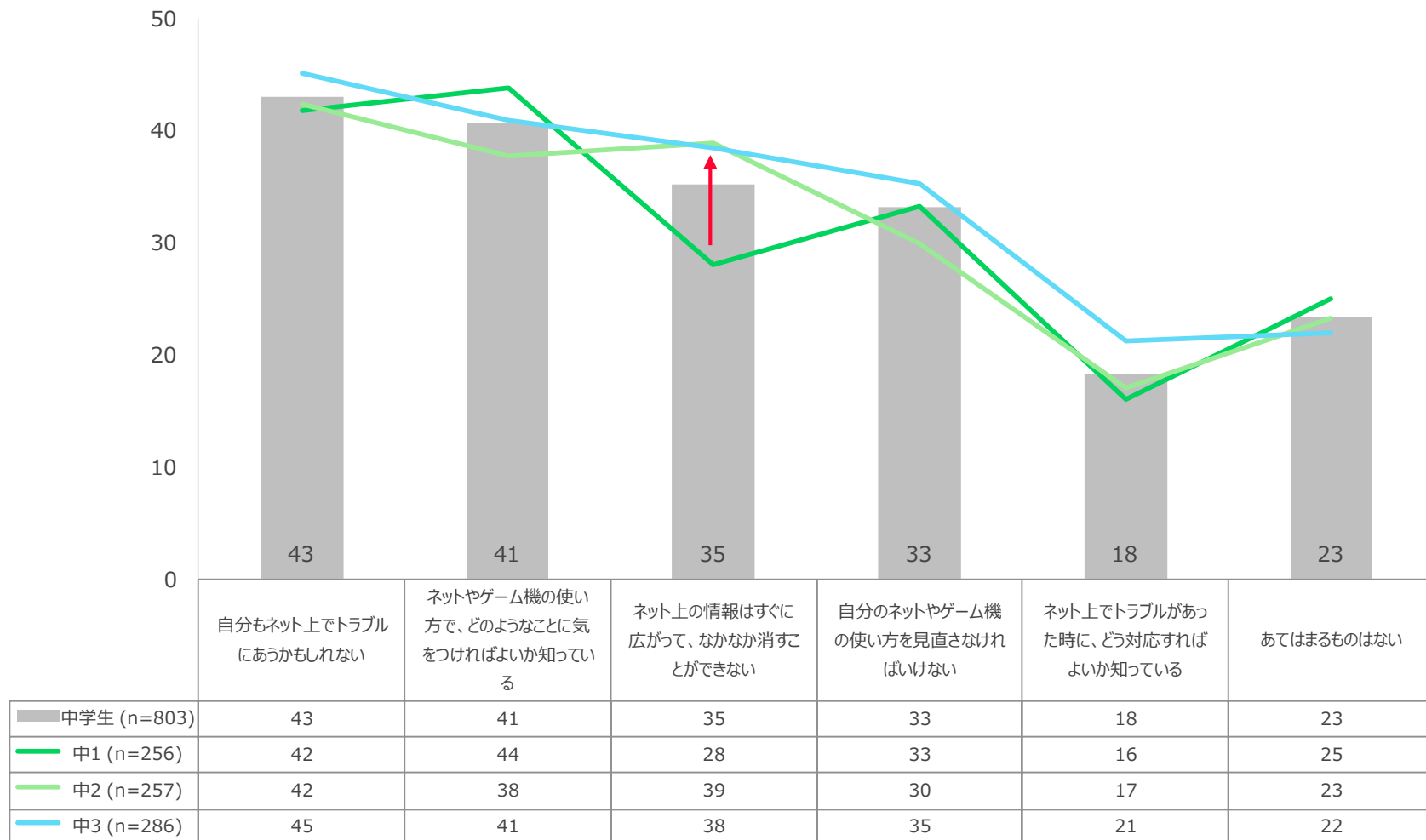
| | ネットやゲーム機の使い方で、どのようなことに気をつければよいか知っている | 自分もネット上でトラブルにあうかもしれない | 自分のネットやゲーム機の使い方を見直さなければいけない | ネット上の情報はすぐに広がって、なかなか消すことができない | ネット上でトラブルがあった時に、どう対応すればよいか知っている | あてはまるものはない |
|----------------------|--------------------------------------|-----------------------|-----------------------------|-------------------------------|---------------------------------|------------|
| ■ 小学生 (小3-6) (n=742) | 43 | 32 | 20 | 15 | 8 | 34 |
| ■ 小3 (n=202) | 37 | 19 | 18 | | | 42 |
| ■ 小4 (n=195) | 39 | 24 | 16 | | | 39 |
| ■ 小5 (n=190) | 46 | 38 | 19 | 25 | 15 | 32 |
| ■ 小6 (n=154) | 49 | 49 | 27 | 44 | 19 | 21 |

ネットやゲーム機を使うことについて思ったり経験したりしたこと [中学生]

- 中学生全体で最も高いのは、「自分もネット上でトラブルにあうかもしれない」で43%。
次点で、「ネットやゲーム機の使い方で、どのようなことに気をつければよいか知っている」が41%。
- 「ネット上の情報はすぐに広がって、なかなか消すことができない」は中1から中2にかけて11pt増加。

(%) Q15 2019年4月から今日までに、インターネットやゲーム機を使うことについて思ったり経験したりしたこと (MA)

[中学生]



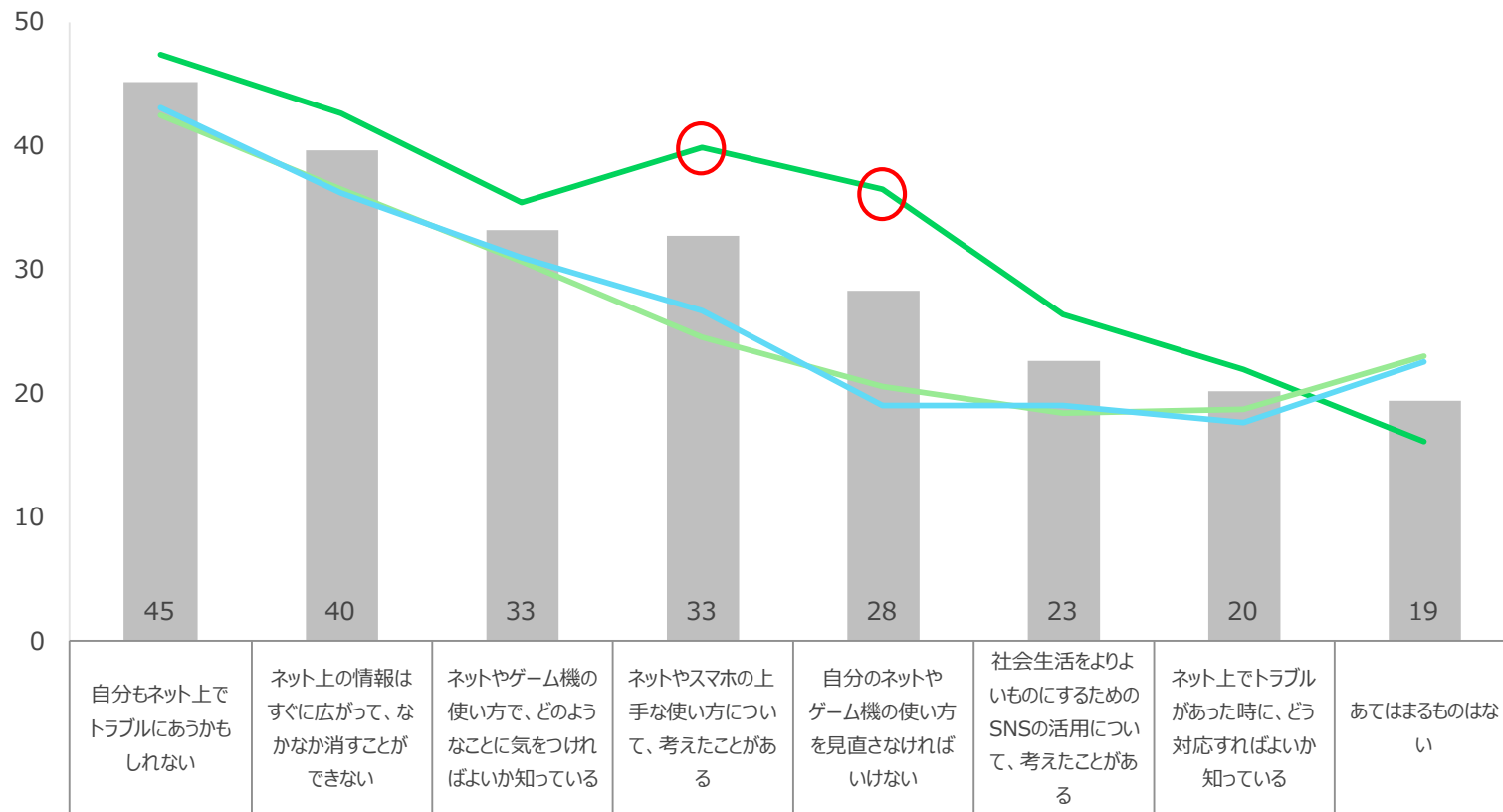
ネットやゲーム機を使うことについて思ったり経験したりしたこと [高校生]

- 高校生全体で最も高いのは、中学生同様「自分もネット上でトラブルにあうかもしれない」で45%。次点で「ネット上の情報はすぐに広がって、なかなか消すことができない」で40%。
- 「ネットやスマホの上手な使い方について考えたことがある」などで、高1が他学年より高い。

(%)

Q15 2019年4月から今日までに、インターネットやゲーム機を使うことについて思ったり経験したりしたこと (MA)

[高校生]



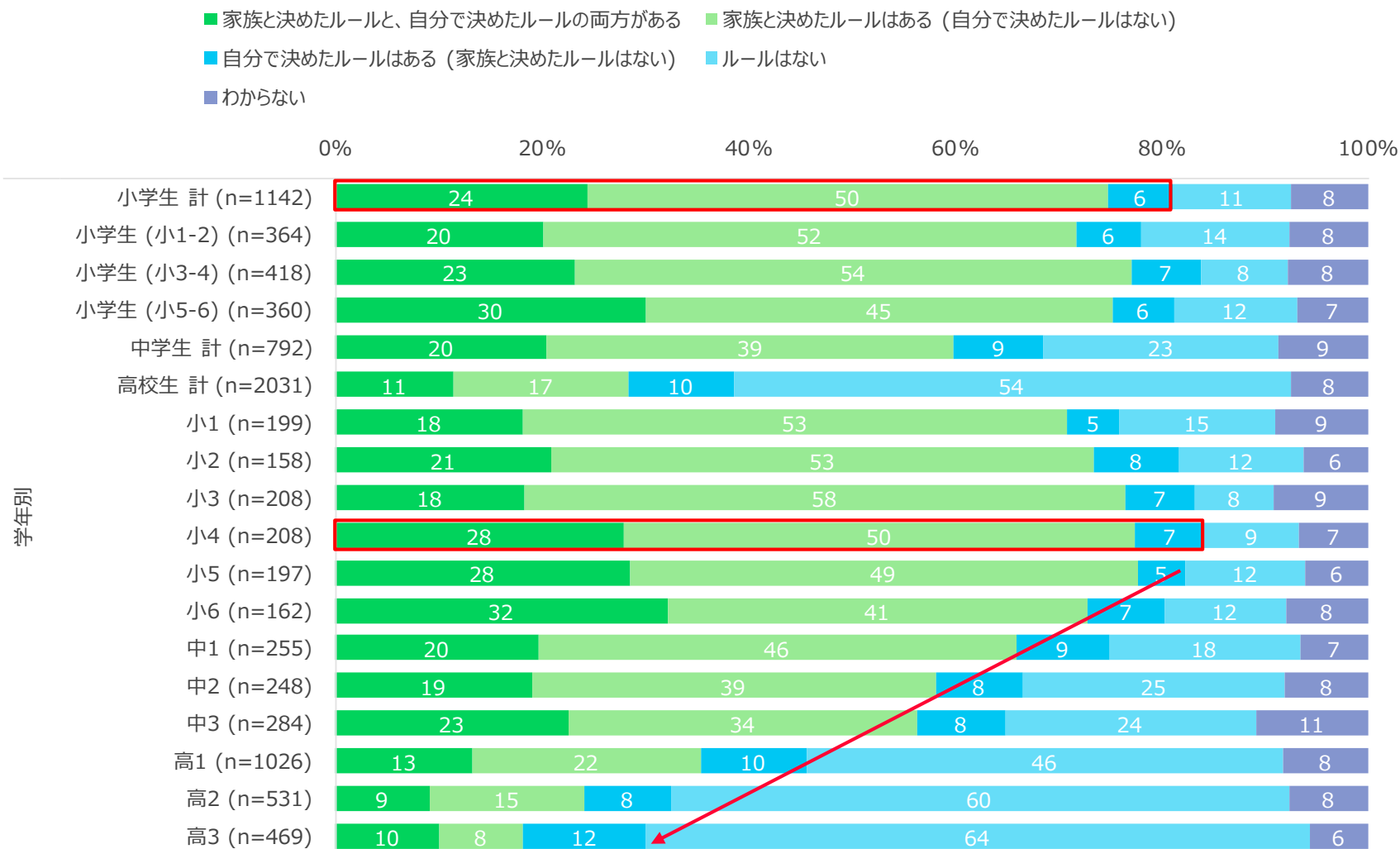
| | | | | | | | | |
|----------------|----|----|----|----|----|----|----|----|
| ■ 高校生 (n=2054) | 45 | 40 | 33 | 33 | 28 | 23 | 20 | 19 |
| ■ 高1 (n=1039) | 47 | 43 | 35 | 40 | 36 | 26 | 22 | 16 |
| ■ 高2 (n=532) | 42 | 36 | 31 | 24 | 20 | 18 | 19 | 23 |
| ■ 高3 (n=479) | 43 | 36 | 31 | 27 | 19 | 19 | 18 | 23 |

家庭でのネット/ゲーム機使用に関するルールについて

家庭内のインターネットやゲーム機を使うときのルール

- 小学生の8割に、家族または自分で決めたルールがある。最も多いのが「家族と決めたルールがある（自分で決めたルールはない）」で41%～58%。
- ルールがある割合は、小4が最も高く、そこからは学年が上がるにつれて減少していく。

Q13 家庭内のインターネットやゲーム機を使うときのルール



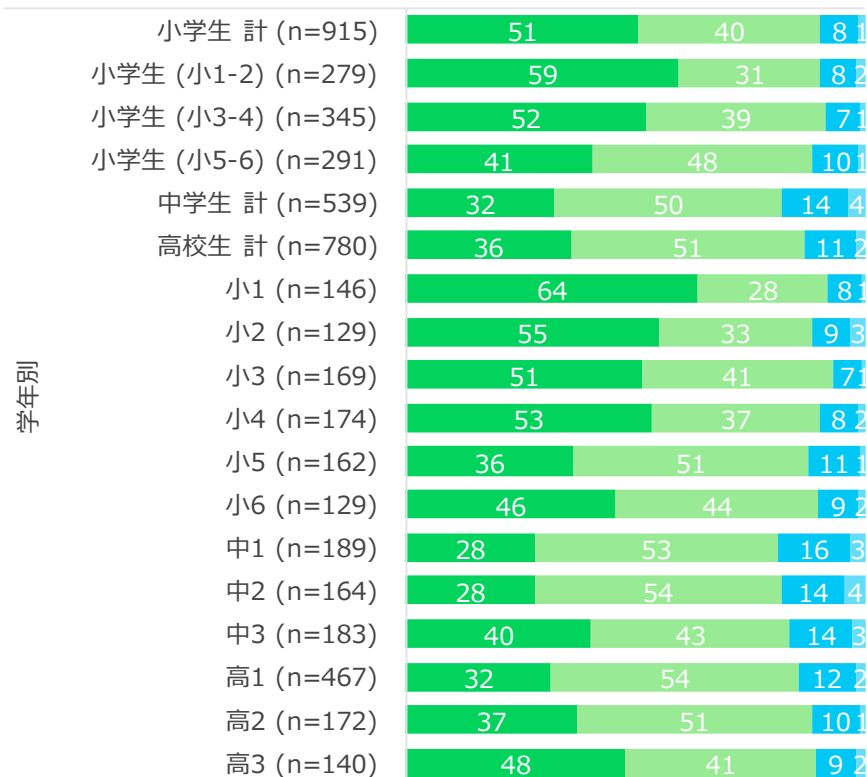
家庭内のインターネットやゲーム機を使うときのルールを守っているか

- ルールを守っている割合（よく守っている+まあまあ守っている）は、どの学年でも前回からの大きな変化はみられない。
- ただし、前回までと比べると、小5-6年生で「よく守っている」割合が徐々に低下している様子はみられた。

Q14 家庭内のインターネットやゲーム機を使うときの
ルールを守っているか

■ よく守っている ■ まあまあ守っている
■ あまり守っていない ■ まったく守っていない

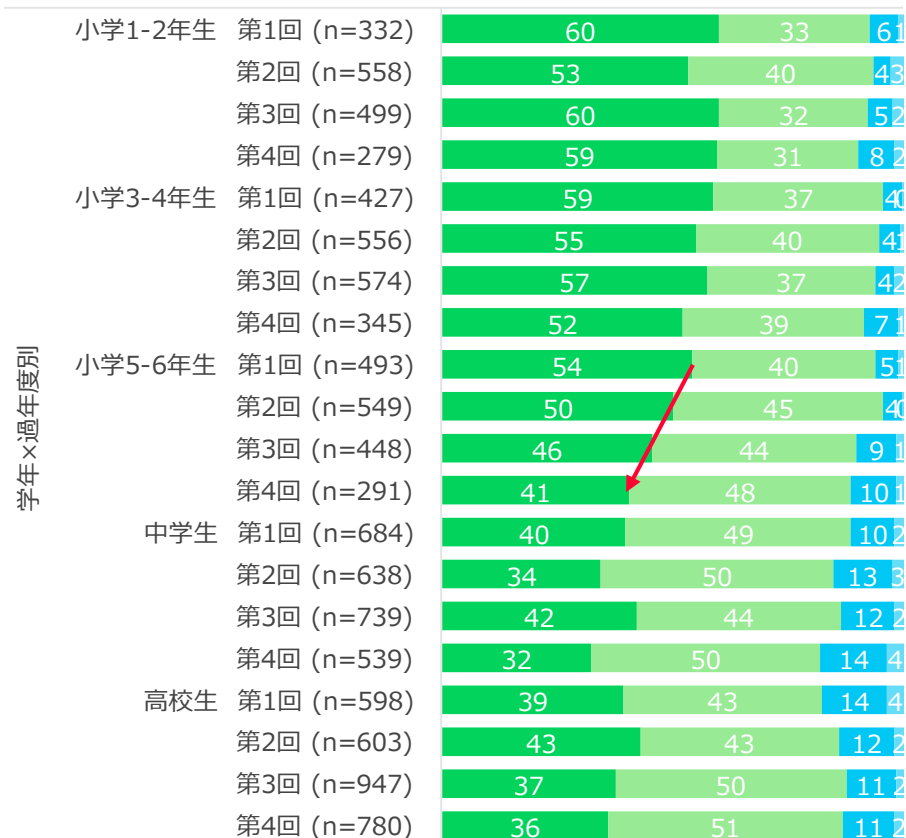
0% 20% 40% 60% 80% 100%



Q14 家庭内のインターネットやゲーム機を使うときの
ルールを守っているか

■ よく守っている ■ まあまあ守っている
■ あまり守っていない ■ まったく守っていない

0% 20% 40% 60% 80% 100%



SNS東京ノートを使った授業の受講状況と評価

「SNS東京ノート」で学習した内容/気づきの有無 [小学1-2年生]

- ・ 受講率は、「生活を見直そう」(80%) が最も高く、「つかいすぎていないかな①」(71%) が続く。
- ・ 気づきのあった割合は、「教えていいこと悪いこと」(79%) ※n=28が最も高く、「おうちの人とのやくそく」(76%) が続く。逆に最も低いのは「つかいすぎていないかな②」(62%) 。

Q14 SNS東京ノートで学習した内容 [小学1-2年生]

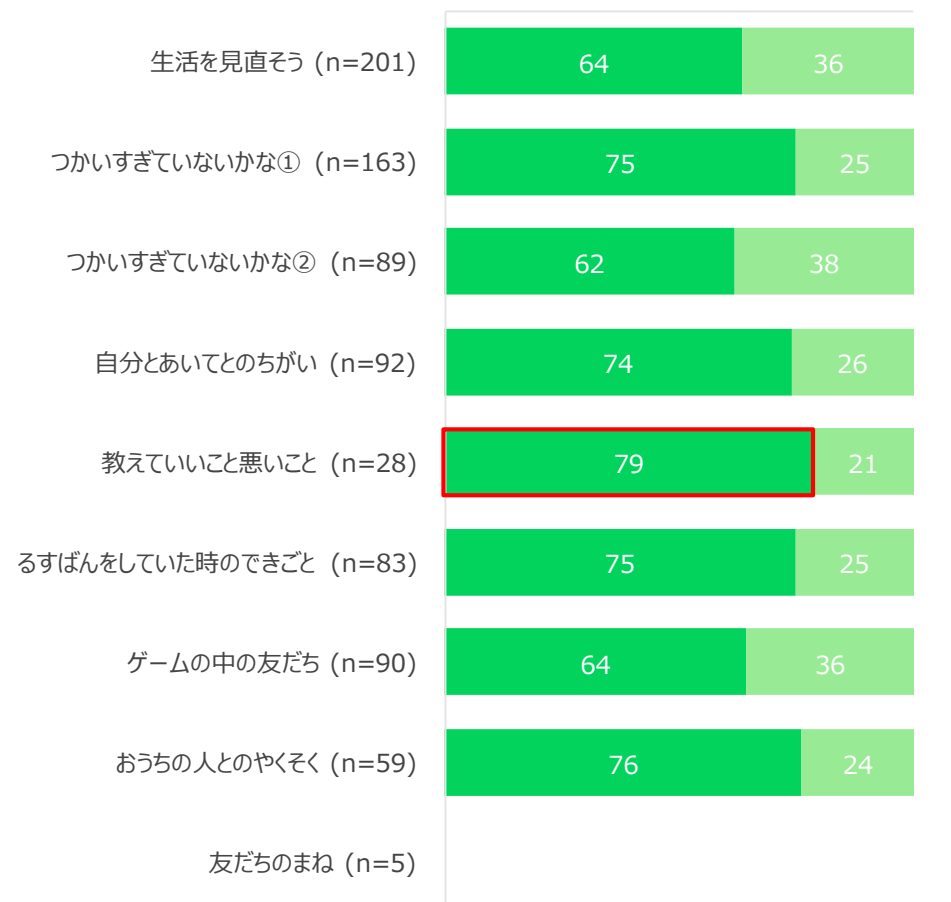
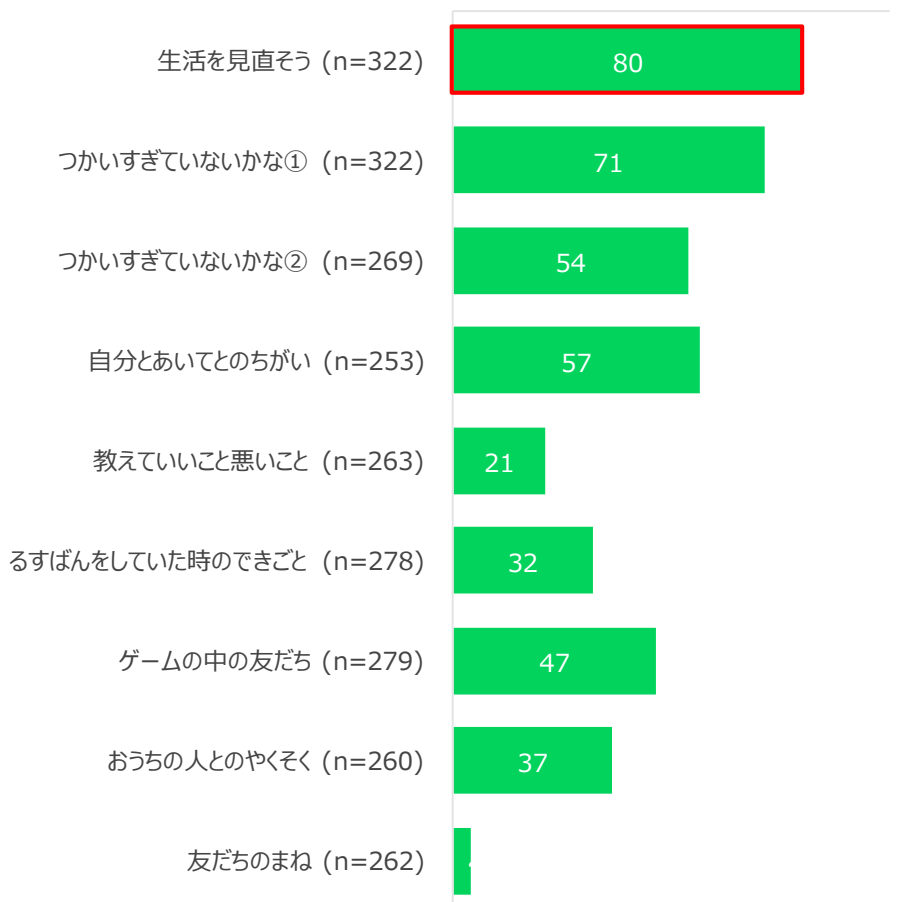
Q15 新しい気づきの有無 [小学1-2年生]

■ 学習した

■ あった ■ なかった

0 20 40 60 80 100

0% 20% 40% 60% 80% 100%

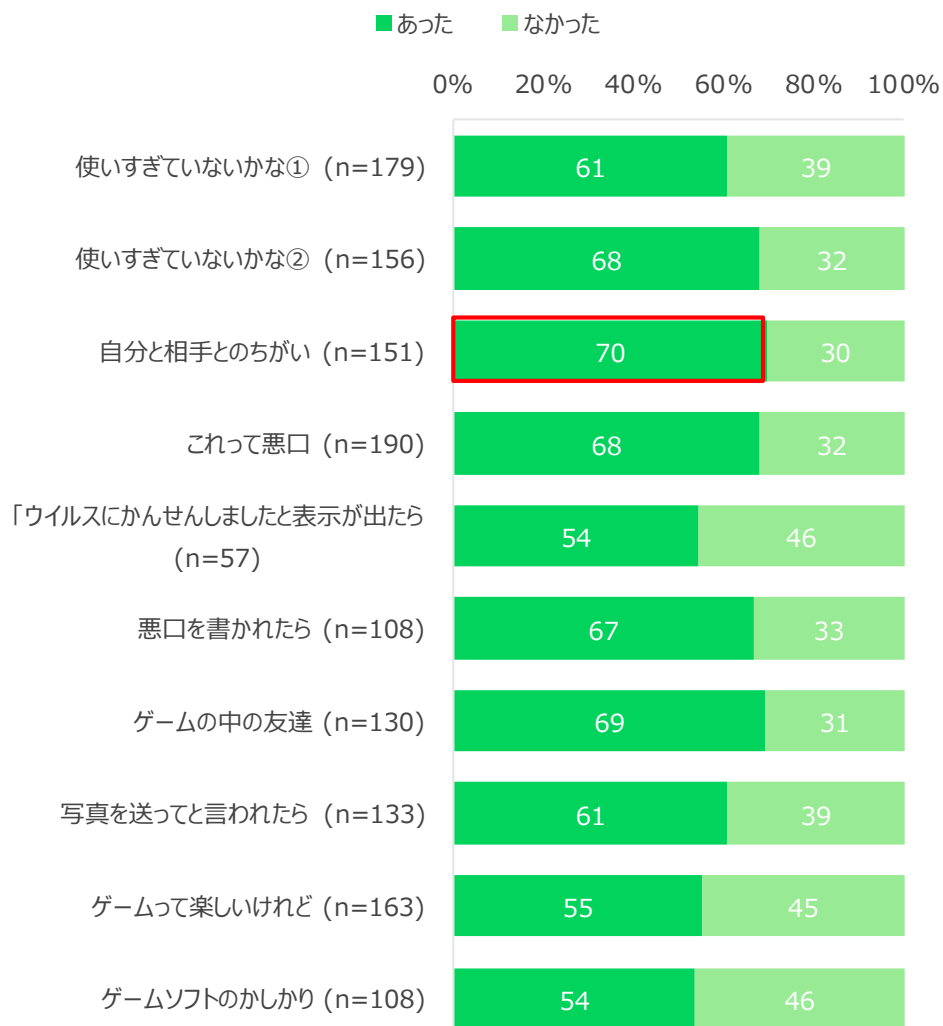
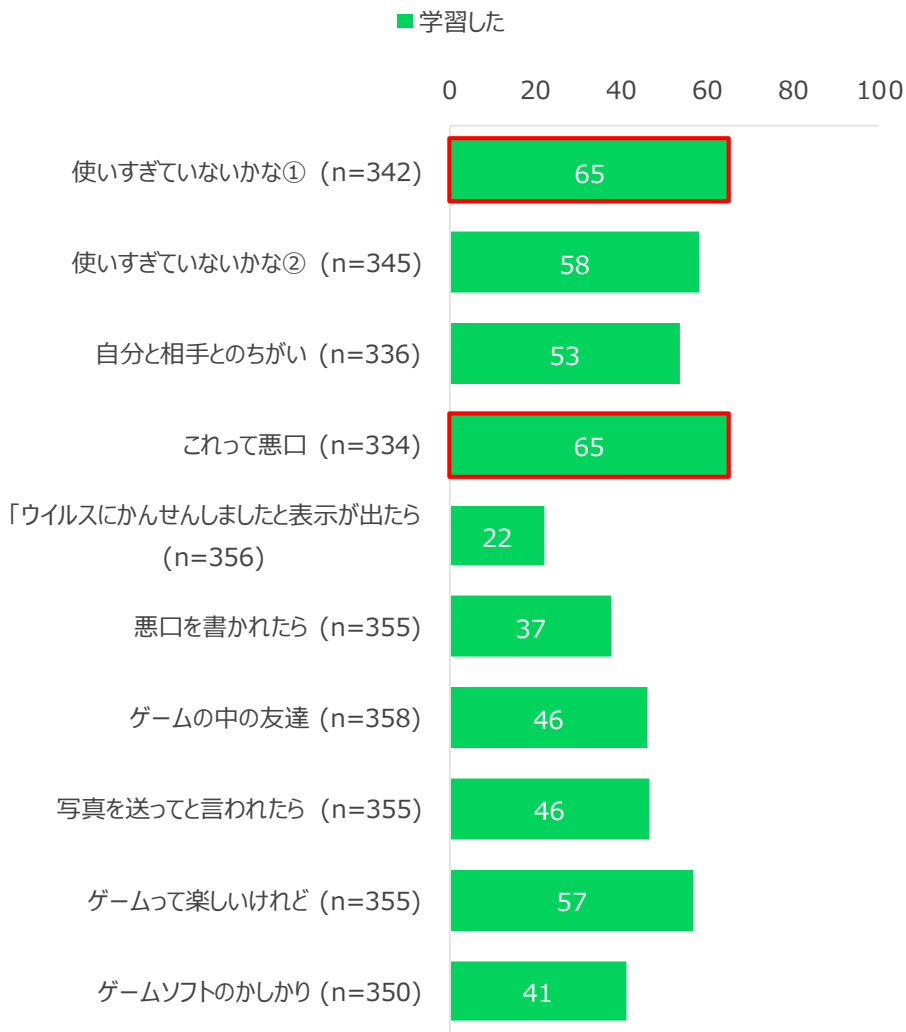


「SNS東京ノート」で学習した内容/気づきの有無 [小学3-4年生]

- ・ 受講率は「使いすぎていないかな①」と「これって悪口」がともに65%で上位。
- ・ 気づきのあった割合は、「自分と相手とのちがい」(70%) が最も高く、「ゲームの中の友達」(69%) が続く。低いのは「ウイルスにかんせんしましたと表示されたら」「ゲームソフトのかしかり」で54%。

Q15 SNS東京ノートで学習した内容 [小学3-4年生]

Q16 新しい気づきの有無 [小学3-4年生]



「SNS東京ノート」で学習した内容/気づきの有無 [小学5-6年生]

- ・ 受講率は「写真を公開する前に」(85%)が最も高く、「これって悪口」(66%)が続く。
- ・ 気づきのあった割合(たくさんあった+少しあった)は、どの単元も8割超となっている。『たくさんあった』割合が最も高いのは「これって悪口」で43%。次いで「写真を公開する前に」「生活を見直そう」が41%で続く。

Q18 SNS東京ノートで学習した内容 [小学5-6年生]

■ 学習した

0 20 40 60 80 100

自分と相手とのちがい (n=293)



使いすぎていないかな (n=297)



これって悪口 (n=300)



写真を公開する前に (n=298)



生活を見直そう (n=287)

動画サイトにはまってしまったら/
SNSからわかることは (n=286)アプリをダウンロードする時は/
マンガをSNSにアップすると (n=286)

匿名でつぶやいていたら (n=290)



夜おそくまでのグループトーク (n=281)



Q19 新しい気づきの有無 [小学5-6年生]

■ たくさんあった ■ 少しあった ■ なかった

0% 20% 40% 60% 80% 100%

自分と相手とのちがい (n=157)



使いすぎていないかな (n=178)



これって悪口 (n=192)



写真を公開する前に (n=240)



生活を見直そう (n=162)

動画サイトにはまってしまったら/
SNSからわかることは (n=159)アプリをダウンロードする時は/
マンガをSNSにアップすると (n=113)

匿名でつぶやいていたら (n=97)



夜おそくまでのグループトーク (n=118)



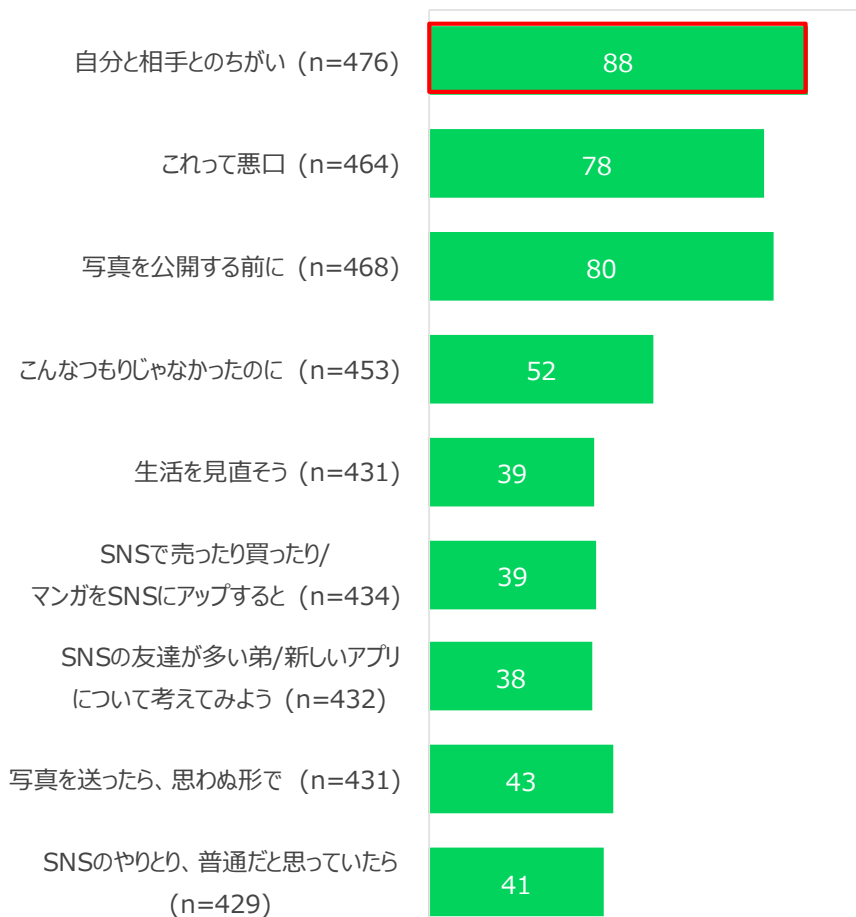
「SNS東京ノート」で学習した内容/気づきの有無 [中学生]

- ・ 受講率は「自分と相手とのちがい」(88%)が最も高く、「写真を公開する前に」(80%)が続く。
- ・ 気づきのあった割合(たくさんあった+少しあった)は、どの単元も8割超となっている。『たくさんあった』割合が最も高いのは「写真を公開する前に」で36%。次いで「自分と相手とのちがい」が34%で続く。

Q19 SNS東京ノートで学習した内容 [中学生]

■ 学習した

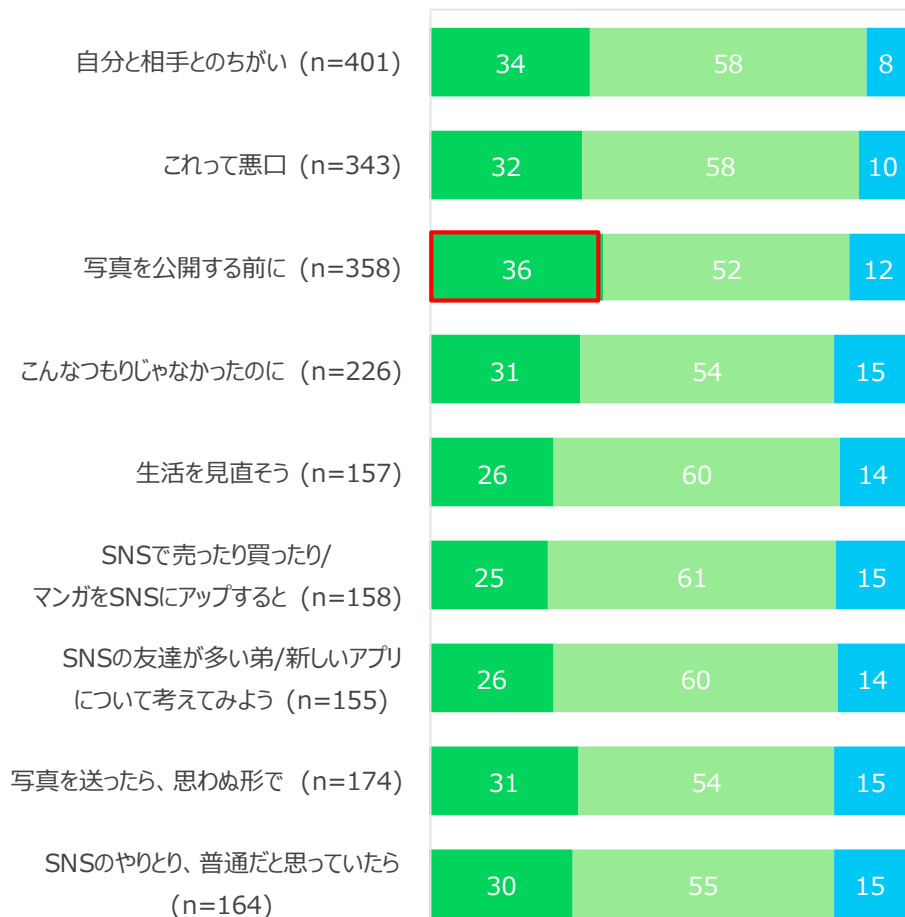
0 20 40 60 80 100



Q20 新しい気づきの有無 [中学生]

■ たくさんあった ■ 少しあった ■ なかった

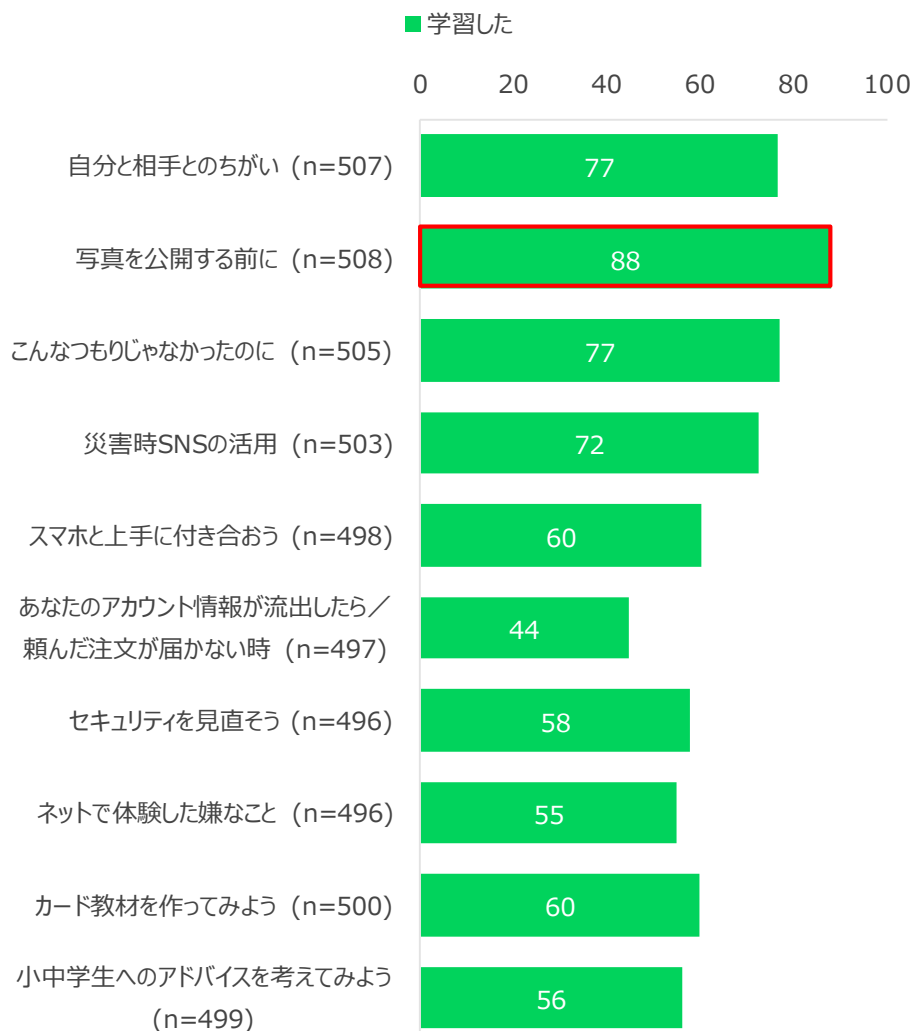
0% 20% 40% 60% 80% 100%



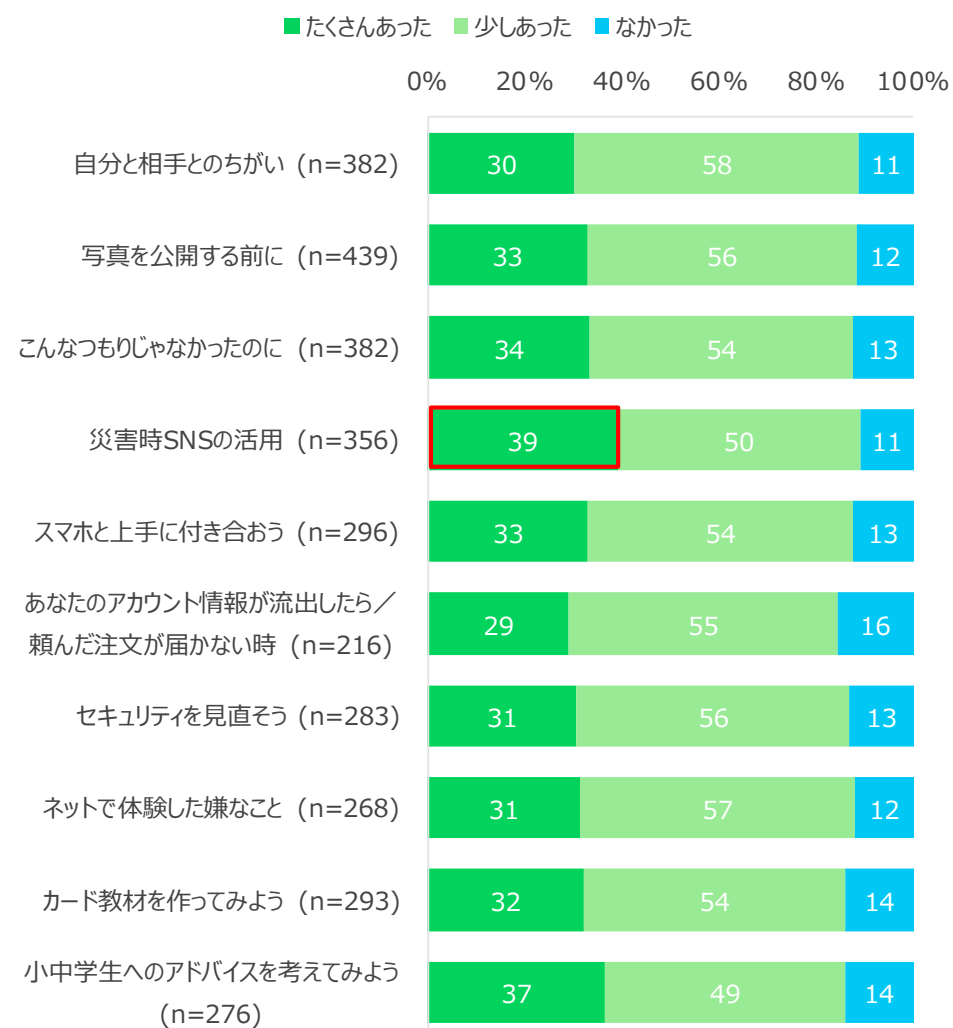
「SNS東京ノート」で学習した内容/気づきの有無 [高校生]

- ・ 受講率は「写真を公開する前に」(88%) が最も高く、「自分と相手とのちがい」「こんなつもりじゃなかったのに」が77%で続く。
- ・ 気づきが『たくさんあった』割合が最も高いのは、「災害時のSNSの活用」で39%。

Q19 SNS東京ノートで学習した内容 [高校生]



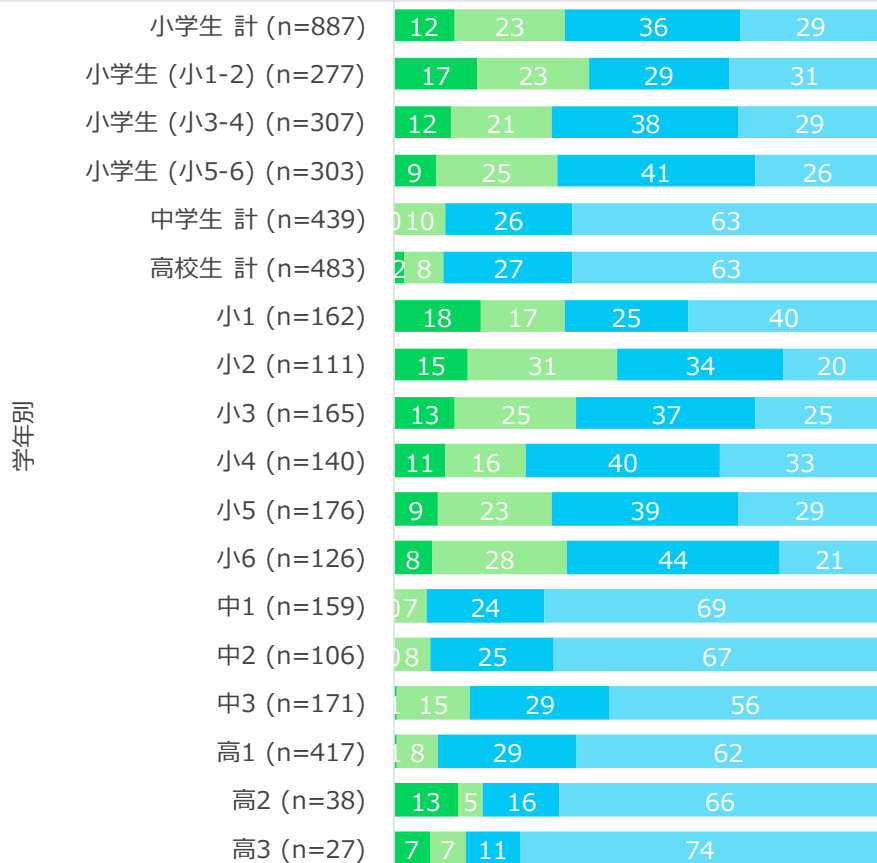
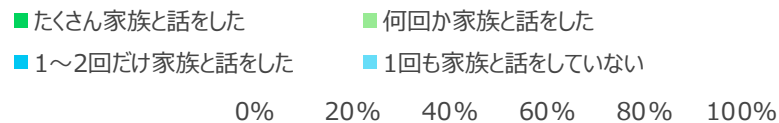
Q20 新しい気づきの有無 [高校生]



「SNS東京ノート」について家族と話をしたか

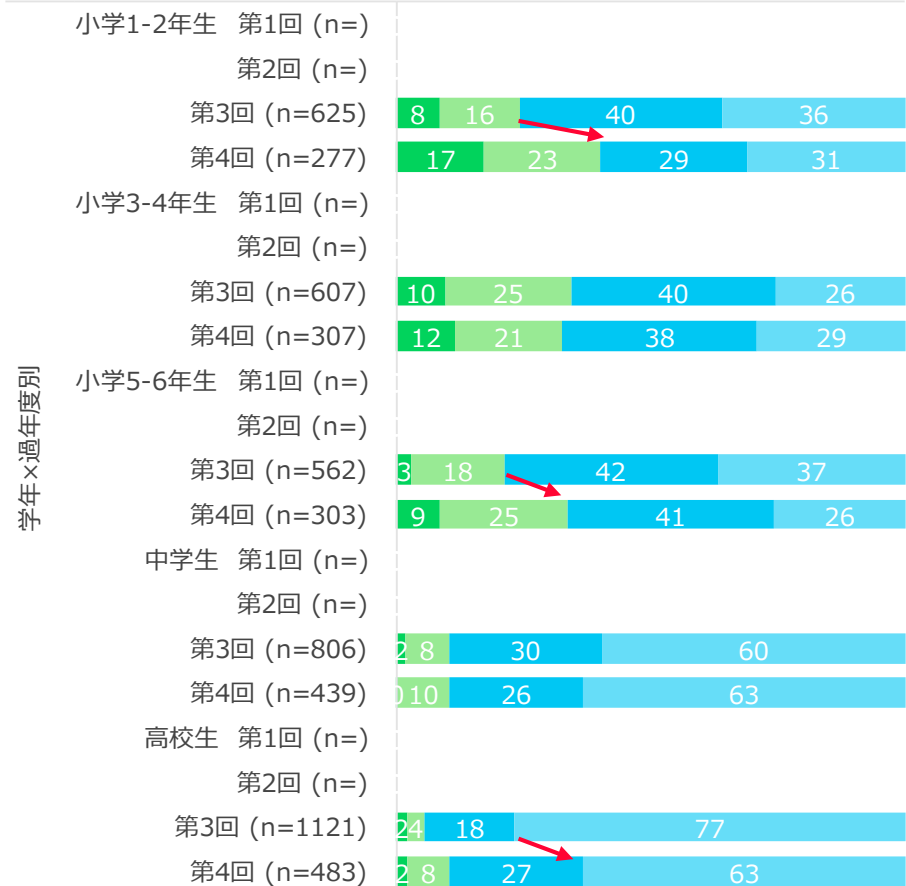
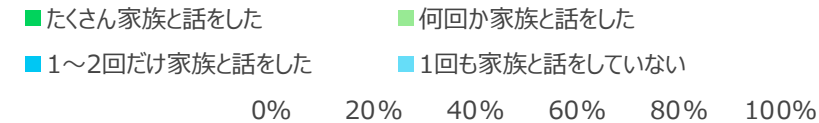
- ・ 小学1-2年生および5-6年生で、「たくさん」～「何回か」話をした割合が、前回から13～16pt増加。
- ・ 高校生では、「たくさん」～「1～2回だけ」話をした割合が前回から14pt増加。

Q21 「SNS東京ノート」について家族と話をしたか



※ベース：2019年の4月以降、「SNS東京ノート」を使った授業を受けた経験あり
[Small samples: n<30]

Q21 「SNS東京ノート」について家族と話をしたか



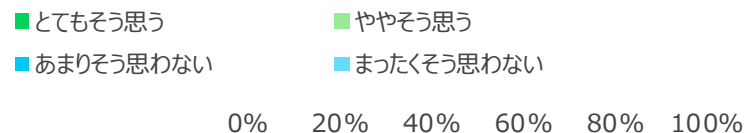
※ベース：「SNS東京ノート」を使った授業を受けた経験あり

SNS東京ノートを使った学習に対する評価「わかりやすかった」

- ・「とても＋ややそう思う」の割合が、高校生で継続的に増加しており、前回からは9 pt増加。
- ・小学1-2年生では、「とてもそう思う」も割合が前回から5pt増加。

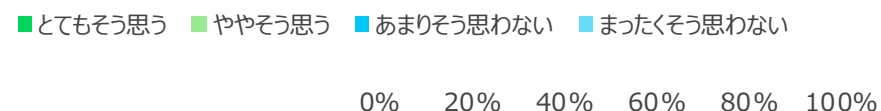
Q22_1 SNS東京ノートを使った学習に対する評価

「わかりやすかった」



Q22_1 SNS東京ノートを使った学習に対する評価

「わかりやすかった」



学年別

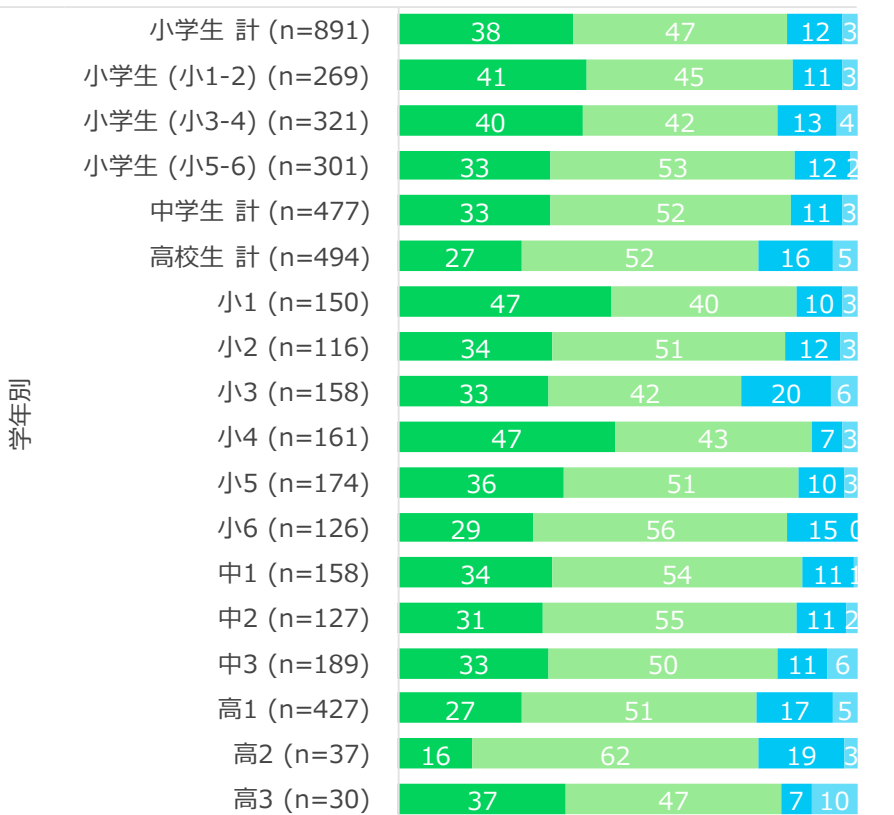
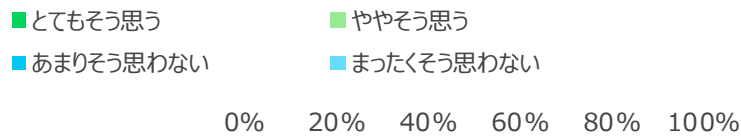
学年×過年度別

SNS東京ノートを使った学習に対する評価「話し合いがしやすかった」LINE みらい財団

- 「とても+ややそう思う」の割合が中学生/高校生で継続的に増加しており、前回から中学生では4pt、高校生では8pt増加。

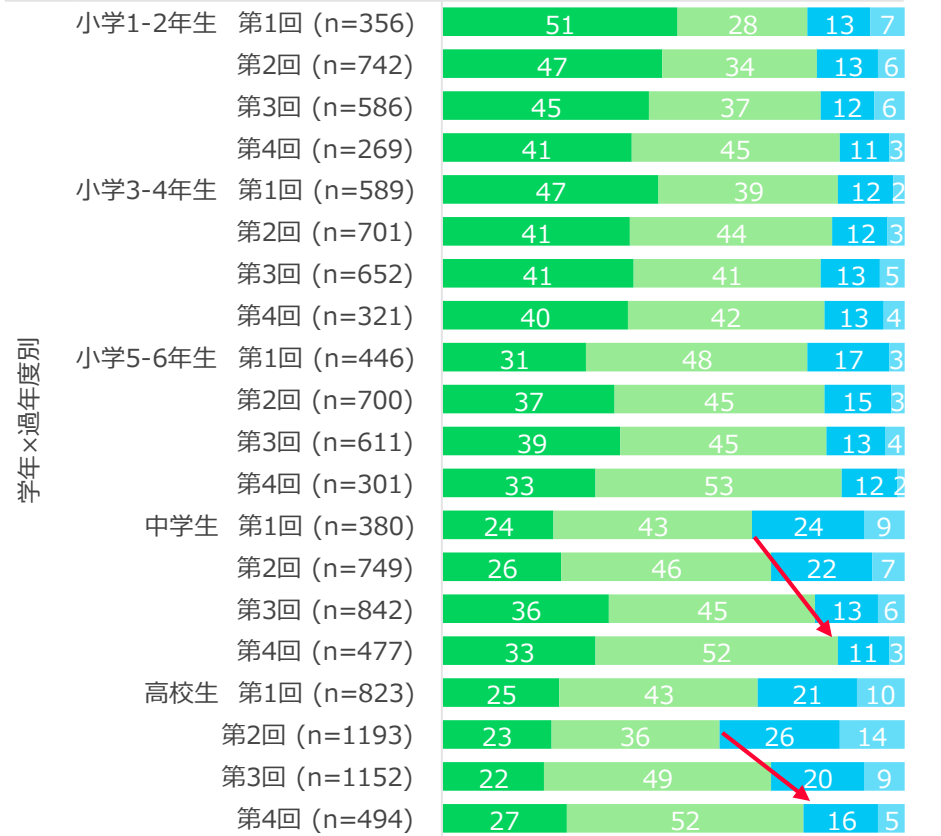
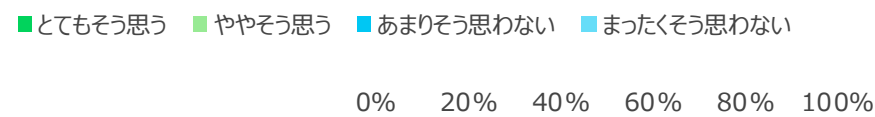
Q22_2 SNS東京ノートを使った学習に対する評価

「話し合いがしやすかった」



Q22_2 SNS東京ノートを使った学習に対する評価

「話し合いがしやすかった」



※ベース：2019年の4月以降、「SNS東京ノート」を使った授業を受けた経験あり

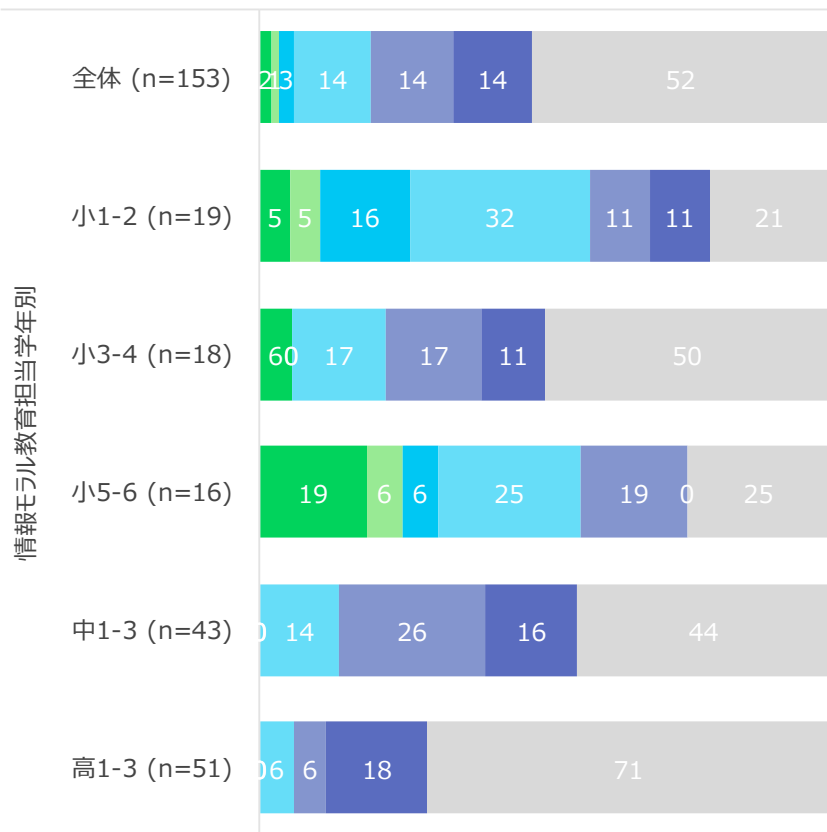
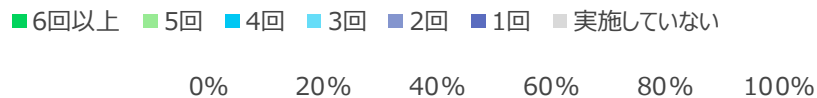
※ベース：「SNS東京ノート」を使った授業を受けた経験あり

SNS東京ノートを使った情報モラル教育の実施状況と評価 〈教員回答〉

「SNS東京ノート」を使用した情報モラル教育 実施回数 (昨年度/今年度の回数)

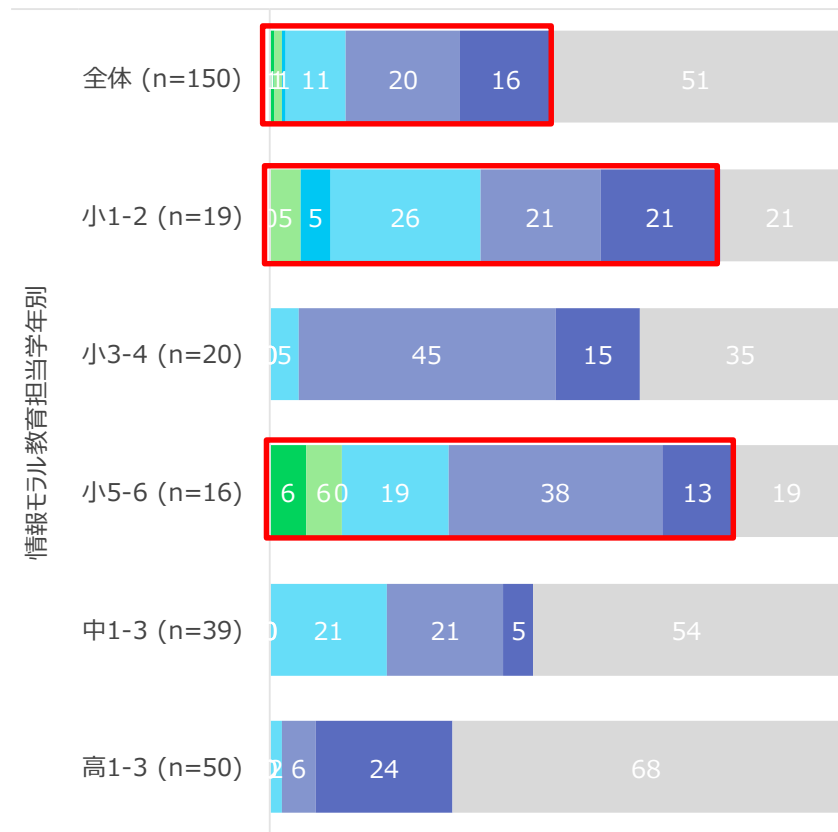
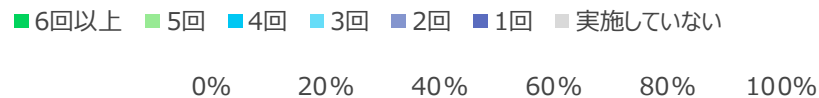
- 回答した教員のうち49%が、今年度「SNS東京ノート」を使用した情報モラル教育を実施している。
- 小5-6年生担当者は、81%が1回以上、69%が2回以上実施しており、担当学年間で最も高い値となっている。次いで小1-2年生担当者が高く、79%が1回以上実施。

Q5 「SNS東京ノート」を使用した情報モラル教育
昨年度の実施回数



[Small samples: n<30]

Q6 「SNS東京ノート」を使用した情報モラル教育
今年度の実施回数



[Small samples: n<30]

「SNS東京ノート」を使用した情報モラル教育を実施した教科

- 小1-2年生/小5-6年生/高1-3年生担当者は、「特別活動」の割合が最も高く、小1-2年生/小5-6年生担当者は7割弱が「特別活動」の時間に行っている。小3-4年生担当者は「特別の教科 道徳」が54%で、中1-3年生担当者は「総合的な学習（探究）の時間」が67%で最も高い。

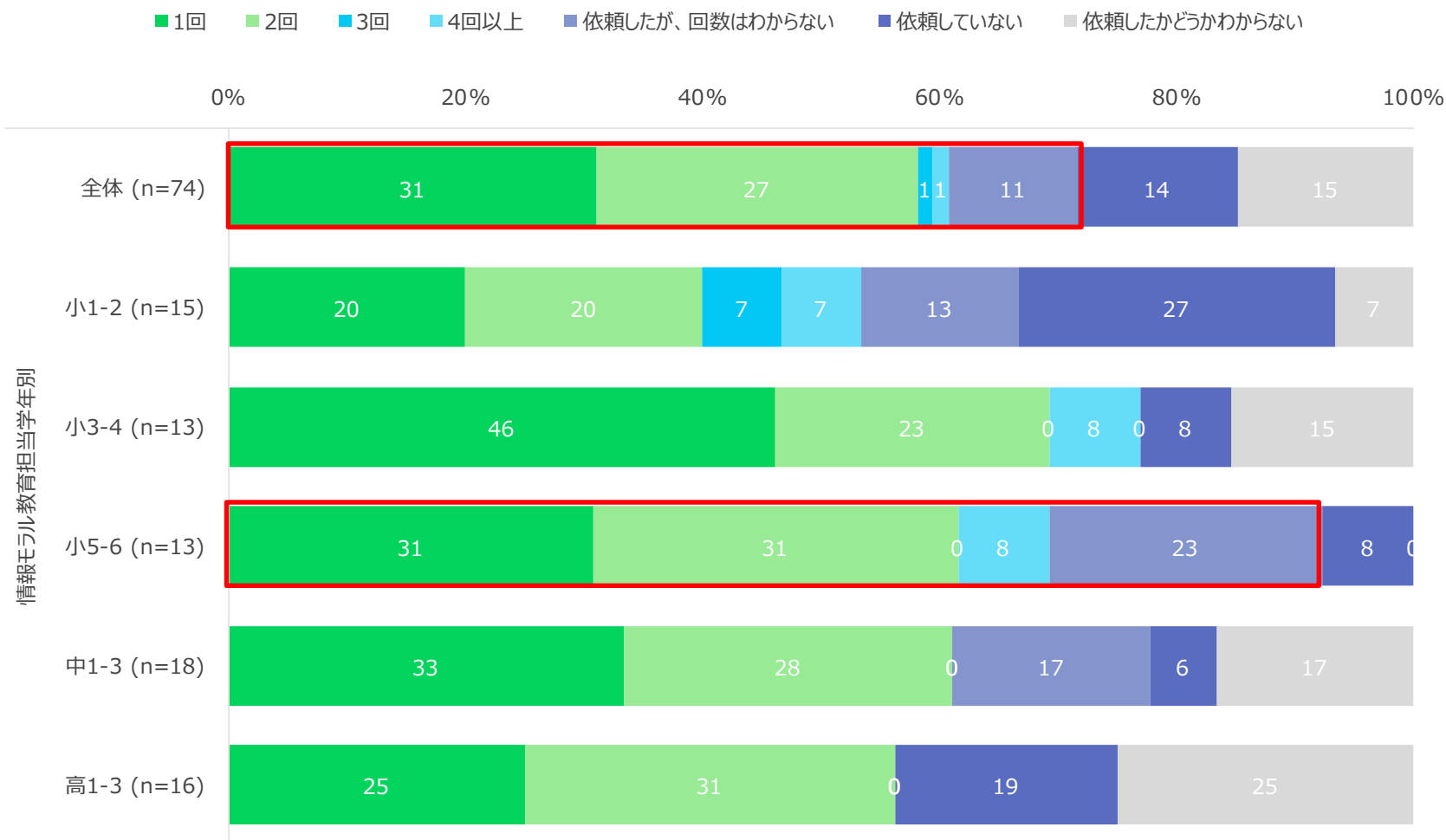
(%) Q7 「SNS東京ノート」を使用した情報モラル教育を実施した教科 (MA)



※ベース：2019年度「SNS東京ノート」を使用して情報モラル教育を実施 (Q6=1-6) [Small samples: n<30]

- 全体では71%が、外部の企業/団体/機関に依頼を行っている。依頼した回数は「1回」が31%で最も多く、1~2回で約6割を占める。
- 外部に依頼している割合が最も高いのは小5-6年生担当者で、9割強が1回以上依頼をしている。

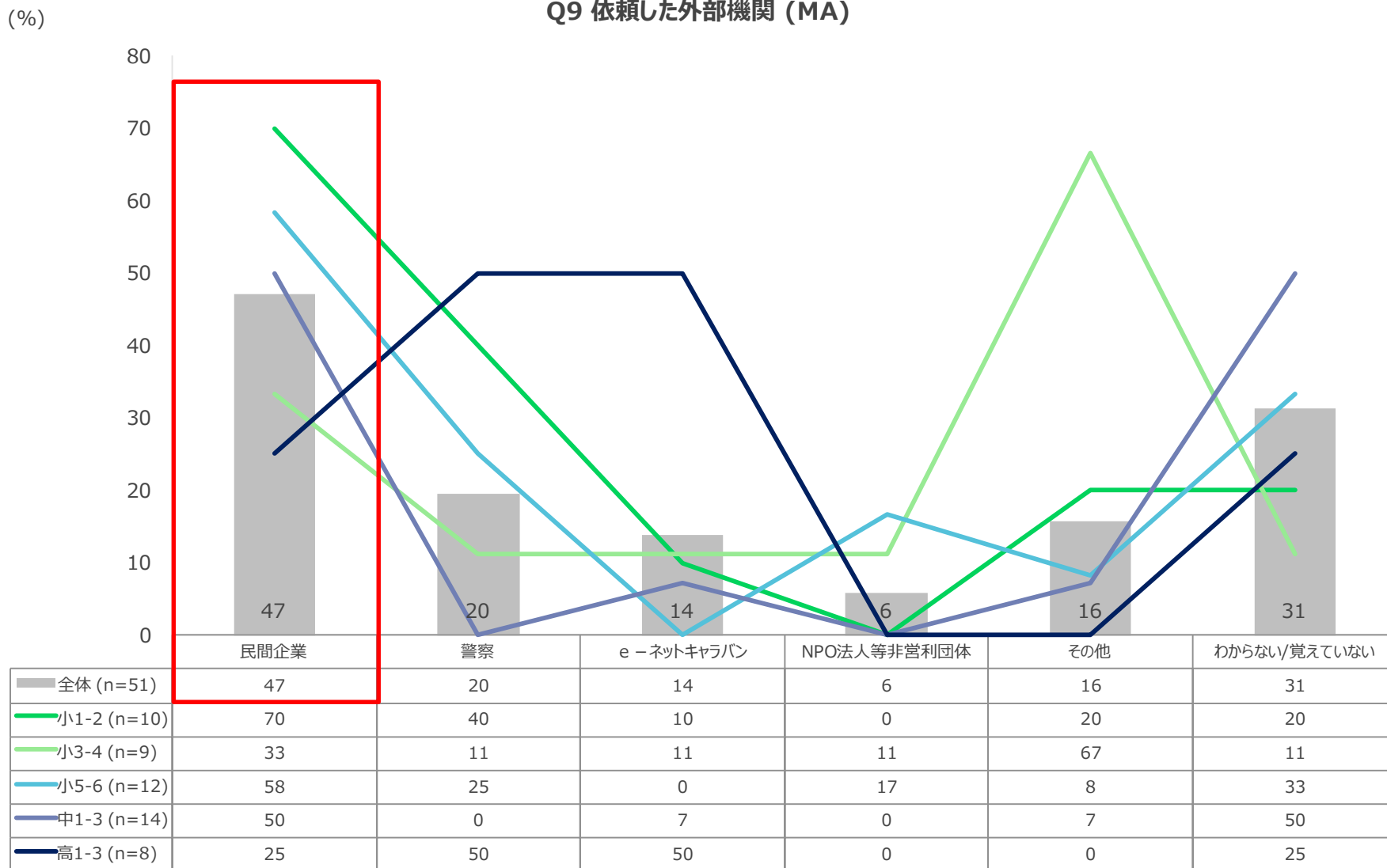
Q8 情報モラル教育を外部の企業/団体/機関への依頼有無&回数



※ベース：2019年度「SNS東京ノート」を使用して情報モラル教育を実施 (Q6=1-6) [Small samples: n<30]

- 全体では、「民間企業」が47%で最も高く、次いで「警察」が20%、「e-ネットキャラバン」が14%で続く。

Q9 依頼した外部機関 (MA)



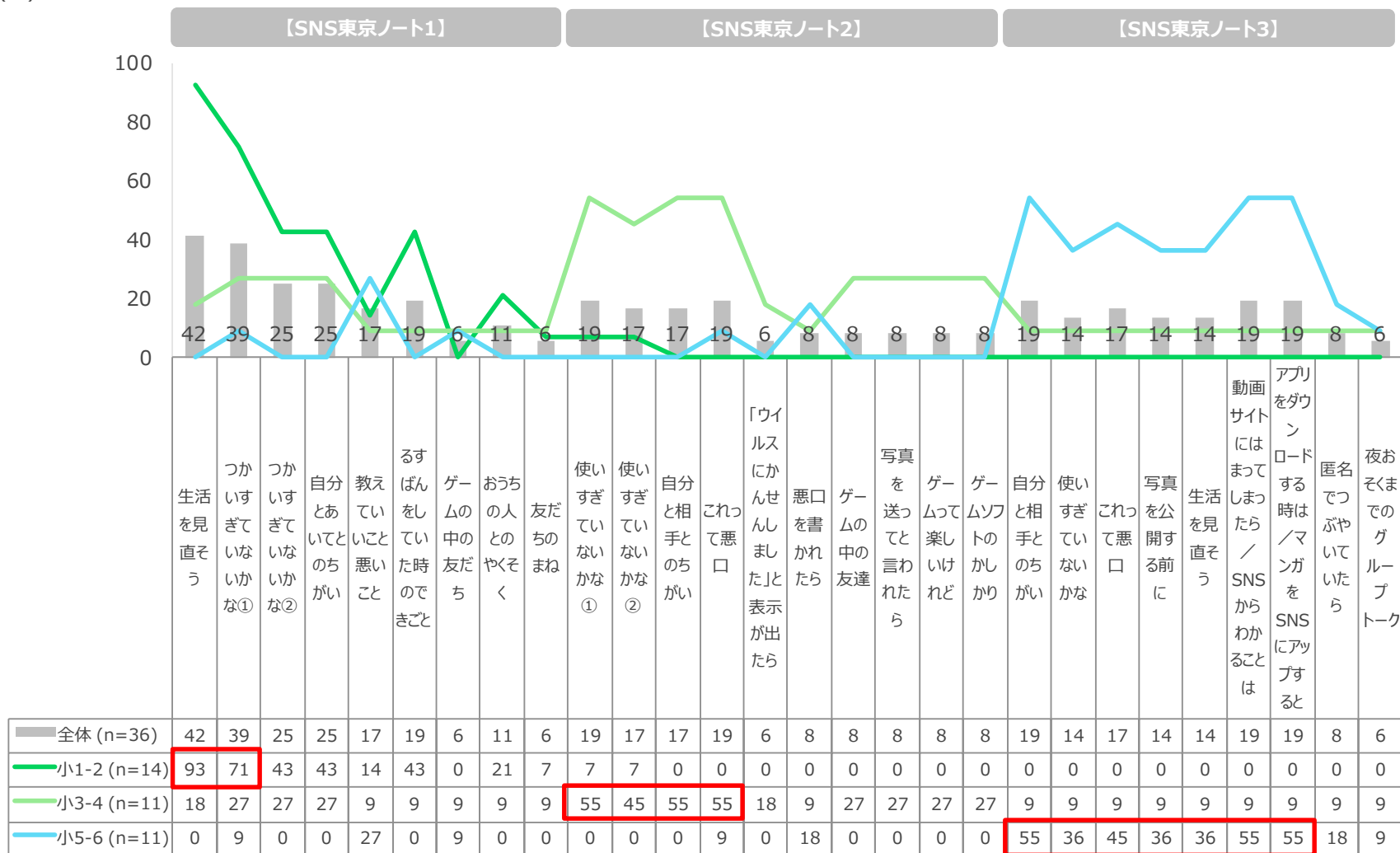
※ベース：情報モラル教育を外部の企業/団体/機関への依頼 (Q8=1-5) [Small samples: n<30]

実施した単元 [小学校]

- 小1-2年生担当者は、【ノート1】の最初の2単元を中心に実施。小3-4年生担当者は、【ノート2】の前半の4単元を中心に実施。小5-6年生担当者は、【ノート3】を幅広く実施しており、最初の「自分と相手とのちがいの他、後半の「動画サイトにはまってしまったら/SNSからわかることは」なども55%が実施。

(%)

Q10 実施した単元 [小学校] (MA)



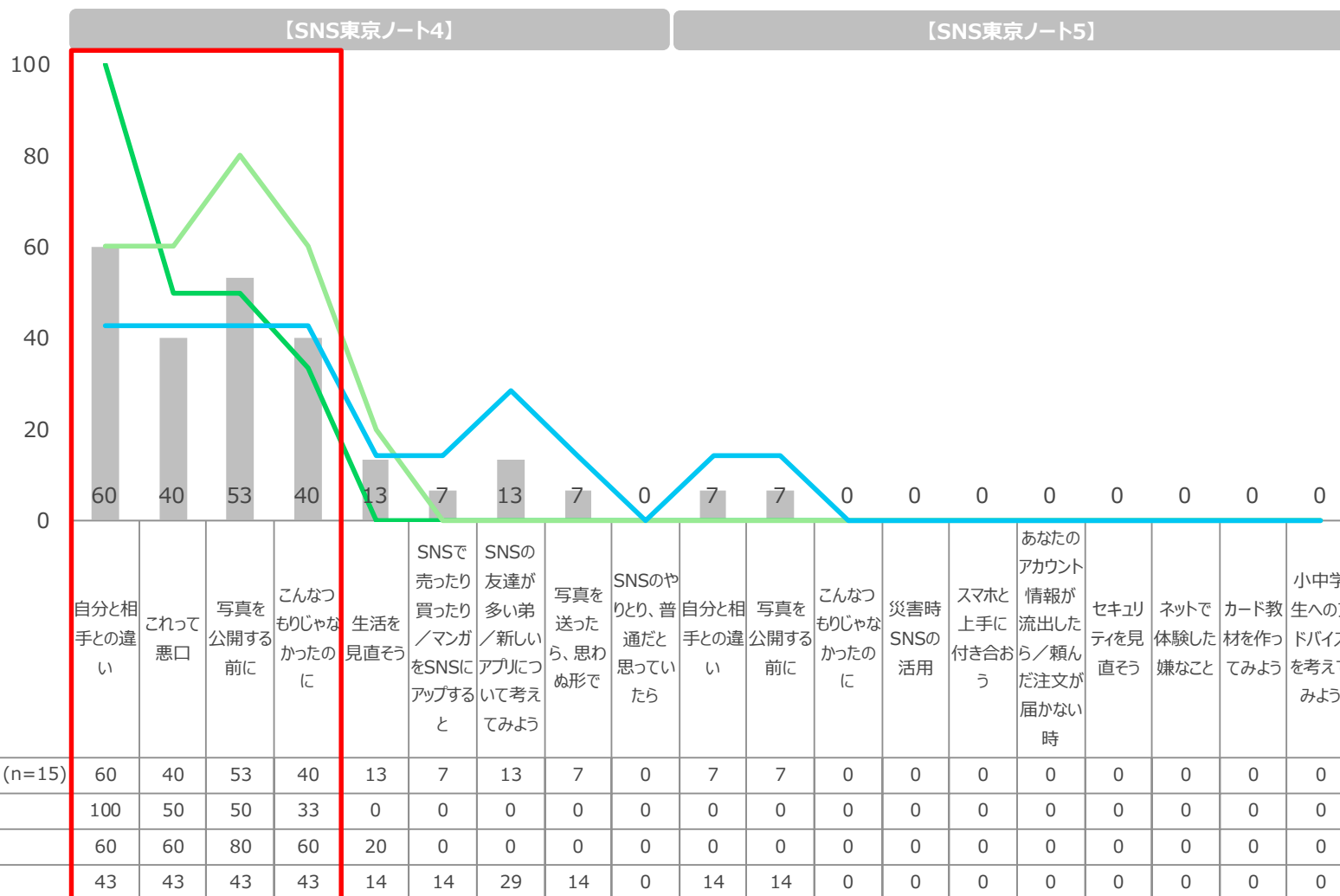
※ベース：「SNS東京ノート」を使用した情報モラル教育実施者 [Small samples: n<30]

実施した単元 [中学校]

- 学年関係なく、【ノート4】の前半の4単元を中心に実施されている。
- 全体で最も高いのは、「自分と相手とのちがい」で60%。

(%)

Q11 実施した単元 [中学校] (MA)



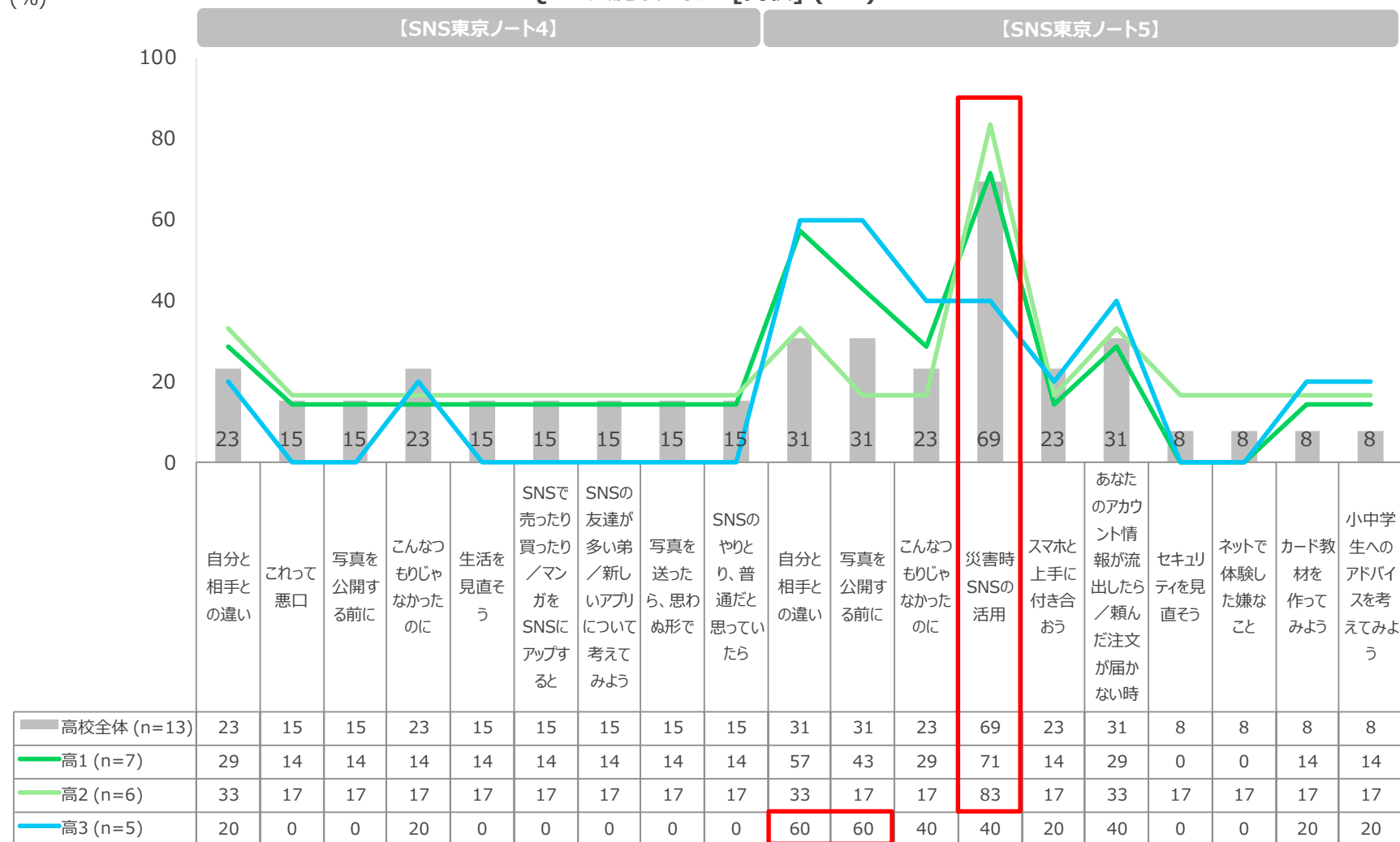
※ベース：「SNS東京ノート」を使用した情報モラル教育実施者 [Small samples: n<30]

実施した単元 [高校]

- 全体で最も高いのは、【ノート5】の「災害時のSNSの活用」で69%。高1-高2担当者は、7割超が実施。高3担当者は、「自分と相手との違い」「写真を公開する前に」が60%で最も高い。

(%)

Q11 実施した単元 [高校] (MA)

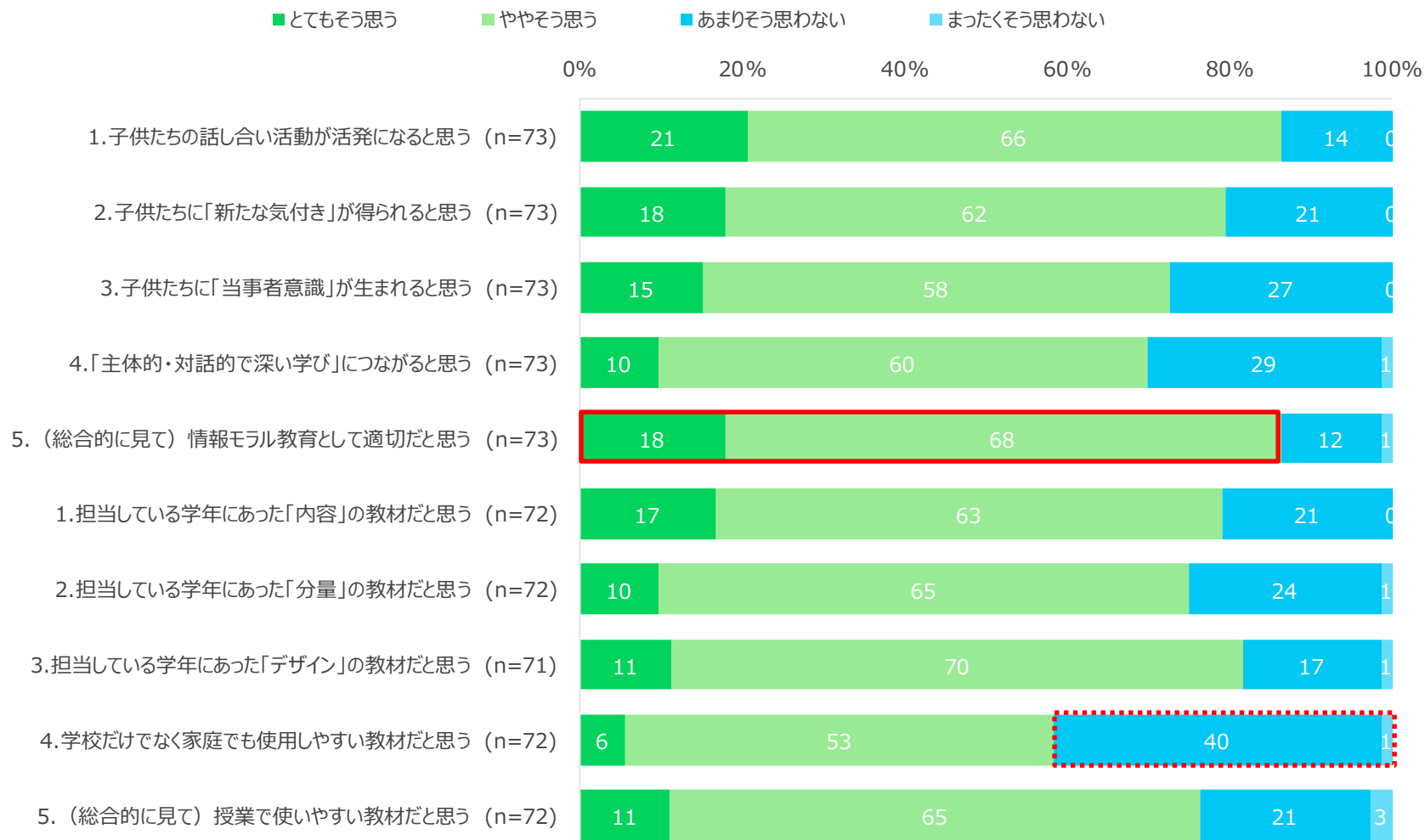


※ベース：「SNS東京ノート」を使用した情報モラル教育実施者 [Small samples: n<30]

SNS東京ノート評価 [全体]

- 相対的にみると、「学校だけでなく家庭でも使用しやすい教材だと思う」だけ評価が低い。その他は、7割超が肯定的に評価。
- 86%が「(総合的に見て) 情報モラル教育として適切だと思う」と評価。

SNS東京ノート評価まとめ [全体]



第4回「SNS東京ノート」効果測定および ネット利用実態把握調査

発行日 2020年11月4日

発行者 一般財団法人 LINEみらい財団
〒160-0022 東京都新宿区新宿4-1-6
JR新宿ミライナタワー23階

共同研究 多摩大学 情報社会学研究所 客員教授 小松正

研究協力 東京都教育委員会